

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL ANNUAL REPORT 2021

熊本労災病院 年報 2021年度



独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院



独立行政法人労働者健康安全機構
熊本労災病院

熊本労災病院 年報 2021年度

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL
ANNUAL REPORT 2021



CONTENTS

理念・基本方針／患者の権利と責務	2
------------------	---

■病院運営状況

院長 猪股裕紀洋	4
病院幹部職員紹介	6

■病院概要

病院概要	8	アクセス	11
病院行事	9	院内のご案内	12
研修・セミナー	10		

■各診療科・部門紹介

呼吸器内科	16	麻酔科	55
消化器内科	18	病理診断科	56
脳神経内科	21	初期臨床研修医	57
糖尿病・代謝内科	22	中央手術部	58
精神科	24	救急部	59
小児科	25	DMAT	60
循環器内科	26	医療安全管理室	62
心臓血管外科	30	感染制御部	64
消化器外科／一般外科	32	地域医療連携部	67
乳腺外科	34	看護部	69
呼吸器外科	36	認定看護師	71
小児外科／移植外科	37	がん相談支援センター	79
脳神経外科	39	看護師特定行為研修	80
整形外科	40	薬剤部	81
形成外科	42	中央リハビリテーション部	83
皮膚科	43	中央放射線部	86
泌尿器科	44	中央検査部	88
産婦人科	46	栄養管理部・栄養管理室	91
耳鼻咽喉科	48	中央臨床工学部	95
眼科	51	事務局	97
リハビリテーション科	52	ボランティア	98
放射線科	53		

※「スタッフ紹介」「診療体制」については令和4年9月1日現在

■臨床業績

患者数等	100	高度医療	114
疾病構成	104	救急医療	116
院内がん登録データに係る統計	110	地域医療	117

理 念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。

患者の権利と責務

【患者の権利】

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。また、分からないことがあれば質問をすることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます(セカンドオピニオン)。
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

【患者の責務】

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けることができるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

病院運営状況



熊本労災病院



院長挨拶

熊本労災病院 院長

猪股 裕紀洋

2021年度の熊本労災病院年報をお届けいたします。今年も発刊が遅れて申し分けありません。この機会に、院長として、いくつかの項目に分けて、病院運営での昨年度を振り返りたいと思います。

1. COVID-19

昨年度は、やはり新型コロナウイルス感染症＝COVID-19、を抜きにしては語れない年でした。2021年度は、前年より多数の陽性入院患者さまを受け入れ、また多くの発熱外来患者さまにも対応してきました。陽性入院患者数を振り返ると4月から6月、7月から9月、1月から3月、という三つの波が見られます。いずれもそれぞれ400-500名の延べ数があり、年度内では合計201日で一人以上の入院患者があり、その延べ総数は1,668人・日、年度最多は1月末の39人でした。院内クラスターも発生し、入院患者さまや周辺医療機関の皆様にはいへんなご迷惑、ご心配をおかけしましたことをあらためてお詫び申し上げます。この間、中央4病棟でほとんどの陽性患者さまを引き受けていただいたほか、また一般の患者さまを空き病床を探して通常と異なる病棟に容れることにもたくさんの職員に御協力いただきました。蔓延時期に特に多く見られた発熱外来への患者集中や、地域住民への集団ワクチン接種など

でも、職員をあげて対応していただけてきました。感染対策は労災病院の本来ミッションとは異なる、という考え方も一部にはあったかもしれませんが、地域に存立するこの病院の当然の責務と思って意気に感じて多くの職員が参画してくれましたことを、誇りをもってご報告したいと思います。

2. 診療面、特に救急医療

COVID-19に影響を受けつつも、一般診療でも安定的な役割を果たしました。手術件数はさすがに前年度より若干減少しましたが、救急車搬入は3,949台となっていて、前年と大差ない受け入れを行っています。八代圏域外からの救急車搬入が年間約700台と、前年度より50台程度増加しており、県南全域からの搬入受け入れ実態が顕著になりつつあります。ヘリポートも、年度計31件の利用があり、水害があった前年度よりは減少していますが、防災ヘリ、ドクターヘリ両者に対応できるその意義を遺憾なく発揮しました。CPA（心肺停止）患者の救急車搬入も時々ありますが、その都度研修医にも集合の呼びかけが全館放送を通してかかり、救急車到着時には救急室が医師看護師でごった返すような状態となって総力をあげて蘇生に尽力しています。この光景から、労災病院職員の連携の良さや献身的姿勢を強く感じざるを得ません。ただし、まだまだ職員

数は潤沢ではありません。特に、救急専門医の常勤招聘が未だ果たせていないことは引き続き大きな課題であり、今後も熊本大学の医局のご支援も仰ぎながら、さらに努力していきたいと存じます。

また、八代市の仲介で、2022年度から常勤がいなくなる、八代市立椎原診療所への医師派遣について、2021年度後半に市内の医療機関で協議を行いました。その結果、毎週1日、当院からも医師派遣を行う事で合意し、現在、呼吸器内科所属で産業医の清水ゆかり先生が勤務しています。当院としては、初めての、公的機関への恒常的な医師派遣事業となりました。今後、このように、地域の基幹病院としての役割も新たに担う責務を感じています。

3. 施設整備

2021年度には、雨漏りがひどかった古いハビリ棟の屋上防水工事は完了し、雨漏り受けのバケツはかなり減少しました。また、玄関ホールの床の張り替えなど、細かい改修作業を行ってきました。しかし、30年以上経つ、手術室を含む東西棟の古さと狭さは、当院のハード面での大きな課題として残されています。2021年度は法人本部からの視察もいただき、この課題と現状についての情報共有を行う事ができました。今後、病院経営全体にも関わるこの大きな課題=改築改修に果敢に前向きに取り組んでいきたいと思っています。

4. 教育研修

COVID-19の影響で、各種の人の集まりが制限され、可能な限りのweb上での講演会などが開催されてきました。地域医療連携の会の一環として予定していた熊本大学呼吸器内科坂上拓郎教授によるCOVID-19関連の講演会も、院内でご講演はいただきましたが、外部の先生にはオンデマンド配信となりました。県内随一の専門家による貴重な講演会で、残念ではありましたが、逆に多くの皆様にご視聴いただけたのではないかと考えております。そ

の他、緩和ケア研修会も中止となりました。今後、感染の鎮静にともなって再活性化したいと思います。2021年度、初期研修医は8人のフルマッチとなり、現在2年生となって活躍しており、2022年度も幸いフルマッチでしたので、総勢16名の基幹型研修医が現在元気に修練に励んでいます。また、特定看護師研修も開始後2年経過し、各年度2名ずつの修了者が看護師の範疇を超えた役割を担って活躍中です。

熊本大学医学部の地域医医療実習も担当しており、2021年度も、5-6年生が各3週間にわたって継続的に院内各所で研修を受け、八代市中での基幹病院としての地域医療、さらには特色ある勤労者医療の実際をつぶさにみていってくれています。

5. 勤労者医療など

産業医は、八代市内の複数の事業所で、嘱託産業医活動を継続しました。また、林業を中心にした振動健診、い草も原因となるじん肺の予防・治療、アスベスト傷害の健診活動など、労災病院ならではの、の産業保健領域でも継続して活動を行っています。政策医療の一環として一般医療機関に先駆けて発足した「治療と就労の両立支援」相談窓口も年間100件ほどの面談を行っています。これもコロナ禍で減少しましたが、がんや心不全治療などにも伴う、就労継続問題でお困りの勤労者はなお少なくなく、労災病院としてさらに事業を拡充していきたいと思っています。

以上、2021年度の活動概略を記載しました。詳細は、各科・部門の記載をご覧ください。日頃より、熊本大学、産業医科大学や、県・市などの行政、多くの地域の医療機関の皆様、さらに地域の住民の皆様のご支援をいただいております。職員を代表して深く感謝申し上げますとともに、これからも熊本労災病院はますます勢いをもってがんばります、とお誓いをして、2021年度年報のご挨拶といたします。

病院幹部職員紹介

■院長



猪股 裕紀洋

(兼 勤労者医療総合センター長)

■副院長



池田 天史

(医事業務、施設基準、救急・災害医療、診療事務補助者管理、設備改修、機器整備 等)



佐々木 雅人

(医療安全、薬事、治験、倫理、広報誌編集 等)



松村 敏幸

(教育研修、患者サービス、地域連携、労災疾病、外来検診体制整備 等)

■看護部長



福松 之敦

(産婦人科診療体制整備、広報 等)



葉玉 博子

■事務局長



木村 幸司

病院概要



病院概要

(令和4年6月1日現在)

病院概要

名称	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	
所在地	〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地	
電話番号	TEL:0965-33-4151(代表) FAX:0965-32-4405	
開設承認	昭和29年2月8日	
開設者	独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹	
管理者	院長 猪股 裕紀洋	
病床数	410床	
職員数	医師107名(うち基幹型研修医16名)、看護職441名、医療職117名、事務職66名、その他23名	
診療科 (26診療科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・代謝内科、精神科、小児科、循環器内科、心臓血管外科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科	
指定医療機関等に関する事項	地域がん診療連携拠点病院(国指定)、地域災害拠点病院(熊本DMAT指定病院)、救急告示病院(二次救急医療機関)、臨床研修指定病院、地域医療支援病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心血管疾患急性期拠点病院、心血管疾患回復期医療機関、地域産科中核病院、小児地域医療センター、熊本県地域医療拠点病院、難病基幹協力病院、在宅療養後方支援病院	
認定施設	日本医療機能評価機構認定施設(3rdG:Ver.2.0) 日本内科学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会基幹施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設 浅大動脈ステントグラフト実施施設 日本神経学会専門医教育関連施設 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 NCD参加施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設 日本小児外科学会小児外科専門医研修教育関連施設B 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 日本胸部外科学会教育施設	胸部ステントグラフト実施施設 腹部ステントグラフト実施施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本脳神経外科学会連携施設 日本皮膚科学会認定専門医制度教育研修施設 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設(補完施設) 日本産科婦人科学会専門医研修連携施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本病理学会登録施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 日本脳ドック学会認定施設 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設 脳死下臓器提供認定施設
施設概要	敷地面積：26,681.86㎡ 延床面積：30,193.10㎡	
駐車台数	664台	

令和3年度 病院行事

開催日	内容
4月6日	看護師特定行為研修開講式
5月12日	看護の日行事
6月25日	敷地内清掃活動
9月1日	永年勤続者表彰式
9月29日	JA熊本経済連様より冷凍炒飯、お茶寄贈
10月1日～31日	ピンクリボン運動
10月11日～18日	グリーンリボンキャンペーン
10月27日	防火(消防)訓練
11月10日	八代がんサロン秋桜COSMOS 11周年記念イベント
11月13日	院内災害訓練
11月24日～26日	医療安全推進週間
12月23日	くまモン来院in労災病院クリスマス会
1月4日	仕事初め式
2月9日	JAやつしろ様よりトマト、乳飲料寄贈
3月14日	JAやつしろ様よりいちご寄贈
3月18日	定年退職者を送る会
3月17日	臨床研修医症例発表会・修了証授与式
3月24日	看護師特定行為研修閉講式



JAやつしろ様より寄贈(いちご)



JAやつしろ様より寄贈(トマト)



JAやつしろ様より寄贈(乳飲料)



JA熊本経済連より寄贈(炒飯)



グリーンリボンキャンペーン



ピンクリボン運動



院内災害訓練



永年勤続者表彰式



看護師特定行為研修開講式



看護師特定行為研修閉講式



小児科病棟クリスマス会



定年退職者を送る会



敷地内清掃活動



防火(消防)訓練



臨床研修修了式

令和3年度 研修・セミナー

開催日	内容
6月10日	災害対策研修会
6月29日～7月31日	令和3年度熊本労災病院「地域医療連携の会」(動画配信)
7月15日～8月16日	第1回院内医療安全研修会(e-learning配信)
8月1日	肝がん撲滅運動市民公開講座「肝がん0を目指して」
8月21日	令和3年度熊本労災病院緩和ケア研修会
10月8日～31日	第1回院内感染対策研修会(e-learning配信)
10月19日	災害対策研修会(多数傷病者受入机上訓練)
11月24日～12月20日	第2回院内医療安全研修会(e-learning配信)
1月13日	院内漢方研修会
1月25日～2月18日	保険診療に関する講習会(e-learning配信)
3月1日～18日	令和3年度認知症・せん妄ケア院内研修(e-learning配信)
3月8日～31日	第2回院内感染対策研修会(e-learning配信)
3月10日～31日	医薬品安全使用のための研修会(e-learning配信)



緩和ケア研修会



肝がん撲滅運動市民公開講座



机上訓練



災害対策研修会

アクセス



交通機関

- 産交バス 新八代駅西口より八代市役所前行、又は、労災病院行に乗車、
労災病院前下車(所要時間約5分)
- タクシー 新八代駅より乗車(所要時間約3分)
- 乗用車 八代インターより(所要時間約5分)
※新八代駅西口より徒歩約10分

診療時間

- 外来受付時間 午前8:15～11:00
- 休診日 土曜・日曜・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)

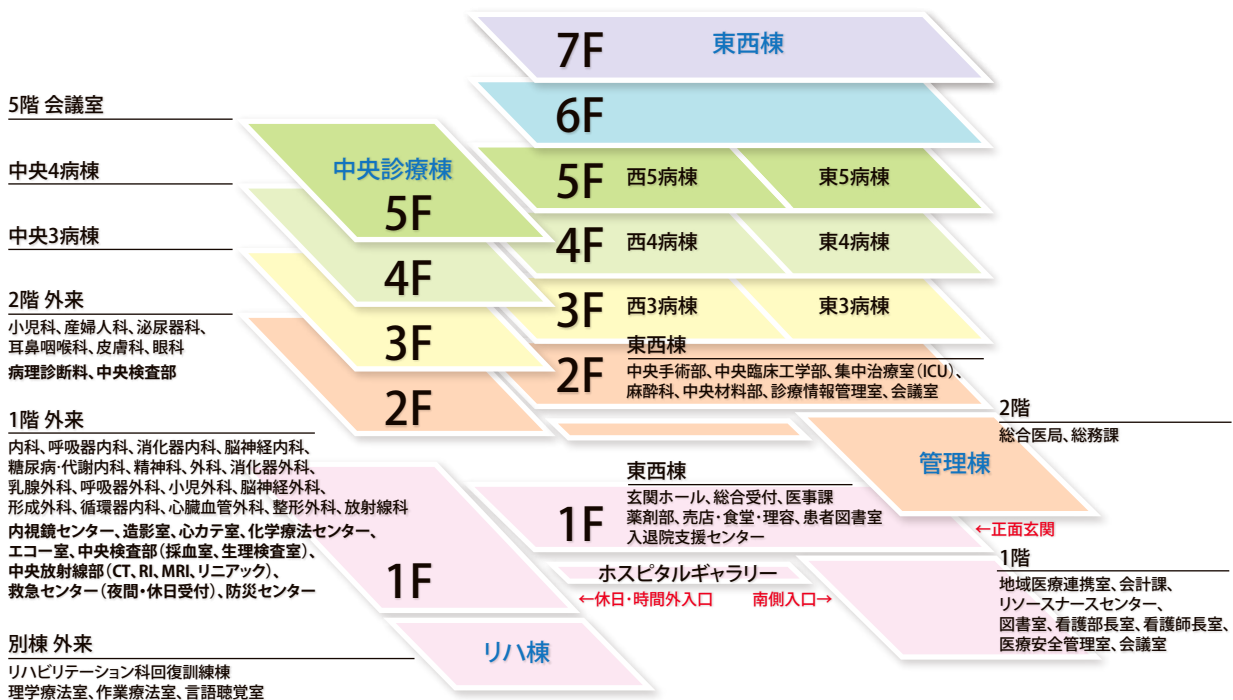
院内のご案内

施設紹介

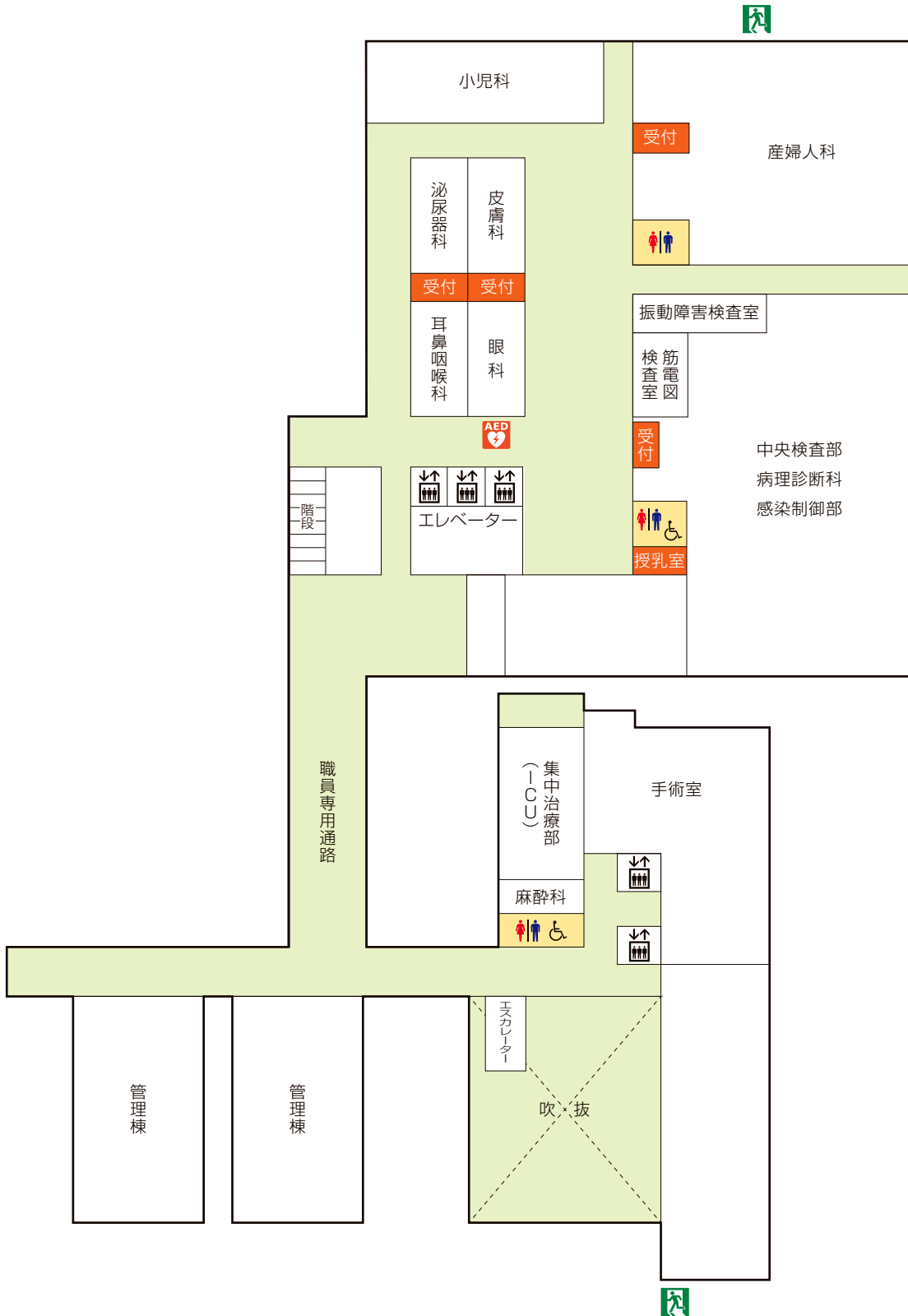
病院概要



各階案内図



2階



各診療科・部門紹介



呼吸器内科

スタッフ紹介



呼吸器内科部長
(アスベスト疾患センター長、
感染制御部長)
安道 誠

【専門分野】呼吸器一般、感染症、救急医療
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会専門医・指導医、AHA-BLS/ACLSインストラクター、インфекションコントロールドクター



第二呼吸器内科部長
山根 宏美

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医



腫瘍内科部長
丸山 広高

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本呼吸器内視鏡学会

呼吸器内科副部長

中山 剛

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本肺癌学会、嚥下リハビリテーション学会、嚥下機能評価研修会修了、緩和ケア、第20回熊本大学病院群臨床研修指導医研修ワークショップ修了

勤労者医療総合センター医、呼吸器内科医師(兼務)

清水 ゆかり

【専門分野】呼吸器一般 【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、産業医

呼吸器内科医師

川口 紘矢

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師

内藤 大貴

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師

井村 昭彦

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本呼吸器学会、緩和ケア研修会修了

呼吸器内科医師

鍬崎 恵里子

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医

呼吸器内科の特色

常勤医師9名で、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般に関して、県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。2001年から2021年の年度別呼吸器内科の入院患者総数は403名→1,225名と大幅に増加し、高齢化社会を反映して肺炎・胸膜炎などの感染症が165名(40.9%)→399名(30.6%)と最も多くの割合を占めています。肺癌は、化学療法の進歩で延命効果も高く入院患者数も97名(24.1%)→317名(25.9%)と増加しています。最新の超音波気管支ファイバービデオスコープシステムを導入して従来のTBLBやEBUS-GS法による肺病変の生検に追加して、EBUS-TBNAによる縦隔・肺門リンパ節の質的診断も行っており、正診率の向上に努めています。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患は治療の中心となる吸入薬の進歩により外来での治療コントロールが良くなり、46名(11.4%)→30名(2.3%)と入院割合としては減少し、殆どは救急や他院からの紹介入院です。自然気胸は7名(1.7%)→19名(1.6%)で、必要時は当院呼吸器外科での手術も行っています。間質性肺炎は特発性・膠原病関連・薬剤性等も含めて12名(3.0%)→56名(4.6%)と増加しています。その他の疾患は膠原病・不明熱・感染症等で69名(17.1%)→404名(33%)と入院数としては増加して、総合内科的な役割も担っています。特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等で県外からも広く患者様の紹介を受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助を行っています。

呼吸器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
(午前中)					
呼吸器内科	山根	安道	丸山	安道	中山
総合内科/再診		井村	内藤		
再診	中山	川口		山根	鎌崎
腫瘍内科			丸山		丸山
(13:30~16:00)					
特殊外来			禁煙外来 山根		

診療実績

(1) 患者数等 (令和3年度年間患者数)

新入院患者数	1,225人(3.4人/日)	
延入院数	19,719人(54.0人/日)	
割合	肺炎・胸膜炎	32.6%
	悪性疾患(肺癌など)	25.9%
	間質性肺疾患	4.6%
	喘息・COPD	2.3%
	気胸	1.6%
	その他	33.0%
平均在院日数	16.3日	
外来患者数	11,783人(48.7人/日)	
再掲	新患	2,143人(8.9人/日)
	再診	9,640人(39.8人/日)

(2) 検査実績 (令和3年度年間実績)

気管支鏡検査数	280件	
再掲	TBLB/TBB	139件
	BAL	62件
CTガイド下肺生検	2例	

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 地方じん肺審査医 安道 誠、伊藤 清隆
- 県南結核審査会委員 安道 誠

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第87回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽種性疾患学会 九州支部秋季学術講演会
日程・会場 令和3年10月、熊本
発表者 川口紘矢、内藤大貴、清水ゆかり、藤田良佑、鎌崎恵里子、丸山広高、山根宏美、安道誠、伊藤清隆
題名 特発性器質化肺炎との鑑別を要した肺クリプトコッカス症の1例
- 学会名 第87回日本呼吸器学会・日本結核非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽種性疾患学会 九州支部秋季学術講演会
日程・会場 令和3年10月、熊本
発表者 清水ゆかり、川口紘矢、福島一晃、丸山広高、山根宏美、安道誠、伊藤清隆
題名 結節性硬化症に伴う多巣性微小結節性肺細胞過形成の経過観察中に巨大ブラが生じた1例

座長

- 第3回熊本呼吸器リモート講演会
安道 誠(令和3年5月、熊本)
- 八代市群医師会学術講演会
安道 誠(令和3年6月、熊本)

論文発表

- 雑誌名 日本呼吸器学会誌 2021;10(6):499-502
発表者 清水ゆかり、川口紘矢、福島一晃、丸山広高、山根宏美、安道誠、伊藤清隆
題名 結節性硬化症に伴う多巣性微小結節性肺細胞過形成の経過観察中に巨大ブラが生じた1例

認定施設等

- 日本内科学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

消化器内科

スタッフ紹介



副院長
消化器内科部長
佐々木 雅人

【専門・認定・資格・所属学会】医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医・暫定指導医



内視鏡科部長
千代永 卓

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

消化器内科副部長
池邊 賢一

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本胆道学会、日本膵臓学会

消化器内科副部長
市川 亮

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

消化器内科医師
水田 馨

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会

消化器内科医師
日隈 ゆかり

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会

消化器内科医師
米田 暁

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科の特色

当科は消化器疾患全領域を診療しています。2021年度のスタッフ数は7名。火曜は大学病院から消化管専門医師の応援を頂いています。

消化管系ではNBI・拡大内視鏡検査やEUS/FNA、カプセル内視鏡、小腸内視鏡、CT colonographyなどの特殊検査も行います。上下部消化管のEMRやESD、食道胃静脈瘤治療(EVLやEIS)、イレウス管留置、消化管ステント留置、胃ろう造設術・交換などを行っています。胆膵系では、ERCPとIDUSを含む関連検査・処置のほか、EUS、EUS-FNAによる診断と治療を行っています。胆道閉塞性疾患にはERCPによる碎石術、ERBDやENBD、ERGBD、金属ステント留置、PTCD・PTGBDを行っています。また2021年にはSpy-Glassを導入しました。肝疾患では肝疾患センターを設け、ウイルス肝炎に対する最新の抗ウイルス療法を行い、肝癌撲滅のための市民公開講座や肝炎サロンなどによる啓発活動を通して肝炎の発見・治療、肝硬変・肝癌への進行阻止に力を入れています。また、院内での全入院患者に対するB型肝炎、C型肝炎拾い上げシステムを2018年1月より稼働させています。

また毎週、消化器内科、一般外科・移植外科、放射線科との合同カンファで治療方針を検討し、さらに術後報告を共有することで情報共有し、正確で偏らない診断と治療につなげ、若い医師のスキルアップを行っています。このトリオはいつも一緒に仲が良く楽しい職場環境です。

消化器内科、一般・移植外科、看護部、薬剤部が参加する消化器がんサージカルボードでは、進行癌治療に対する治療方針を多角的な目線で検討・決定し、手術が困難な症例にはポート造設から包括的化学療法、緩和ケアまでを行っています。

内科は、消化器内科、呼吸器科、代謝内科、脳神経内科の4科で「大内科制」をとっており、各グループの専門分野から外れた患者様の診療も行っています。抄読会も一緒に行っているため専門外の耳学問も可能です。初期研修医(8~9名)は初めの半年間まずこの4科をローテーションします。師長が参加しての消化器内科カンファレンス、外科、放射線科とのHCCカンファレンスも定期的に行っており、他科との連携が非常に緊密であることが、当科の特徴となっています。

消化器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
外来	千代永	千代永	佐々木	池邊	佐々木
外来	池邊	市川	日隈	市川	水田
			米田		
PEG相談	水田/ 米田		米田/ 水田		

診療実績

患者数等（令和3年度実績）

1日平均入院患者数（36.1人/日）

1日平均外来患者数（50.8人/日）

手術実績

（内視鏡）

症 例	件数
食道ESD	2件
胃ESD	12件
大腸EMR/ポリペクトミー	215件
大腸ESD	33件
胃ろう造設術	16件

検査/治療実績

症 例	件数
上部内視鏡検査	2,333件
下部内視鏡検査	1,536件
ERCP	213件
EUS	217件
EUS-FNA	14件

超音波検査/治療

検 査	件数
腹部超音波	3,959件
腹部造影超音波	25件
肝生検	45件
PTCD/PTGBD	38件
経皮的RFA/PEIT	2件

学会、研究会

- 第333回 日本内科学会九州地方会 2021/6/5
未治療糖尿病患者に発症した鶏眼の自己処理に起因する非Clostridium性ガス壊疽の1例
吉田龍也
- 第335回 日本内科学会九州地方会 2021/11/14
早期診断が困難であった肝アミロイドーシスによる急性肝不全の1例(研修医奨励賞)
演者:秋原健人/指導医:日隈ゆかり
労働者健康安全機構熊本労災病院消化器内科
- 第9回 熊本県臨床検査技師会 精度保証技師会 2021年8月
腹部エコー検査における脂肪肝と肝硬変の定量化～エコーの可能性を探る～
熊本労災病院 臨床検査技師主任 吉田健一
- 第182回 熊本消化器画像診断研究会 2021年7月8日 hybrid-web
共催:熊本消化器画像診断研究会
肝細胞癌の診断と治療「当院でのレンバチニブの使用経験を含めて」
佐々木雅人
- 市民公開講座2021 肝がんゼロを目指して 2021年8月1日
熊本県肝疾患診療連携拠点病院(熊本大学病院)、一般社団法人 日本肝臓学会
これからの「肝炎・肝がん」治療
佐々木雅人
- 熊本県内科医会 学術講演会
共催:熊本県内科医会・アツヴィ合同会社
後援:熊本県医師会・熊本市医師会
令和3年8月25日 ホテル日航熊本(hybrid web)
「当院における肝炎患者の拾い上げ活動について～3年半の成績～」
佐々木雅人
- 社内研修会(Web) 中外製薬 2021年9月9日
熊本労災病院 2階会議室
「肝細胞癌の薬物療法について」
佐々木雅人
- 八代薬剤師会 学術講演会 2021年11月12日
桜十字ホール 大会議室A・B
「肝細胞癌における最近の薬物療法について」
佐々木雅人
- B型肝炎 再活性化セミナー in 八代
主催:ギリアド・サイエンシズ(株)2021/11/18
「当院における再活性化意識調査」
佐々木雅人
- web会議 主催:Abbvie合同株式会社 2021年11月24日
「C型肝炎治療最近話題と院内における肝疾患治療の取り組み」
佐々木雅人

消化器内科

- 第184回熊本消化器画像診断研究会
症例提示:術後に膵腺癌の合併が判明したpNETの1例
米田暁

論文発表

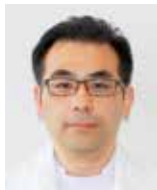
- Incarceration of a colonoscope in an inguinal hernia: A report of two cases
Yuno Abe, Yiki Ohya, Osamu Nakahara, Suguru Chiyonaga, Yuto Maeda, Ryo Ichikawa, Miyuki Imamura, Satoshi Yamabe, Takeshi Morinaga, Akira Tshuji, Shintaro Hayashida, Masayoshi Iizaka, Masato Sasaki, Yukihiro Inomata
DEN Open, 2022

認定施設 等

- 日本消化器内視鏡学会関連施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設

脳神経内科

スタッフ紹介



脳神経内科部長
原 靖幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳卒中学会専門医・評議員、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会、日本神経学会、日本神経治療学会、日本リハビリテーション医学会

脳神経内科副部長

山本 文夫

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医

脳神経内科の特色

当院における脳神経内科は、内科の一員であるとともに、脳卒中センターの一員でもあるという位置づけです。内科においては毎週月曜日の内科カンファレンスでの抄読会、脳卒中センターにおいては毎週水曜日の脳神経外科との脳神経カンファレンスでの症例検討で、専門知識や診断精度の向上に努めています。

入院は多くが急性期脳梗塞ですが、その他もてんかんや髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群など神経救急疾患がほとんどを占めます。脳梗塞については、発症4.5時間以内の超急性期症例に対するt-PA静注療法に対応し、さらに脳血管内治療の適応と思われる場合は、ヘリまたは救急車で積極的に対応可能な急性期病院へ転送しています。急性期を過ぎてリハビリ継続が必要な場合は、脳卒中連携パスを利用して後方支援病院への転院を進めています。

一方、外来は脳梗塞、てんかんのほか、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症などのいわゆる神経難病も多くを占めています。

高齢化を反映して今後ますます脳神経疾患のニーズは高まると思われます。多方面と連携しながら微力ながらも地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
原	山本	原	山本	竹内

診療実績

患者数等（令和3年度年間患者数）

入院延患者数 患者数 5,481人(15.0人/日)

外来延患者数 患者数 4,189人(17.3人/日)

学会・講演会発表等

研究会・講演会

- 開催名 第137回熊本神経カンファレンス
日程・会場 令和3年8月、熊本
発表者 村端秀映
題名 右眼球内転障害および舌咽頭痛を初発症状としたFisher syndromeの一例
- 開催名 脳卒中連携セミナー in 八代
日程・会場 令和3年9月、WEB
発表者 原 靖幸
題名 八代地区における急性期脳梗塞診療「これまで」と「これから」
- 開催名 八代薬剤師会学術講演会
日程・会場 令和3年11月、熊本
発表者 原 靖幸
題名 高齢社会におけるパーキンソン病
- 開催名 宇土地区医師会学術講演会
日程・会場 令和3年11月、熊本
発表者 原 靖幸
題名 片頭痛診療の現状と今後
- 開催名 エーザイ株式会社 社内研修会
日程・会場 令和4年1月、WEB
発表者 原 靖幸
題名 脳神経内科について
- 開催名 第一三共株式会社 社内研修会
日程・会場 令和4年1月、熊本
発表者 原 靖幸
題名 脳梗塞 & 片頭痛
- 開催名 Parkinson's Disease Web Symposium in 県南
日程・会場 令和4年2月、WEB
発表者 原 靖幸
題名 高齢社会におけるパーキンソン病診療

認定施設等

- 日本神経学会教育関連施設
- 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター

糖尿病・代謝内科

スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科部長
(兼栄養管理部長)
金子 健吾

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会、日本臨床栄養代謝学会、日本甲状腺学会



第二糖尿病・代謝内科部長
岩下 晋輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本循環器学会、日本救急学会、日本内分泌学会

糖尿病・代謝内科副部長
櫻井 希美

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

糖尿病・代謝内科医師
徳永 理衣

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本体質医学会

糖尿病・代謝内科医師
最勝寺 芙美

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本体質医学会

糖尿病・代謝内科の特色

現在、我が国の糖尿病患者数は1,000万人以上と考えられ、予備軍も合わせると2,000万人超とされています。40歳以上では実に3人に1人が耐糖能障害を持つ計算になります。糖尿病や脂質異常症、高血圧症といった病気は、自覚症状をあまり認めないために放置されることが多い疾患であり、そのためこれらの疾患により心筋梗塞や脳卒中といった重篤な疾患を発症する方が後を絶たないのが現状です。糖尿病・代謝内科では、このようにますます増加している糖尿病をはじめとした生活習慣病の診断・治療・教育を中心に、甲状腺疾患(橋本病やバセドウ病などの甲状腺機能異常や甲状腺腫瘍)などの内分泌疾患、電解質異常などの診断・治療を行っています。また、他科入院患者の血糖コントロールや栄養サポートチームの一員としての栄養管理は全病棟を対象に行っています。2018年4月からは、熊大病院救急部に10年間勤務した岩下晋輔医師が赴任し、慢性疾患だけでなく急性疾患の診療にも協力できるようになりました。スタッフ紹介に示す5人体制で、日々診療を行っております。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
糖尿病・代謝内科	岩下	金子	櫻井	金子	岩下
再診	最勝寺		金子 岩下 最勝寺	櫻井	
糖尿病外来(午後)					金子

診療実績

患者数等 (令和3年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 2,865人(7.8人/日)
外来患者数 延べ患者数 7,242人(29.9人/日)

検査実績 (令和3年度年間実績)

症例	件数
甲状腺超音波検査	375件
甲状腺穿刺吸引細胞診	28件

糖尿病・代謝内科

学会 講演会発表等

学会

- **学会名** 第59回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場 令和3年11月19日～20日、WEB
発表者 ○浜田英明、岩下晋輔、徳永理衣、
 櫻井希美、金子健吾
題名 抗PD-L1抗体アテゾリズマブ投与中に1
 型糖尿病を発症した1例

- **学会名** 第336回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和3年1月29日、WE
発表者 ○櫻井希美、徳永理衣、浜田英明、
 岩下晋輔、金子健吾
題名 膀胱癌に対するペムブロリズマブによる
 免疫関連有害事象にて1型糖尿病を発症
 した1例

- **学会名** 第333回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和3年6月5日、WEB
発表者 ○吉田龍也、岩下晋輔、金子健吾、
 櫻井希美、入江晃士朗、日高竜太郎
題名 未治療糖尿病患者に発症した鶏眼の自己
 処理に起因する非Clostridium性ガス壊
 疽の1例

認定施設 等

- 日本糖尿病学会認定教育施設

精神科

精神科の特色

令和3年4月からは、他医療機関から3名の先生を派遣いただき、病棟でのリエゾン診療のみを行っています。

また、令和元年10月からは、八代医療圏での発達障がいの医療体制を整備するという熊本県の取組みに協力するかたちで、熊本大学病院から派遣された医師1名、臨床心理士1名による発達相談外来を月に2回開設しています。

診療体制

発達相談外来 ※紹介制

月	火	水	木	金
				担当医 (第1・3週)

診療実績

患者数等 (令和3年度年間患者数)

外来患者数 延べ患者数 1,746人(7.2人/日)

小児科

スタッフ紹介



小児科部長
吉牟田 純一郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医

小児科副部長
渡邊 聖

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会、日本小児
神経学会

小児科副部長
松石 芽衣

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科医師
吉田 史則

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科医師(非常勤)
永沼 節子

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医、日
本小児内分泌学会、日本児
童青年精神医学会

小児科の特色

小児科診療は疾病治療を行うだけではありません。

子どもの健康や安全に関する情報を提供し指導することも大切な役目であり、また、潜在する成長障害児や発達障害児をみつけ適切に対応することも重要です。

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっており、全般的な小児疾患に対応しています。

外来診療では急性期の患者(主に感染症疾患)だけでなく神経疾患(てんかん、発達障害など)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎など)、内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など)、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療・管理に従事しています。また、入院患者の多くを占めるのが感染症疾患(肺炎、腸炎など)であり、児の不安軽減や院内感染防止に配慮しながら治療にあたっています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田
吉田	吉田	吉田	吉田	吉田
渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
松石	松石	松石	松石	松石
永沼				

診療実績

患者数等 (令和3年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 1,482人(4.1人/日)

外来患者数 延べ患者数 6,736人(27.8人/日)

認定施設 等

- 小児初期救急医療病院

循環器内科

スタッフ紹介



副院長
松村 敏幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医・九州・沖縄地方会代議員、社会医学系専門医・指導医、日本職業・災害医学会評議員、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格



循環器内科部長
血管内科部長
土井 英樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・九州・沖縄地方会運営委員、浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施医、日本フットケア・足病医学会、日本職業・災害医学会



第二循環器内科部長
心臓リハビリテーション部長
阿部 浩二

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、日本心臓リハビリテーション学会



第三循環器内科部長
川上 和伸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本心血管インターベンション学会認定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格

循環器内科副部長

古川 祥太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本プライマリーケア連合学会指導医

循環器内科医師

梅田 美結

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会

循環器内科医師

竹尾 政宏

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会

循環器内科医師

小林 貴大

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会

循環器内科医師

石丸 雄大

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会

循環器内科の特色

当科の特徴としては全PCIの約3割が、急性冠症候群症例に対して施行されている急性期病院に位置づけられていることが挙げられます。熊本県南地域において唯一の日本心血管インターベンション治療学会研修施設である本施設では、循環器内科医が24時間体制で日夜待機を行っています。また心臓血管外科医とはいつでも連絡を取り合える環境にあり、外科的処置や手術が必要な症例においても即時に対応できる体制を整えており、防災ヘリやドクターヘリによる遠隔地の循環器全般にわたる救急疾患も積極的に受け入れています。心臓・血管専門の超音波検査技師も現在7名在籍しており、平時より多くの心・血管エコーを行っています。

不整脈領域においては日本不整脈心電学会認定不整脈専門医が在籍し、近年需要が伸び続けている高周波アブレーション、クライオバルーンアブレーション等の頻脈性不整脈治療を積極的に行っており、症例数は年々増加しています。本年からはレーザーバルーンアブレーションも開始いたしました。また通常のペースメーカー（リードレスペースメーカーを含む）植込みに加えて、ICDやCRT-P、

循環器内科

CRT-Dなどによる致死的不整脈や心不全への治療も精力的に行っています。

末梢血管インターベンションにも以前から力を入れており、九州でもいち早く血管外来を整備して、内科的および外科的なアプローチの両面より患者様の病態に応じて対応しています。特に重症下肢虚血（CLTI）症例は熊本県南全域から多く受け入れており、令和3年4月からは、下肢創傷治療のスペシャリストとして非常に経験豊富な形成外科の匂坂正信先生を新たに迎え入れることができました。匂坂先生をリーダーとして、循環器内科医師、WOC看護師、循環器内科病棟・外来看護師とともにチームでCLTIをはじめとした患者の足を救うべく積極的に治療介入を行い、多くの患者の下肢救済を実現することができました。また創傷治療を促進するための後療法としてレオカーナを用いたアフエーシスも導入し、より一層下肢救済に取り組んでいきます。

外来では昨年より循環器内科と血管外来を統合して月～金まで全て二診体制とし、心臓ならびに全身の血管疾患に対する診療を、包括的かつ円滑に対応できるよう努めてきました。これからも一層近隣の開業医の先生や熊本県南全域の病院からの受け入れがますますスムーズになると考えています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
循環器内科 血管外来内科	竹尾 小林	大野 石丸	松村 土井	阿部 川上 (不整脈)	古川 担当医
特殊外来	難治性高コレステロール血症外来 阿部 (午後)		循環器足壊疽外来 匂坂正信 (午前・午後)	難治性高コレステロール血症外来 阿部 (午後)	

診療実績

患者数等（令和3年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 14,356人(39.3人/日)
外来患者数 延べ患者数 9,372人(38.7人/日)

治療実績（令和3年度年間実績）

症例	件数
冠動脈インターベンション	299件
末梢血管インターベンション	133件
カテーテル心筋焼灼術	163件
植込み型除細動器移植術	6件
永久ペースメーカー移植術	63件

学会・講演会発表等

学会

【国内学会】

- 学会名 第84回 日本循環器学会学術集会
日程・会場 令和2年7月、横浜（WEB開催）
発表者 松村敏幸
題名 孤独死の要因となる動脈硬化疾患の危険因子に関する研究
- 学会名 Jamep基本的臨床能力評価試験シンポジウム、プレゼンテーション・パネルディスカッション
日程・会場 2021年9月 福岡（WEB開催）
発表者 松村敏幸
題名 成績上位医療機関における臨床研修の取り組み
- 学会名 第69回日本職業・災害医学会学術大会
日程・会場 2021年11月（WEB開催）
発表者 松村敏幸
題名 単独世帯患者の救急利用状況に関して
- 学会名 第33回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
日程・会場 2022年1月（WEB開催）
発表者 松村敏幸
題名 会長企画 パネルディスカッション、心血管病をとりまく社会問題 PD1-01 単身者と動脈硬化疾患
- 学会名 第33回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
日程・会場 2021年1月（WEB開催）
発表者 阿部浩二
題名 <コーヒープレイクセミナー> Physiology-OptoWireの使用経験-
- 学会名 第33回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会-第6回冬季症例検討会-
日程・会場 2022年1月（WEB開催）
発表者 本里康太
題名 当院でのISRに対するDCBの使用経験

循環器内科

- **学会名** 第33回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会ー第6回冬季症例検討会ー
日程・会場 2022年1月(WEB開催)
発表者 本里康太
題名 当院でのAIODIに対するEVTの症例報告
- **学会名** 第31回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会
日程・会場 2021年9月(WEB開催)
発表者 岡部宏樹
題名 LMT完全閉塞病変のSTEMIにてリバースワイヤー2連続で側枝を救済できた一例
- **学会名** 第33回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会ー第6回冬季症例検討会ー
日程・会場 2022年1月(WEB開催)
発表者 岡部宏樹
題名 当院でのFFRを用いたEVT施行例についての報告
- **学会名** 第31回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会
日程・会場 2021年9月(WEB開催)
発表者 中村勇輝
題名 血管炎による不安定狭心症に対し高用量ステロイドが奏功した一例
- **学会名** 第131回 日本循環器学会九州地方会
日程・会場 2021年12月(WEB開催)
発表者 中村勇輝
題名 外腸骨動脈穿破による腹腔内出血によりショックを呈した一例
- **学会名** 第67回日本不整脈心電学会
日程・会場 2022年1月(WEB開催)
発表者 土井英樹
題名 当院でのFFRを用いたEVT施行例についての報告
- **学会名** ARIA (Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement)
日程・会場 2021年11月(WEB開催)
発表者 土井英樹
題名 <セミナー>画像を制するものは石灰化を制す

【研究会・講演会】

- **開催名** 治療と仕事の両立支援事例検討会
日程・会場 2021年11月(WEB開催)
発表者 松村敏幸
題名 心疾患に罹患した労働者への治療と仕事の両立支援に係る留意点について
- **開催名** 人吉球磨薬剤師会学術講演会
日程・会場 2021年5月、人吉
発表者 阿部浩二
題名 高齢者心疾患に対する抗血栓療法
- **開催名** かかりつけ医のための抗血栓療法Webセミナー
日程・会場 2021年6月、熊本
発表者 阿部浩二
題名 虚血性心疾患における抗血栓療法について～JCSフォーカスアップデート版を踏まえて～
- **開催名** 第13回心不全ラウンドミーティング
日程・会場 2021年7月、熊本
発表者 阿部浩二
題名 当科でのARNIの使用経験
- **開催名** 第30回九州トランスラディアル研究会
日程・会場 2021年10月、熊本
発表者 阿部浩二
題名 OptoWire を使わせてもらいましたが、良かったですよ!
- **開催名** 人吉市医師会・球磨郡医師会 学術講演会
日程・会場 2021年12月(WEB開催)
発表者 阿部浩二
題名 心不全に対するARNIへの期待 ～高血圧治療を含めて～
- **開催名** 熊本労災病院病診連携の会
日程・会場 2021年6月(WEB開催)
発表者 川上和伸
題名 心房細動に対するアブレーション治療
- **開催名** アブレーション連携Web Seminar
日程・会場 2022年3月(WEB開催)
発表者 川上和伸
題名 県南地域における心房細動治療～抗凝固療法を含めて～
- **開催名** 第30回九州トランスラディアル研究会
日程・会場 2021年10月、熊本
発表者 本里康太
題名 EVTビデオライブ
- **開催名** 佐賀好生館医療センター講演会
日程・会場 2021年7月、佐賀
発表者 土井英樹
題名 EVTにおける最近の動向など

循環器内科

- **開催名** Role of Drug Eluting Technologies (DET)研究会
日程・会場 2021年7月(WEB開催)
発表者 土井英樹
題名 やっぱりCuttingは捨てがたい
- **開催名** START研究会
日程・会場 2022年3月(WEB開催)
発表者 土井英樹
題名 当院でのISRに対するDCBの使用経験

認定施設 等

- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施施設

心臓血管外科

スタッフ紹介



血管外科部長
原 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術施行医、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本胸部外科学会、日本静脈学会、日本脈管学会、日本外科学会



心臓血管外科部長
森山 周二

【専門・認定・資格・所属学会】三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導責任者、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会認定医、日本血管外科学会、日本外科学会、日本循環器学会

心臓血管外科医師

廣田 貴史

【専門・認定・資格・所属学会】日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科学会

心臓血管外科医師

中田 浩介

【専門・認定・資格・所属学会】日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科学会

心臓血管外科の特色

当科は平成3年に開設されて以来、30年以上の実績ある診療科です。心臓血管外科を標榜する施設が県中心部に集中しており、施設の集約化が求められるなかで唯一県中心部以外に存在しています。

当科では急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などの救命のために緊急手術が必要な症例にも昼夜を問わず対応し、主に県南の地域医療に貢献してきました。小地方都市にある施設のため手術症例数は多くありませんが、当科では大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの血管内治療や弁形成術、下肢静脈瘤に対するレーザー治療にも取り組んでいます。また当施設は上記の胸部および腹部大動脈瘤に対する県南唯一のステントグラフト実施施設です。

「地元完結で社会復帰・自宅退院する」を第一に考え、患者様にとってベストな治療を提供し患者様や家族の望まれる治療ができるように努めています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
心臓血管外科		森山		森山	
血管外科		原			原

手術日

	月	火	水	木	金
手術日			手術日	手術日	午後

診療実績

患者数等（令和3年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 1,543人(4.2人/日)
外来患者数 延べ患者数 1,611人(6.7人/日)

手術実績（令和3年度年間実績）

症例	件数
冠動脈手術	17件
弁膜症手術	22件
単弁手術	10件
連合弁膜症手術	11件
(Maze 手術併施)	(7件)
その他の心臓手術	1件
大動脈瘤手術	17件
胸部大動脈瘤	1件
開胸手術	1件
ステント手術(TEVAR)	0件
腹部大動脈瘤	16件
開腹手術	5件
ステント手術(EVAR)	11件
急性大動脈解離手術	5件
(上記のうち人工心肺使用手術)	(46件)
末梢動脈手術	6件
下肢静脈瘤手術	48件
(Laser手術)	(41件)
その他の手術	7件
計	123件

心臓血管外科

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第54回日本胸部外科学会九州地方会総会
日程・会場 令和3年7月29日、大分市
発表者 日高秀昭、森山周二、原 正彦、
 金子泰史、定永達明、福井寿啓
演題名 冠動脈瘤を伴う冠動脈肺動脈瘻の1手術例
- **学会名** 第192回 熊本外科集談会
日程・会場 令和3年9月12日、熊本市
発表者 定永達明、森山周二、原 正彦、
 日高秀昭、金子泰史、福井寿啓
演題名 二弁置換術後の低心拍出量症候群・低酸素血症に対してNO吸入療法が著効した一例

臨床研究

- 破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究
- 急性大動脈解離症例の疫学および予後調査研究

認定施設 等

- 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設

消化器外科／一般外科

スタッフ紹介



一般外科部長
(救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



消化器外科部長
井上 光弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医、日本内視鏡外科学会認定医、日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医講習会修了

消化器外科、一般外科副部長
辻 顕

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科医師
森永 剛司

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本胃癌学会、日本消化器外科学会専門医、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本癌治療学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、がん治療認定医

消化器外科の特色

国指定の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん治療の提供・患者や家族の満足度の高い治療と365日24時間熊本県南の救急患者さんの受け入れを2本柱で行っています。

消化器外科医が中心となり、一般外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科・移植外科とチームで救急医療・診療にあたっています。

鏡視下手術に力を入れており、胃・大腸・鼠径ヘルニア・肺の手術のみならず肝臓・膵臓の内視鏡外科手術や肝胆膵外科の高難度手術も行っています。ハイボリュームセンターに負けない手術とグローバルスタンダードな治療・手術を目指しています。

手術以外でも癌化学療法を積極的に入院・外来で行っており、県南では緩和病床も少ないため、緩和病床を活用し、看取りまで対応しています(年間35名程度)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	井上	手術日		
井上	飯坂／辻		飯坂	森永

診療実績

患者数 (令和3年度年間患者数)

入院延患者数 14,908人(40.8人/日)

外来延患者数 11,061人(45.7人/日)

※乳腺外科、呼吸器外科、小児外科含む

手術実績 (令和3年度年間実績)

項目	件数
手術件数	774件

消化器外科／一般外科

学会 講演会発表等

発表等

- **学会名** 第56回日本胆道学会
日程・会場 令和2年10月、福岡
発表者 中原 修
題名 Trousseau症候群による多発梗塞から診断された肝内胆管癌の1例
- **学会名** 第120回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和2年8月、神奈川
発表者 前田裕斗、中原 修、辻 顕、蔵元一崇、飯坂正義、馬場秀夫
題名 当院における虫垂腫瘍の臨床病理学的検討
- **学会名** 第120回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和2年8月、神奈川
発表者 中原 修、前田裕斗、辻 顕、蔵元一崇、飯坂正義、猪股裕紀洋、馬場秀夫
題名 潜在性胆嚢癌の臨床病理学的検討
- **学会名** 第75回日本消化器外科学会総会
日程・会場 令和2年12月、和歌山
発表者 蔵元一崇、前田裕斗、辻 顕、林田信太郎、大矢雄希、飯坂正義、中原 修、猪股裕紀洋、馬場秀夫
題名 上部消化管穿孔における開腹手術と腹腔鏡下手術の比較

論文発表

- 癌と化学療法 (0385-0684) 47巻9号 Page1359-1362(2020.09)
前田裕斗、中原 修、辻 顕、蔵元一崇、飯坂正義、馬場秀夫
集学的治療を行った食道胃接合部癌と濾胞性リンパ腫の同時性重複癌の1例
- Ultrasound-guided non-invasive retraction for strangulated obturator hernia allows elective radical surgery: analysis of 12 cases
Yuto Maeda, Osamu Nakahara, Seiya Saito, Jiro Nasu, Hideo Baba

認定施設 等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設(認定施設)
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 日本肝臓学会関連施設
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設教育研修認定施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- NCD施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 日本乳癌学会関連施設

乳腺外科

スタッフ紹介



乳腺外科部長
林 裕倫

【専門・認定・資格・所属学会】日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会乳房再建責任医師、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィー認定医(A判定)、乳房超音波医師講習会(A判定)

乳腺外科の特色

<扱う疾患>

肉芽腫性乳腺炎、乳輪下膿瘍、良性乳腺腫瘍(良性葉状腫瘍、乳管内乳頭腫)、女性化乳房などの身近な疾患をはじめ、AYA世代から増加してくる乳癌や悪性乳腺腫瘍(悪性葉状腫瘍、血管肉腫)の診断治療を扱っています。

<検診>

Real size 3D model of the breast cancerを用いて乳がん検診の啓蒙活動を平日頃の診療で実践しています。

Real size 3D model of the breast cancerとは乳癌MRI画像を実物大で3Dプリンターで出力作製したものです。実際の乳癌のサイズ、形状を手にとって実感していただいています。

<手術>

経口補水法を取り入れ、さらに疼痛管理対策により手術2~3時間後の食事および、早期離床を可能とし快適な周術期生活となるように取り組んでいます。

手術術式としては乳房部分切除もしくは乳房切除にセンチネルリンパ節生検となる症例が多くをしますが、病状に応じて兎玉法の手術にも対応しています。

<薬物療法>

乳がん初期治療は標準治療を基本としています。患者さんの基礎疾患や希望を取り入れた個別化医療を積極的に行っています。一方でステージIVや手術不能の局所進行乳癌に関しても患者さんに満足していただける治療を実践しています。

最近の特徴としては他施設より再発治療を希望

されて受診される方が増加傾向です。このような方にも当院の乳がん薬物治療の専門スタッフが心のケアを大切にして治療を行っています。

<乳腺手術症例数>

年間100症例を超える手術となっています。今後も、乳がん専門病院として八代地域の乳がん診療に貢献してまいります。

<乳癌検診>

乳がん専門病院として、クーポン検診をはじめとして地域密着型の乳がん検診を積極的に受け入れています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
林	林		林	林

乳腺専門外来：月・火・木・金

乳癌検診外来(クーポン健診)：火・木

※月・水 午前はその都度臨時に対応可です。

手術日：月・水・木・金(週4日に対応)

化学療法：月・火・水・木・金(週5日に対応)

診療実績

患者数等 (令和3年度年間実績)

新入院患者数 424人

入院患者数 延べ患者数 2,388人(6.5人/日)

外来患者数 延べ患者数 3,998人(16.5人/日)

手術実績 (令和3年度年間実績)

症例	件数
乳腺手術	107件

検査実績 (令和3年度年間実績)

項目	件数
乳腺超音波検査	1,407件
マンモグラフィー検査	722件

乳腺外科

学会 講演会発表等

学会

- **学会名** 第29回日本乳癌学会学術総会
日程・会場 令和3年7月、横浜
発表者 林 裕倫
題名 Real size 3D model of the breast による視覚・触覚的乳腺超音波技術習得教育システム

- **学会名** 第19回日本乳癌学会九州地方会
日程・会場 令和4年3月、長崎
発表者 竹野雅子
題名 Collagenous spherulosisの一例

認定施設 等

- 日本乳癌学会認定施設

呼吸器外科

スタッフ紹介



呼吸器外科部長
柴田 英克

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・評議員、日本臨床細胞学会・専門医、がん治療認定医、緩和ケア研修会受講、指導医養成ワークショップ受講、日本肺癌学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

呼吸器外科の特色

呼吸器外科では、呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携し、正確な診断、病期の決定を行い、手術が必要な患者さんには速やかに手術を行います。また、手術後に抗癌剤治療が必要な患者さんには、当科において、継続的に治療を行っていきます。

呼吸器外科の手術においては、小さな傷で、患者さんへの負担軽減を目指す胸腔鏡下手術が主流となっております。当科でも、胸腔鏡下手術を積極的に行い、周術期の疼痛の軽減、早期退院、日常生活への早期の復帰を目指しております。

肺を切除するということは、肺の機能を低下させます。当院では、術前・術後のリハビリテーションを行い、手術による日常生活の質の低下を最小にし、普段の生活への復帰をスムーズに行えるよう、リハビリテーション科と連携して診療にあたっています。

肺癌以外にも、気胸や、気管・気管支腫瘍、胸腺腫などの縦隔腫瘍、肋骨腫瘍などの胸壁腫瘍など、心臓・大血管、乳腺以外の胸部の疾患で手術対象となるものには積極的に手術を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
		柴田		柴田

診療実績

患者数等 (令和3年度年間患者数)

入院患者数 1,278人(3.5人/日)

外来患者数 866人(3.6人/日)

手術実績 (令和3年度年間実績)

症例	件数
手術件数	95件
肺癌	44件
転移性肺腫瘍	6件
縦隔腫瘍	8件
気胸・血胸	10件
膿胸	9件
その他	18件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第44回呼吸器内視鏡学会総会
- 日程・会場等 2021年6月24日～7月30日(WEB開催)
- 発表者 柴田英克
- 演題名 EBUS-TBNAで確定診断を得た後、上大静脈置換を行い切除した胸腺腫の1例

認定施設等

- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

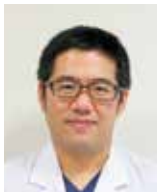
小児外科／移植外科

スタッフ紹介



小児外科部長
大矢 雄希

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本移植学会認定医



移植外科部長
林田 信太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本移植学会認定医、日本小児外科学会

小児外科・移植外科医師 有留 法史

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会、日本外科学会



院長
小児外科・移植外科医師
猪股 裕紀洋

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医、日本移植学会認定医、日本社会医学系指導医・専門医、八代水俣地域産業保健センター登録産業医

小児外科／移植外科の特色

(1)小児外科

新生児から中学生程度(16才未満)の年齢の範囲での、小児を対象とした、いわゆる一般外科疾患を扱います。新生児から乳幼児期には、小児特有の先天的な疾患の診断治療を行っています。当院は、熊本県内でも多くはない、日本小児外科学会の指導医・専門医が在籍する施設で、4名体制で専門医が対応しています。当院での収容や処置が困難な場合、大学病院などへの転送治療依頼を行います。また、鼠径ヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留睪丸、肛門部の異常(痔核、痔瘻など)なども当科の対象

になります。慢性の便秘、反復する腹痛、時々見られる嘔吐などに小児外科対象疾患が隠れていることがあり、そのような症例の紹介にも対応しています。なお、実績としては急性虫垂炎の手術症例も多く、ほとんどを腹腔鏡下で行っています。このほか、小児の胸部や腹部の外傷、異物誤嚥など、救急疾患にも対応しています。

(2)移植外科

日本移植学会認定医が3名在籍し、肝移植を必要とする患者さんの適応評価、説明、生体肝移植医療の実施、脳死移植施設への紹介などを行います。また、術後患者さんの日常的なフォロー、肝機能異常に対する肝生検を含めた評価と治療など、術後ケアにも継続的に対応しています。また、臓器提供推進にむけて院内体制整備支援事業、熊本赤十字病院を中心とした臓器提供施設連携体制構築事業に力をいれています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
大矢		猪股	林田	

診療実績

手術実績 (令和3年度年間実績)

症例	件数
小児外科関連の手術症例数	72件
鼠径ヘルニア、陰嚢水腫	21件
急性虫垂炎(腹腔鏡下虫垂切除術)	15件
肝生検	8件
臍ヘルニア	8件
停留精巣	4件
腹腔鏡下胃瘻造設術	4件
内肛門括約筋切開術(Lynn手術)	3件
皮下腫瘍摘出術	3件
肥厚性幽門狭窄症	2件
舌小帯短縮症	1件
尿管管遺残症	1件
人工肛門造設	1件
精巣捻転摘出(対側固定)	1件

小児外科／移植外科

その他

移植外科として、小児および成人の肝移植後の肝生検を含む肝移植術後患者のフォロー、肝移植に関する説明、脳死移植施設への紹介など、の実績があります。

また、移植医療技術を用いた血行再建を伴う肝胆膵高難度手術を消化器外科医師と連携して実践しています。

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 八代地域医療調整会議(委員)
- 熊本県移植医療推進ネットワーク協議会(会長)
- 厚生労働省 臓器移植委員会(委員)

論文発表

- Transplant Proc. 2021;53(4):1313-1316. Carpal Tunnel Syndrome Due to Iatrogenic Amyloidosis After Domino Liver Transplantation From Hereditary Transthyretin Amyloidosis: A Case Report. Ohya Y, Tasaki M, Hayashida S, Katayama N, Tsuchida T, Kuriwaki K, Ueda M, Inomata Y.
- Pediatr Surg Int. 2022;38(2):201-208. Intellectual development of patients with biliary atresia who underwent living donor liver transplantation in infancy. Kawabata S, Sakamoto S, Uto K, Irie T, Kadohisa M, Shimata K, Narita Y, Isono K, Honda M, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Yamamoto H, Nakano M, Sugawara Y, Hibi T.
- Exp Clin Transplant. 2021;19(4):386-389. Hungry Bone Syndrome After Living Donor Liver Transplant for Biliary atresia. Honda M, Shimata K, Sambommatsu Y, Ibuki S, Isono K, Yamamoto H, Sugawara Y, Sakamoto S, Inomata Y, Hibi T.
- Hum Cell. 2022;35(2):721-734. SOX9 contributes to the progression of ductular reaction for the protection from chronic liver injury. Yoshii D, Shimata K, Yokouchi Y, Komohara Y, Suda H, Honda M, Yamamura K, Hibi T, Inomata Y.
- Liver Transpl. 2022 Apr;28(4):603-614. Surgical Outcomes of Domino Liver Transplantation Using Grafts From Living Donors With Familial Amyloid

Polyneuropathy.

Yamamoto H, Sambommatsu Y, Ishii M, Shimata K, Isono K, Honda M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.

- J Inherit Metab Dis. 2021;44(6):1311-1322. Role of liver transplantation in urea cycle disorders: Report from a nationwide study in Japan. Kido J, Matsumoto S, Haberle J, Inomata Y, Kasahara M, Sakamoto S, Horikawa R, Tanemura A, Okajima H, Suzuki T, Nakamura K.
- Children 2022;9(2):234. Feasibility of Real-Time Central Surgical Review for Patients with Advanced-Stage Hepatoblastoma in the JPLT3 Trial. Hishiki T, Honda S, Takama Y, Inomata Y, Okajima H, Hoshino K, Suzuki T, Souzaki R, Wada M, Kasahara M, Mizuta K, Oue T, Yokoi A, Kazama T, Komatsu S, Saeki I, Miyazaki O, Takimoto T, Ida K, Watanabe K, Hiyama E.
- Pediatr Surg Int. 2021;37(12):1651-1658. Current thoracoscopic approach for mediastinal neuroblastoma in Japan-results from nationwide multicenter survey. Kawano T, Souzaki R, Sumida W, Shimojima N, Hishiki T, Kinoshita Y, Uchida H, Tajiri T, Yoneda A, Oue T, Kuroda T, Hirobe S, Koshinaga T, Himama E, Nio M, Inomata Y, Taguchi T, Ieiri S.
- Surg Endosc. 2022;36(5):3028-3038. Laparoscopic approach for abdominal neuroblastoma in Japan: results from nationwide multicenter survey. Kawano T, Souzaki R, Sumida W, Ishimaru T, Fujishiro J, Hishiki T, Kinoshita Y, Kawashima H, Uchida H, Tajiri T, Yoneda A, Oue T, Kuroda T, Koshinaga T, Hiyama E, Nio M, Inomata Y, Taguchi T, Ieiri S.

研究活動

- 厚生労働科学研究難治性疾患政策研究事業「難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究」研究協力者

認定施設 等

- 日本外科学会専門医制度修練施設(継続)
- 日本小児外科学会教育関連施設B

脳神経外科

スタッフ紹介



脳神経外科部長
等 泰之

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳神経外科コンgres、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、日本脳ドック学会、日本脳腫瘍学会など

脳神経外科医員
泉 俊介

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会

脳神経外科医員
吉田 顯正

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会認定医・専門医・指導医、日本脳ドック学会

脳神経外科の特色

2018年4月からは2人体制にもどり、365日24時間体制となっております。今年もコロナ感染の影響からか、患者様の総数は減少しており、激しい交通外傷などがかなり減少しました。脳卒中患者様の数も減少しており、地域全体での交通事故・労働災害の減少や脳卒中有病率低下の反映かもしれません。患者様は、八代市周辺はもちろんのこと、人吉球磨方面や県南、熊本県内各地の病院など他地域からの患者も常時受け入れています。特に県南中核病院のバックアップとしての役割も担っております。

治療内容としては、一般的な脳神経外科に要求される基本的治療が可能です。脳血管障害としては、脳出血に対する開頭手術による血腫除去はもちろんのこと、神経内視鏡によるminimal invasiveな血腫除去も可能です。クモ膜下出血など脳動脈瘤関連疾患に対しては開頭による脳動脈瘤頸部クリッピング、また技術革新の目覚ましいコイル塞栓などの血管内手術も大学の専門医の応援を得て可能です。最近では内頸動脈狭窄症に対する手術や三叉神経痛に対する血管神経減圧術も取り組んでおります。脳梗塞急性期に対する血栓除去回収療法にも状況によって対応できるように整備していきたいと考えています。

また高齢者に多い治せる認知症である正常圧水頭症に対する髄液シャント手術も積極的に行っています。頭部重症外傷に対しては脳圧センサーを用

いたICUでの脳圧管理も可能です。血管内蛍光色素が利用できる新しい顕微鏡も導入されています。

また悪性脳腫瘍などを含む各種難治疾患に対しても大学病院をはじめとする熊本市内中核病院との連携を図りながら、患者様にとってのBest Qualityな治療を考えながら診療を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
等		等		等
泉		泉	吉田	泉

診療実績

患者数等（令和3年度年間実績）

入院患者数 6,023人(16.5人/日)

外来患者数 2,544人(10.5人/日)

手術実績（令和3年度年間実績）

症 例	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	31件
水頭症手術(シャント手術)	22件
頭蓋内血腫除去	15件
脳動脈瘤クリッピング	10件
内頸動脈内膜剥離術、 内頸動脈ステント留置	7件
頭蓋形成術	7件
脳腫瘍摘出術	3件
穿頭脳室ドレナージ術	3件
内視鏡的血腫除去	3件
脳血管内手術(コイル塞栓)	3件
脳血管吻合術(モヤモヤ病)	1件
合 計	114件

認定施設 等

- 日本脳神経外科学会連携施設
- 日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- 日本脳ドック学会認定施設

整形外科

スタッフ紹介



副院長
池田 天史

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本職業・災害医学会 労災補償指導医、臨床研修指導医、地方労災医員



整形外科部長
関節外科部長
宮崎 眞一

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、臨床研修指導医、日本人工関節学会、日本股関節学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会



手外科部長
土田 徹

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、臨床研修指導医、日本手外科学会、日本肘関節学会



脊椎外科部長
川添 泰弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医、臨床研修指導医



整形外傷科部長
二山 勝也

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本リウマチ学会



第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、日本救急医学会、日本骨折治療学会、日本脊椎脊髄病学会日本脊椎脊髄神経手術手技学会、日本災害医学会日本外傷診療研究機構、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師
片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会、日本DMAT隊員

整形外科医師
笹岡 眞光

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会、西日本整形災害外科学会

整形外科医師
田中 みずほ

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会、西日本整形災害外科学会

整形外科の特色

整形外科では医師9名で日常診療を行っています。脊椎外科・関節外科・手外科・外傷など専門性を重視し分担して診療にあたっています。また多くの研修医も整形外科をローテートしてくれており活気ももらっています。脊椎外科(顕微鏡使用の除圧術や低侵襲手術、金属を併用した固定術など)、関節外科(人工関節や関節下手術など)、手外科、マイク口、外傷(骨折や脱臼)に対する手術を多く行っています。病院内に多種類の手術材料・器械を準備しており急患に対して早期の手術も可能な状態です。他科の協力も得られており多発外傷・高エネルギー外傷にも対応しています。2021年度(2020年4月から2021年3月)の手術症例数は1,318例となっておりコロナ下においても昨年度と同等の手術件数を行っています。救急・手術に特に力を入れており、時間外、緊急の場合に対応しています。脊椎センターも担当しておりドクターヘリ等による脊椎脊髄損傷の県内からの受け入れや緊急手術も行っています。手術・救急対応重視の為、外来新患は救急と紹介患

整形外科

者とさせていただいています。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院後転院加療など大変お世話になっております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
川添	宮崎	川添	武藤	池田
土田	池田	二山	土田	宮崎
担当医	担当医	笹岡	担当医	担当医
二山	片山	武藤	片山	田中
担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数等（令和3年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 29,464人(80.7人/日)

外来患者数 延べ患者数 24,352人(100.6人/日)

手術実績（令和3年度年間手術室内手術症例）

症例		件数
症例数		1,318例
分野別	脊椎	427症例
	上肢、手	245症例
	下肢	310症例
	外傷	260症例
	リウマチ	2症例
	スポーツ	14症例
	小児	31症例
	腫瘍	29症例

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第93回西日本脊椎研究会
日 程 令和3年5月28日
発表者 武藤和彦
題 名 陳旧性環軸椎回旋位固定に対しリモデリング両方を行ったが難渋した症例

- 学会名 第142回西日本整形・災害外科学会
日 程 令和3年5月29日
発表者 山元雅典
題 名 家族歴を有し遺伝子検査で確定診断に至った多発性骨端異形成症の一例
- 学会名 第142回西日本整形・災害外科学会
日 程 令和3年5月29日
発表者 山田祐莉子
題 名 高安病の関連が疑われた椎体炎の1例
- 学会名 第98回熊本整形外科医会
日 程 令和3年6月19日
発表者 武藤和彦
題 名 3DCTプリンタを用いた手術支援の試み第2報
- 学会名 第142回西日本整形・災害外科学会アフタヌーンセミナー
日 程
発表者 池田天史
題 名 骨粗鬆性椎体骨折に対する手術療法～適度な低侵襲にて～

講演会

- 学会名 八代骨粗鬆症学術講演会
日 程
発表者 武藤和彦
題 名 非定型骨折と重症骨粗鬆症治療について
- 学会名 熊本PTHセミナー
日 程
発表者 武藤和彦
題 名 非定型骨折と重症骨粗鬆症治療について
- 学会名 JATEC熊本コース講師
日 程
発表者 武藤和彦
題 名

論文発表

- 石灰沈着性頸長筋腱炎2例の治療経験
整形外科と災害外科 Vol.70 No.3 p378-381
- 化膿性関節炎の鑑別を要した小児恥骨骨髓炎の1例
整形外科と災害外科 in press

認定施設等

- 日本整形外科専門医研修施設

形成外科

スタッフ紹介



形成外科部長
小倉 猛

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会、日本熱傷学会、日本職業・災害医学会、労災協力医、更生医療指導医、身体障害者法第15条指定医、難病指定医、緩和ケア研修会修了

形成外科の特色

形成外科は、主に先天性の奇形、後天性の変形などを形態的、機能的に修復、再建する科で、最終的な目標として、社会に適応していただくことを目的としております。

取り扱う主な疾患は、おおよそ以下のとおりです。

(1)救急

- 顔面外傷(上顎骨、頬骨、下顎骨、鼻骨骨折含む)
- 熱傷(初期の局所、全身管理から瘢痕まで)
- その他(主として剥脱創、皮膚欠損創)

(2)先天異常

- 唇裂、口蓋裂(言語障害を伴う)
- 頭蓋、顔面(耳介、眼瞼、鼻、顔面骨など)の奇形
- 母斑、血管腫、その他の皮膚腫瘍
- 手足の先天異常(多指症、合指症)
- その他(陥没乳頭、胸筋欠損など)

(3)後天性変形

- 熱傷、外傷後の瘢痕、瘢痕拘縮
- 各種皮膚潰瘍(褥瘡など)
- 陳旧性顔面骨折(鞍鼻、斜鼻など)
- その他(陥入爪など)

(4)悪性腫瘍

- 顔面の癌摘出や術後変形の再建
- 乳癌切除後の乳房再建
- 放射線照射後の難治性潰瘍の修復

診療体制

外来

月	火	水	木	金
小倉		小倉	小倉	

診療実績

患者数 (令和3年度年間実績)

入院患者数 延べ患者数 563人(1.5人/日)

外来患者数 延べ患者数 2,457人(10.1人/日)

手術実績 (令和3年度年間実績)

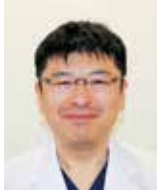
区分	件数
入院手術件数	81件
全身麻酔	56件
腰麻・伝達麻酔	0件
局所麻酔・その他	25件
外来手術件数	354件
局所麻酔・その他	354件

手術例内訳

区分	入院手術			外来手術	件数
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	局所麻酔・その他	
1 外傷	9		1	95	105
2 先天異常	8			3	11
3 腫瘍	32		21	185	238
4 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1		2	2	5
5 難治性潰瘍	2			2	4
6 炎症・変性疾患	2			33	35
7 その他	2		1		3
Ex レーザー治療				34	34
大分類計	56		25	354	435

皮膚科

スタッフ紹介



皮膚科部長
城野 剛充

【専門・認定・資格・所属学会】日本皮膚科学会

皮膚科医師
押川 由佳

【専門・認定・資格・所属学会】
皮膚科専門医、日本皮膚科
学会、日本研究皮膚科学会

皮膚科医師
田中 憲一郎

【専門・認定・資格・所属学会】
日本皮膚科学会

皮膚科の特色

皮膚は全体重の16%を占め最大の臓器であり、その役割・機能としては、体内の水分の喪失を防ぎ、紫外線など外界からの物理的・化学的的刺激や微生物から生体内部を保護する働きがあります(ホメオスタシスの維持)。また、発汗作用などによる体温調節、痛みや温度に対する感覚器の役目も果たしており、さらに免疫反応の場としての役割も担っています。皮膚は最外層にあり、自分以外の人の目にも触れることから社会的境界線と表現される事もあります。このような様々な機能を担う皮膚が障害されることで日常生活に直接支障が生じることもあれば、掻痒やそれによる不眠が生じたり、また見た目の問題で精神的ダメージを負う事もしばしばあります。皮膚の疾患を罹患した方ではこれらの理由で「生活の質:QOL」が低下していることが明らかになっており、皮膚科では症状や病変部のみでなく、心の健康にも配慮して診療を行っています。

近年、皮膚科領域の多くの疾患において新しい薬剤・治療の開発が進み、治療の選択肢は10年前とは大きく変わり、アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬といった疾患を中心に当時は治らなかった皮膚病変が「治る」時代になりました。同様に他科の疾患においても新薬の開発は目まぐるしい中で、皮膚障害が起こりやすい薬剤の使用も増加しています。それら他科における治療時の皮膚障害を最小限にし、治療継続を下支えするのも当科の役目と考えています。

〈医療機関の方々へ〉

皮膚に関することでしたら何でも対応いたしますので遠慮なくご紹介ください。また、ご要望等ありましたらお気軽にご連絡下さいませ。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
城野	城野	担当医	城野	田中
田中	押川		押川	押川

診療実績

患者数 (令和3年度実績)

新入院患者数 122人

入院患者数 1,629人(4.5人/日)

外来患者数 6,913人(28.6人/日)

手術実績 (令和3年度実績)

区分	件数
入院手術件数	29件
外来手術件数	100件

検査実績(令和3年度実績)

区分	件数
皮膚生検	201件

認定施設 等

- 皮膚科学会専門医教育研修認定施設

泌尿器科

スタッフ紹介



泌尿器科部長
宮本 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医



第二泌尿器科部長
中村 圭輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医

泌尿器科医師
今藤 淳之助

【専門・認定・資格・所属学会】

泌尿器科の特色

泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしくようお願い申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、この10数年一定数を維持していることから八代圏で

は手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹介お願い申し上げます。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
宮本	手術日につき 要相談	宮本 (第1・3・5)	今藤	中村

診療実績

患者数（令和3年度年間患者数）

延入院患者数 2,957人（8.1人／日）

延外来患者数 6,307人（26.1人／日）

手術件数（令和3年度年間実績）

項目	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	50件
経尿道的前立腺切除術	17件
腎(尿管)悪性腫瘍手術	15件
前立腺全摘術	5件
小児手術	8件
停留精巣固定術	5件
精巣捻転手術	1件
その他	2件
尿道狭窄内視鏡手術	2件
前立腺生検	47件
経尿的尿管ステント留置術	24件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)上部尿路	21件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)下部尿路	5件
精巣の手術(除睾術陰のう水腫)	5件

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 日本泌尿器科学会第202回熊本地方会
- 日程・会場 令和3年9月26日、熊本
- 発表者 井邊有紀、中村圭輔、宮本 豊
- 題名 馬蹄腎に発生した腎尿管結石の1例

泌尿器科

- **学会名** 日本泌尿器科学会第203回熊本地方会
- 日程・会場** 令和4年3月12日、熊本
- 発表者** 井邊有紀、中村圭輔、宮本 豊
- 題名** 腎外傷後、遅発性に再出血をきたした2例

認定施設 等

- 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設

産婦人科

スタッフ紹介



副院長
産婦人科第一部長
福松 之敦

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、母体保護法指定医師



産婦人科第二部長
値賀 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、母体保護法指定医師

産婦人科医師

島田 清史郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専攻医

産婦人科の特色

外来診療は月曜日から金曜日の午前中に行っています。

手術は主に子宮筋腫、卵巣腫瘍などに対して開腹手術や腹腔鏡下手術を行っています。また婦人科悪性腫瘍に対してもリンパ節郭清術を含む手術療法や化学療法、放射線科との共診による放射線療法を行っています。

周産期医療については、自然分娩や帝王切開はもちろん、他科との連携により様々な合併症妊娠の管理に対応しています。また当院には新生児集中治療室はありませんが、小児科との連携により切迫早産の入院管理、妊娠34週以降で人工呼吸器管理の必要がないと予想される早産の対応を行っています。

以下に、当科で行っている診療内容のいくつかについてご紹介します。

産科領域：

- 子宮動脈塞栓術：当院放射線科の協力で、産後多量出血例や帝王切開後の多量出血例に応用し、良好

な成績を得ています。

- 子宮内容除去術：流産処置については、手動真空吸引法を用いて子宮内膜の損傷を最低限にできるようにしています。

婦人科領域：

- 腹腔鏡下手術：当科では良性卵巣腫瘍などに腹腔鏡下手術を行っています。
- 子宮鏡下手術：子宮内膜ポリープや粘膜下筋腫に対して経腔的に子宮鏡下手術を行います。
- 月経困難症の治療として子宮内リング(LNG-IUS)も導入しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
福松		福松	島田	福松
値賀	島田	値賀	値賀	島田

診療実績

患者数（令和3年度年間患者数）

入院延患者数 2,858人(7.8人/日)

外来延患者数 6,666人(27.5人/日)

手術実績（令和3年度年間患者数） 合計 87例 〈婦人科手術〉

症 例	件数
良性子宮全摘出術	16例
悪性腫瘍AT+BSO、再発など	7例
骨盤リンパ節郭清術	2例
筋腫核出術	1例
開腹附属器腫瘍手術	10例
腹腔鏡下卵巣手術	1例
円錐切除	7例
子宮内膜搔爬術	7例
子宮鏡下手術	1例
帝王切開	34例
選択	18例
緊急	16例
開腹手術	69例

産婦人科

〈産科〉

症 例	件数
分娩数(帝王切開34例、双胎3例含む)	89例
流産処置(手動真空吸引法)	2例

学会・講演会発表等

- **学 会 名** 第25回熊本県母性衛生学会 総会・学術総会
日程・会場 令和3年6月、リモート形式
発 表 者 値賀正彦
題 名 シンポジウム『コロナ禍における母子保健活動の実際と課題』コロナウイルス感染の妊産褥婦への対応
- **学 会 名** 第237回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和3年7月、熊本市
発 表 者 富永茉莉子
題 名 鼠径部に発生した明細胞癌の1例
- **学 会 名** 第238回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和3年11月、熊本市
発 表 者 島田清史郎
題 名 繰り返す腹痛を呈した傍卵巢嚢腫による卵管捻転の1例

認定施設 等

- 日本産科婦人科学会専攻医教育研修認定施設

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科部長
増田 聖子

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会指導医、日本気管食道科学会専門医(咽喉系)、がん治療認定医機構がん治療認定医、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、補聴器適合判定医師、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会騒音性難聴相談医、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、小児慢性特定疾病指定医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 熊本県地方部会 理事、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 熊本県補聴器キーパーソン、熊本県障害児審査委員会委員、労災協力医

耳鼻咽喉科医師
高野 若菜

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

耳鼻咽喉科医師
植田 寛之

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

耳鼻咽喉科医師
村上 瑛

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

耳鼻咽喉科の特色

常勤医3名体制で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般の診断、診療を行っている。

特色

- 一般的な耳鼻咽喉科疾患、手術をガイドラインに基づいて行っている。
- 緊急入院は365日体制で受け入れており、緊急手術症例も全例当院で行っている。
- 頭頸部癌診療を積極的に行っており、年々患者数が増加している。現在頭頸部癌ガイドラインで推奨されている、一般的な化学療法・分子標的薬レジメンはほぼすべて施行している。また頭頸部癌手術も積極的に行っている。終末期医療もできる限り当院で行っている。
- 耳鼻咽喉科の特色である、感覚器障害や機能障害の診療に積極的に取り組んでいる。

予約制の特殊外来として、補聴器耳鳴外来、嚥下外来、嗅覚外来、めまい外来、顔面神経麻痺外来を行っている。社会の高齢化に伴い、感覚器障害や機能障害の患者が急増することが予測されるため、これに対応する外来診療の充実を図っている。

- 診療レベル向上のため、各種講習会、学術講演会にも積極的に参加している。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
午前	1診	増田	増田	植田	増田	高野
	2診	村上	植田	村上	植田	
					補聴器・耳鳴外来	手術
午後		補聴器・耳鳴外来(1,3,5週)			嚥下外来	
		めまい・顔面神経麻痺外来	手術			手術

診療実績

患者数 (令和3年1月～12月実績)

新規入院患者数 患者数 501人
新規外来患者数 患者数 1,535人

手術実績 (令和3年1月～12月実績)

2022年1月1日～12月31日		件数
耳科手術	計	38件
	鼓膜チューブ挿入術	32件
	先天性耳瘻管摘出術	5件
	外耳・外耳道腫瘍摘出術	1件
鼻科手術	計	182件
	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	90件
	鼻中隔矯正術	49件
	鼻甲介切除術	33件
	涙嚢・鼻涙管手術	1件
	眼窩吹き抜け骨折手術	4件
	その他	5件

耳鼻咽喉科

2022年1月1日～12月31日	件数
口腔咽喉頭手術	計 181件
扁桃摘出術	133件
アデノイド切除術	22件
唾石摘出術	4件
舌・口腔良性腫瘍摘出術	1件
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	1件
咽頭悪性腫瘍摘出術	1件
喉頭微細手術	18件
誤嚥防止手術	1件
頭頸部手術	計 86件
頸部郭清術	5件
顎下腺良性腫瘍摘出術	1件
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1件
耳下腺良性腫瘍摘出術	12件
耳下腺悪性腫瘍摘出術	2件
甲状腺良性腫瘍摘出術	9件
バセドウ病手術	1件
甲状腺悪性腫瘍摘出術	8件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	5件
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	3件
喉頭悪性腫瘍摘出術	3件
リンパ節生検	9件
頸部嚢胞摘出術	3件
顎下腺摘出術	5件
その他の頸部手術	19件
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	18件
気管切開術	25件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 サノフィ株式会社 社内レクチャー
日程・会場等 令和3年4月5日、熊本、講演、オンライン
発表者 増田聖子
演題名 当科で行っている内視鏡下鼻内副鼻腔手術
- 学会名 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会
日程・会場等 令和3年5月8日、熊本、一般演題(口演)、オンライン
発表者 増田聖子、植田寛之、高野若菜
演題名 当科で治療を行った突発性難聴症例の検討

- 学会名 第122回日本耳鼻咽喉科学会
日程・会場等 令和3年5月12～15日、京都、一般演題(口演)、オンライン
発表者 増田聖子、植田寛之、高野若菜
演題名 当院における突発性難聴症例の検討
- 学会名 第122回日本耳鼻咽喉科学会
日程・会場等 令和3年5月12～15日、京都、一般演題(口演)、オンライン
発表者 植田寛之、高野若菜、増田聖子
演題名 扁桃周囲膿瘍の検討
- 学会名 第60回日本鼻科学会
日程・会場等 令和3年9月23～25日、大津、一般演題(口演)、オンライン
発表者 増田聖子、植田寛之、高野若菜
演題名 ゴレドロン酸長期投与による広範な上顎骨壊死の1例
- 学会名 補聴器販売者技能向上研修(熊本会場)
日程・会場等 令和3年11月4日、熊本、講習、日本補聴器販売店協会主催(厚労省委託事業)
発表者 増田聖子
演題名 講義科目:高齢者難聴と補聴器並びに学会としての取り組みについて

論文・原稿等

- 雑誌名 日本補聴器販売店協会機関紙 フィッティングVol.34 No.2
著者 増田聖子
題名 ドクターのページ 災害、コロナと難聴
- 雑誌名 耳鼻咽喉科臨床115(6): 497-502, 2022
著者 増田聖子、植田寛之、高野若菜、草場雄基
題名 眼窩下壁骨折後に生じた眼窩内感染例
- 雑誌名 耳鼻咽喉科臨床115(5): 401-405, 2022
著者 高野若菜、草場雄基、植田寛之、増田聖子 (Corresponding Author)
題名 シリコンカニューレの鼻腔内挿入により鼻出血を制御しえたオスラー病例
- 雑誌名 日本鼻科学会会誌60(4): 531-537, 2021
著者 宮丸悟、志茂田裕、西本康兵、植田寛之、増田聖子、岡崎太郎、讃岐徹治、本田由美、三上芳喜、折田頼尚
題名 内視鏡下に一塊に摘出したHuman papillomavirus-related multiphenotypic sinonasal carcinoma例
- 雑誌名 頭頸部癌48(1): 40-46, 2022
著者 増田聖子、本田由美、村上大造、折田頼尚
題名 内頸静脈からS状静脈洞にかけて静脈内に発生した孤立性線維性腫瘍の長期経過例

耳鼻咽喉科

地域活動の実績

- 熊本県障害児審査委員会委員(H27年度～)
増田聖子
- 日本耳鼻咽喉科学会 熊本県地方部会
学校保健担当委員(H29年度～) 増田聖子
- 日本耳鼻咽喉科学会 熊本県地方部会
医療福祉担当委員(H29年度～) 増田聖子
- 熊本労働局 労災協力医(R2年度～) 増田聖子

認定施設 等

- 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科研修施設
(H29年度～)
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(咽喉系)
(H29年度～)

眼科

スタッフ紹介

眼科副部長

入江 杏菜

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会

眼科医師

吉積 華子

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会

眼科の特色

月曜～金曜の午前是一般外来診療を行っており、月曜・木曜の午後は手術、火曜・水曜・金曜の午後はレーザー治療、硝子体内注射、外来で可能な小手術、眼底造影検査、術前検査など特殊検査・処置を主に行っています。

手術につきましては、当科では主に白内障手術や翼状片手術を入院で行っております。

急患含め、可能な限り多様な疾患に対応したいと思っておりますので、まずご相談ください。今後ともよろしくお願い申し上げます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
入江	入江	入江	入江	入江
吉積	吉積	吉積	吉積	吉積

診療実績

患者数（令和3年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 284人

外来患者数 延べ患者数 5,754人

平均在院日数 2.3日

手術実績（令和3年度年間患者数）

区分	件数
白内障手術	117件
外眼手術、外来手術など	65件

認定施設等

■ 日本眼科学会専門医制度研修施設

リハビリテーション科

スタッフ紹介



リハビリテーション科部長
松村 直樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本リハビリテーション医学会認定医、がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了、日本老年医学会東海支部主催高齢者医療研修会研修修了

リハビリテーション科の特色

当科は、リハビリテーション科医師2名、理学療法士16名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、診療助手3名でのスタッフで構成されています。

リハビリテーションは様々な疾患や外傷によって生じた障害に対して、その評価と診断のもとに必要・適切な治療を行うものであり、食事、移動、排せつ、更衣、整容などの日常生活動作(ADL)を自立して行い、かつ日常生活関連動作(IADL：買い物、調理、洗濯、掃除など)も快適に遂行でき、介助量を軽減して生活の質(QOL)を高め、復学、復職、家庭復帰していくことを目指します。

当院では、急性期脳血管障害、整形外科疾患、脊髄損傷、各種神経疾患のリハビリは勿論のこと、心臓循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患等で安静臥床が必要な患者様に生じやすい廃用症候群の予防を目的としたリハビリについても、入院または手術後の早期から取り組んでいます。

他にも、脳血管障害等で生じた上下肢筋痙縮に対してボツリヌス毒素を用いた治療も行っております。

様々な病態に対して、ニーズに応じたリハビリテーション治療を提供できるよう、知識技術・人間力の向上に努めてまいります。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
松村	松村	松村	松村	松村

脳ドック

月	火	水	木	金
担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

認定施設 等

- 日本脳ドック学会認定施設

放射線科

スタッフ紹介



放射線科部長
臨床教授
荒木 裕至

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本医学放射線学会研修指導者、臨床研修指導医養成講習会修了

放射線科副部長 横田 康宏

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会

放射線科副部長 井上 泰平

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会

放射線科医師 森口 直哉

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会

放射線科の特色

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医修練機関および画像診断管理認証施設に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

平成29年1月より熊本県初導入の2管球CTが稼働しています。熊本県南地区をはじめ医療圏のニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。さらに令和3年10月に2台体制の64列CTを更新致しました。更新したCTはスイッチング方式のデュアルエネルギーCTですので、上記2管球CTと合わせて従来と比べ、レベルアップした診断体制となりました。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
荒木	井上	横田	荒木	荒木
	放射線 治療外来 村上龍次医師		IVR外来 田村吉高 医師	放射線 治療外来 山口晃世医師

診療実績

検査実績（令和3年度年間実績）

区分	件数
CT 検査	16,541件
MRI 検査	5,734件
RI 検査	365件
(その他)大動脈ステントグラフトなど、高度先進的な医療(特殊)な手術・検査を実施。	

学会・講演会発表等

- 学会名** 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和3年9月7日、熊本市(WEB)
発表者 佐々木剛
題名 術後に発生した腹腔内デスモイドの一例
- 学会名** 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和4年3月1日、熊本市(WEB)
発表者 佐々木剛
題名 卵巣静脈原発平滑筋肉腫の一例
- 学会名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年4月23日
発表者 山本宗太郎、井上泰平
題名 HCC術後経過中にデスモイド腫瘍を来した1例
- 学会名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年5月21日
発表者 島本祐希、福岡博文
題名 ヌック管領域から発生した明細胞癌の1例
- 学会名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年7月15日
発表者 吉田龍也、井上泰平
題名 MLF症候群を発症した脳幹梗塞の1例
- 学会名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年10月28日
発表者 三淵静香、福岡博文
題名 臍粘液性嚢胞腫瘍の1例

放射線科

- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年11月30日
発表者 高田 遼、井上泰平
題名 palagangliomaの1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年12月27日
発表者 簗島 弘、福岡博文
題名 脊髄血管脂肪腫の1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和4年1月26日
発表者 宮崎真衣、井上泰平
題名 色素性絨毛結節性滑膜炎の1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和4年2月24日
発表者 松岡亮佑、福岡博文
題名 馬尾神経鞘腫の1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和4年3月22日
発表者 松田崇秀、井上泰平
題名 経過観察中に悪性を疑われたIPMNの1例

認定施設 等

- 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設
- 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

麻酔科

スタッフ紹介



麻酔科部長
集中治療部部長
成松 紀子

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、麻酔科標榜医、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本救急医学会救急科専門医、Infection Control Doctor (ICD)、日本DMAT隊員(統括)



第二麻酔科部長
中央手術部部長
山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、麻酔科標榜医、日本臨床麻酔学会



第三麻酔科部長
中嶋 健

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会専門医、麻酔科標榜医

麻酔科医師

中村 孝英

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会

麻酔科医師

田中 祥平

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会

麻酔科医師

笹岡 美有希

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会

麻酔科の特色

常勤医6名に加えて週1回、熊本大学麻酔科より非常勤医の応援を頂きながら手術麻酔、集中治療に携わっています。術前に麻酔科外来にて直接診察を行い、検査結果などから問題点を拾い上げ、それぞれの患者さまが安全に手術を受けられるよう、最適な麻酔方法を選択します。患者さまへの麻酔

説明もこのときに行いますが、少しでも手術への不安を和らげられるよう心がけており、質問などもお受けしています。術中の麻酔についてですが、麻酔の種類には全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔、下半身麻酔)、局所麻酔などがあります。当院では局所麻酔以外の手術の麻酔はすべて麻酔科医によって施行されます。

術後は麻酔状態からの回復を待って、痛みや吐き気、その他患者さまの全身状態を評価して病棟に戻るためのチェックを行います。手術部位の痛みに対しては硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬の持続注射などでコントロールを行い、麻酔関連の合併症がなかったかどうかの診察も術後数日の間に行っています。

集中治療室は6床あります。基本的には主治医科管理になっていますが、平日の日勤帯は麻酔科医の担当医が携わるようにしています。術後の患者や救急患者の受け入れを行っています。

地域救急医療との連携も当院にとっては不可欠です。救急救命士の気管挿管実習をはじめ、八代地域の救急隊員、救急救命士の技術の向上、知識維持のための定期的な研修にも積極的に協力しています。

診療実績

診療実績 (令和3年度)

症例	件数
手術室における手術件数 (局所麻酔症例含む)	3,302件
麻酔科管理症例数	2,543件
全身麻酔	2,184件

論文発表

- BMC Anesthesiol. 2022 Feb 2;22(1):38. A novel technique for assessment of post-extubation airway obstruction can successfully replace the conventional cuff leak test: a pilot study
Tokunaga K, Ejima T, Nakashima T, Kuwahara M, Narimatsu N, Sagishima K, Mizumoto T, Sakagami T, Yamamoto T.

認定施設等

- 日本麻酔科学会認定病院

病理診断科

スタッフ紹介



病理診断科部長
栗脇 一三

【専門・認定・資格・所属学会】日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会専門医研修指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、厚生労働省認定死体解剖資格

臨床検査技師

主任検査技師

井上 博幸

検査技師

川野 陽子

検査技師

田中 寛大

主任検査技師

森谷 智輝

検査技師

関本 香純

病理診断科の特色

病理診断科では、当院の理念である良質で信頼される医療に貢献するために、診療で提出される患者さんから採取された組織検体や細胞診検体を用いて、病理診断を行っています。

全身の組織（頭頸部、食道、胃、十二指腸、大腸など消化管、肺、肝臓、胆嚢、胆管、脾、卵巣、子宮体部、子宮頸部、膀胱、腎臓、前立腺、皮膚、骨など）の生検や手術標本の診断を行っています。また、細胞診標本（胸水、腹水、肺、脾、胆汁、子宮頸部・体部、甲状腺、乳腺、リンパ節など多彩な穿刺吸引細胞診診断を行っています。これらの診断により、患者さんの手術や化学療法の治療方針の決定がなされることとなります。組織検体から免疫染色や遺伝子解析から、化学療法の選択に寄与する情報の提供も行われています。

術中迅速組織診断により、手術中に断端やリンパ節における癌の有無、腫瘍の良悪の判定を行っています。また胸水、腹水、洗浄液における術中迅速細胞診も行っていきます。

当院で不幸にして亡くなられた患者さんに対して、病理解剖が行なわれることがあります。病理解剖により、最終的な死因や、生前の臨床診断の確認、病変の広がりや治療効果の判定、時に予想してい

ない病変が見出されることもあり、診断治療の検証の機会となっています。

診療実績

診断等件数

	R1年度	R2年度	R3年度
組織診断	3,719件	3,800件	3,337件
術中迅速診断	124件	96件	118件
細胞診断	3,333件	3,172件	3,413件

論文発表等

- 雑誌名 日本臨床細胞学会雑誌(0387-1193)60巻 Suppl.2 Page509(2021.10)
研究者代表 関本香純、川野陽子、井上博幸、森谷智輝、園田鮎美、柴田英克、栗脇一三
題名 細胞診検体にてウエステルマン肺吸虫の虫卵を認めた2例(会議録/症例報告)
- Virchows Archiv : an international journal of pathology. 2022 Apr; 480(4) ; 919-925.
Myxoid type and non-myxoid type of intimal sarcoma in large vessels and heart:review of histological and genetic profiles of 20 cases.
Yuichi Yamada, Izumi Kinoshita, Yoshiko Miyazaki, Yuki Tateisi, Yusuke Kuboyama, Takeshi Iwasaki, Kenichi Kohashi, Hidetaka Yamamoto, Shin Ishihara, Yu Toda, Yoshihiro Ito, Yosuke Suzuki, Kengo Kawaguchi, Mikiko Hashisako, Yui Yamada-Nozaki, Daisuke Kiyozawa, Taro Mori, Takeo Yamamoto, Kenji Tsuchihashi, Kazumi Kuriwaki, Munenori Mukai, Masataka Kawai, Keiko Suzuki, Hirotake Nishimura, Kenji Bando, Junya Masumoto, Mana Fukushima, Junichi Motoshita, Hiroki Mori, Akira Shiose, Yoshinao Oda

認定施設 等

- 日本病理学会研修登録施設
- 日本臨床細胞学会認定施設

初期臨床研修医

臨床研修理念

当院は、多診療科を有する地域の中核病院として、救急医療、がん治療、小児周産期医療など豊富で幅広い症例を背景に、初期研修医に対して、チーム医療の中で、医療の基礎知識、総合的診断能力や基礎的医療技術の修得を目指した研修を実施しています。当院での研修を通して、医師としての社会的使命を認識し、生命に関わる倫理の向上や人格の涵養を図り、どこでもどのような立場でも活躍できる能力を備えた医師の基礎を形作ります。

研修医の自主性が尊重される研修システムであり、積極性のある研修医は臨床経験も豊富となり、大きな伸びが期待できます。

研修プログラムの特徴

内科においては、総合内科として6ヶ月の研修をまず行い、その後希望に応じた多彩で柔軟なプログラムを用意します。今後必須となる、内科での外来初診、救急専属研修もその体制を整えています。

研修医は一学年10名前後と少数であり、指導医がマンツーマンできめ細かく対応しています。経験症例は、カンファレンスや医局会で発表し、1年目から学会(地方、全国)発表も行っています。また、研修期間内で論文(英文和文)の投稿までも指導しており、実績もあります。

その他、労災病院の特色として、勤労者医療・産業医活動、職業別疾病医療も研修が可能です。

2年次研修医(令和3年度採用)



後列左から：牧田真之、松岡亮佑、宮城大智、簗島弘、寺尾孟将(協力型)
前列左から：高田遼、安倍悠乃、宮崎真衣、松田崇秀

1年次研修医(令和4年度採用)



後列左から：田上慧、甲斐智恭、田畑遼、徳永成晃
前列左から：塚本尚紀、持田香織、隅部光、吉岡幸英

中央手術部

スタッフ紹介



中央手術部長
(第二麻酔科部長)

山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、麻酔科標榜医

手術室師長

田頭 久代

臨床工学部長

植田 公昭

麻酔科常勤医師	6名
非常勤	1名
看護師	23名
看護助手	2名
臨床工学技士	6名
医師事務作業補助者	1名
	計39名

○手術室数:8室(うち1室バイオクリーンルーム)、
1室簡易陰圧装置設置

中央手術部の特色

- ・外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、整形外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、眼科、消化器内科の手術を行っています。
- ・予定手術だけでなく緊急手術を数多く受け入れており、休日・夜間は麻酔科医1、2名と看護師2、3名のオンコール体制で24時間の緊急手術に備えています。

看護師の取り組み

- ・術前訪問：外来で、もしくは病室を訪問し入室してから退室前までの流れを説明し、患者さんの不安を少しでも和らげられるよう取り組んでいます。
- ・術後訪問：術後患者さんを訪問し、術中の良肢位保持や安全確保のためのフィードバックにつなげ、より良い看護が行えるよう取り組んでいます。

- ・安全対策：医療事故防止のために、手術全例でマーキング・タイムアウトを実施し、患者確認・手術部位確認の徹底を行っています。

診療実績

手術実績

	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
手術 件数	3,115件	3,277件	3,205件	3,380件	3,049件
緊急 手術	373件	495件	645件	950件	1,166件

手術が円滑に行えるよう各診療科・部門と協力を
行いチーム医療に努めるとともに、患者様が安全・
安心に手術を受けられるよう努力して参ります。

救急部

スタッフ紹介



一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)

外来看護師長

中島 真由子

外来看護師長補佐	2名
看護師	8名
看護助手	1名
医師事務作業補助	1名

救急部の特色

熊本労災病院は、開院以来、八代医療圏のみならず県南地域の二次救急医療の拠点病院として急性期医療を担ってまいりました。八代を中心に、水保・葦北、人吉・球磨、宇城などの周辺医療圏より、年間およそ3,500台から4,000台もの救急車を受入れ入れているほか、ヘリポートの設置以降は、天草医療圏や熊本医療圏など、より遠方の医療圏からの救急患者についても、積極的に受入れを行なっ

ています。

熊本労災病院救急部の特徴は、日勤帯／夜間帯あるいは平日／休日を問わず、24時間、365日、内科系および外科系の当番医師をそれぞれ配置していることにあります。これにより迅速かつ適切な受入れ、初期診療が可能で、全診療科の各専門医の医療的介入へ円滑につなげることが可能となっています。

また当救急部は、いわゆる“持ち寄り型”ともいえますが、疾患によっては、各科専門医が、より迅速に介入できる利点があります。とりわけ高エネルギー外傷などの重症外傷については、外科、整形外科、脳神経外科が連携して対応しているほか、小児科、産婦人科に積極的に参画してもらうことで、熊本県小児初期救急医療病院、熊本県産科中核病院としての機能を果たしています。

そのほか、当救急部としては、八代救急隊との病院滞在型救急ワークステーションや、院内職員や救急隊のほか、保健所、開業医の先生方にもご参加いただく救急症例検討会などをとおして、救急隊はもとより、圏内の救急医療に関わる諸先生方とのパートナーシップをより深化してまいります。救急専門医指揮下の独立した救急チームや専用入院病床の整備など、未完成的な点多々ありますが、従前の体制による機動的な運用でカバーしつつ、今後の継続的進化を目指したいと思います。

最後に、あらためて熊本労災病院救急部の発足をお知らせするとともに、“全ては、救急患者さまのため”、全身全霊を込めて、県南地域の急性期医療を支えてまいる所存ですので、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

救急搬送件数の推移

救急車搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1	348	352	343	360	392	339	317	337	368	371	318	311	4,156
R2	295	299	305	400	372	328	348	319	348	350	292	296	3,952
R3	290	320	293	376	311	291	344	332	378	336	300	378	3,949

救急ヘリ搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R1	2	2	3	3	3	4	3	3	5	3	2	0	33
R2	4	1	0	27(※)	3	2	4	1	3	3	2	1	51
R3	7	0	0	3	3	2	3	3	2	3	3	2	31

※令和2年7月は、豪雨災害による増

DMAT

スタッフ紹介



(統括DMAT)
一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師

片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会

看護師

看護師長補佐

岩本 真奈美

看護師

稲田 聡美

看護師

三浦 由美子

看護師長補佐

橋本 直紀

看護師

中倉 智樹

看護師

大山 里奈

【専門・認定・資格・所属学会】日本DMAT隊員

業務調整員

主任理学療法士

長田 政和

医療ソーシャルワーカー (社会福祉士)

椛谷 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本DMAT隊員

DMATの特色

熊本労災病院は、熊本県地域災害拠点病院に指定されており、DMAT指定医療機関でもあります。DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは、災害時医療派遣チームの一つで、その発端は、1995年に発生した阪神・淡路大震災に遡ります。阪神・淡路大震災においては、500人以上の防ぎ得たであろう災害死があったと推定されています。その背景には、①発災直後から介入できる機動性をもった医療チームがなかったこと、②災害時に診療拠点となる医療機関がなかったこと、③被災地域から非被災地域への患者搬送のシステムがなかったこと、そして④災害時における医療機関の情報を共有するツールがなかったこと、などがあったとされ、我が国の大規模災害への対応の脆弱性が露呈した出来事となりました。これを契機に、①DMATの養成、②災害拠点病院の整備、③広域搬送システムの構築、④EMIS(広域災害緊急医療情報システム; Emergency medical information system)の整備が進められました。

近年、地震災害や豪雨水害などが、毎年のように日本各地で発生し、その規模も広域化、甚大化しています。熊本県も例外でなく、記憶に新しいところでは、熊本地震、九州北部豪雨災害、そして令和2年7月豪雨災害などの大規模災害を経験することとなりました。特に、令和2年7月豪雨災害では、熊本県地域災害拠点病院である当院に、県南地域保健医療調整本部が設置され、球磨川流域をはじめ、甚大な被害を受けた県南地域の豪雨災害に対応することとなりました。このとき受け入れたDMATは、熊本県内のみならず、九州・沖縄、近畿、東海、四国ブロックなど広域に及び、のべ60隊を数えました。またその活動は、病院はもとより、診療所、介護施設、避難所など多岐にわたり、EMIS上でのモニタリングに始まり、医療施設と入院患者、介護施設と入居者の安否確認、避難所スクリーニングなどに奔走しました。また被災医療機関に対しては、資機材の提供のほか、入院患者様の転院・受け入れ調整、病院避難などの支援を行いました。

DMAT

私たち熊本労災病院DMATは、こうした県内有事のみならず、今後起こりうると思われる首都直下型地震や南海トラフ地震など、国家的規模の大災害などに対応すべく、訓練、技能維持に努め、活動してまいります。



各診療科・部門紹介



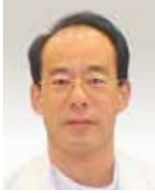
訓練参加時



令和2年7月豪雨

医療安全管理室

スタッフ紹介



副院長
医療安全管理室長
医療安全総括責任者
佐々木 雅人



医療安全管理者
西村 みどり

構成員

医療安全対策委員会
副委員長

大矢 雄希

糖尿病・代謝内科部長

金子 健吾

脊椎外科部長

川添 泰弘

医薬品安全管理者
(薬剤部長)

谷口 一成

医療機器安全管理者
(臨床工学部部長)

植田 公昭

事務局次長

伊藤 新

医事課長

松元 祐至

概要

今日の医療現場では、さまざまな職種の医療従事者がチーム一丸となって協働し、発展する医療技術・機器・機材や医薬品を駆使して、高齢化・重症化が進む患者に医療を提供している。

安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療の質に関わる重大な課題である。そのためには、熊本労災病院及び職員個人が、医療安全の必要性・重要性を施設および自分自身の課題と認識し、医療安全管理体制の確立を図り、安全な医療の遂行を徹底することが最も重要である。

医療事故を防止するためには「人間はエラーを犯すものである」ということを前提として、スタッフ及びシステムによるエラーのチェック機能を強化していくことが重要である。そのためには、医療事故

やインシデント事例の情報収集を恒常的に行うとともに、その発生状況・原因分析及び対策の検討を行い組織横断的に取り組むチーム医療をめざして活動している。

業務内容の特徴と実績

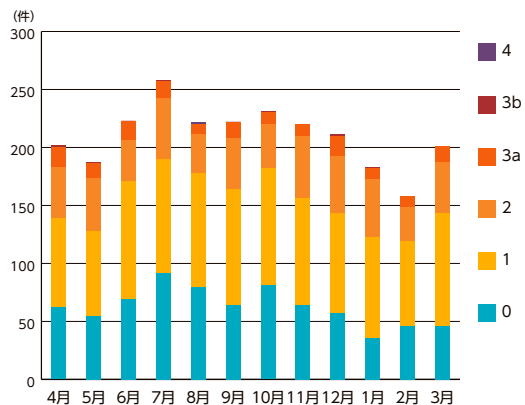
医療安全に対する目標及び活動計画を立案し、インシデントレポート、医療事故報告から発生した事実の把握と対策についての検討を行っている。

また、重要事例に関しては病院長、医療安全管理室長、医療安全管理者は相互に連絡をとり対処し、過失が考えられる重篤な事例に関しては医療安全緊急対策会議にて、対応について検討している。

職員の安全に対する意識向上を図り、本院における医療安全の確保を目的として、医療安全対策委員会の下部組織に実働部隊としてのリスクマネジメント会議を設置している。ここでは多職種による事例分析や情報共有、安全ラウンドを実施し、職種間の連携を重視した活動を行っている。また、職員の安全教育の一環である医療安全対策研修会はe-ラーニングによる研修を実施し、複数回視聴できるように学習の機会を提供している。

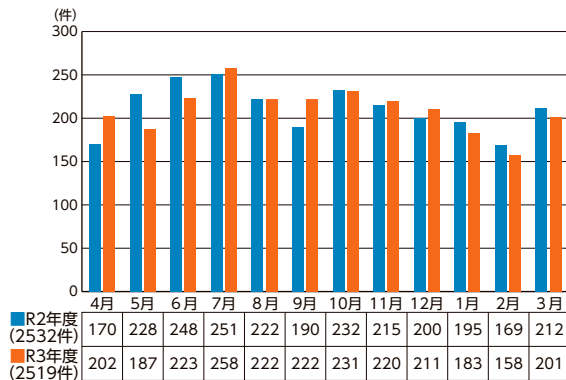
新規採用者、中途採用者へのオリエンテーションを活用した安全教育や、院外での医療安全に関わる研修や講演会への参加、労働者健康安全機構の医療安全研修会の受講を推進し職員の安全文化の醸成に取り組んでいる。また地域連携相互チェック、労災病院間医療安全相互チェックなどを行い、他施設からの助言を取り入れた安全の視点での業務改善なども行っている。

令和3年度月別レベル別報告件数
報告総数2519件

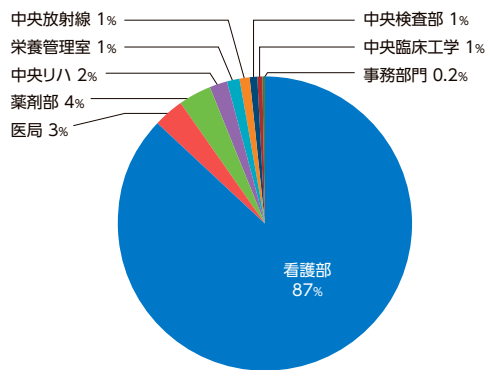


医療安全管理室

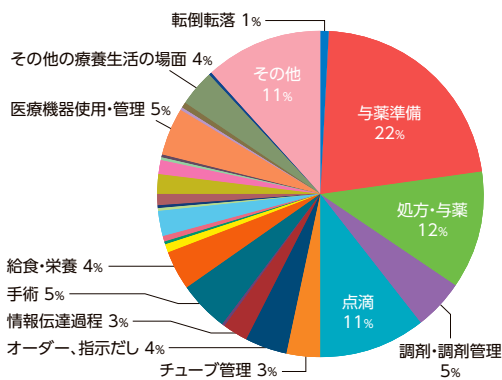
■ 報告件数R2年度、R3年度比較



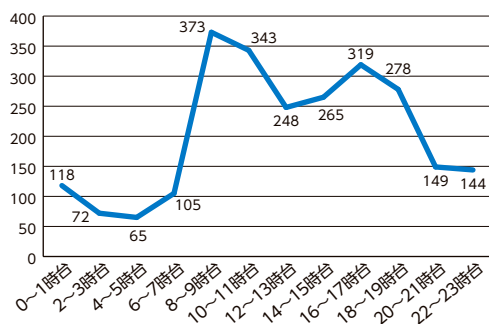
■ R3年度職種別報告



■ R3年度医療事故報告表題別



■ 令和3年度発生時間別件数



医療安全講演会及び研修会

- 2021年7月15日～8月16日 e-ラーニング
テーマ「安全を守るための職員間のコミュニケーション」
全職員視聴100%
- 2021年11月24日～12月20日e-ラーニング
テーマ「コミュニケーションツール SBARについて」
全職員視聴100%
- 2021年7月20日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」医師対象
講師 林田信太郎移植外科部長
- 2021年11月30日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」研修医対象
講師 林田信太郎移植外科部長
- *その他、BLS研修、新人看護師研修(KYT研修、RCA研修)医療ガス研修など開催

医療安全推進週間

- 2021年11月22日～26日
テーマ「患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進」
- 医療安全ポスター掲示
- 手洗いチェック
- 転倒予防「転ばない生活を送るために」ビデオ放映
栄養関連ポスター掲示
- 院内安全ラウンド
- システム改善ポスター発表
 - 医事課「書類の誤送付を防ぐ安全な提供体制」
 - 中央検査部「当院での肺機能検査における感染症対策」
 - 中央臨床工学部「人工呼吸器の安全管理」
 - 栄養管理部「災害備蓄食品についての検討」
 - 薬剤部「簡易懸濁法のススメ」
 - 中央リハビリテーション部
「リハ前後の患者様の待ち時間に対する試み」
 - 中央放射線部「患者間違い防止」
 - 看護部「薬の服用管理・転倒転落予防への取り組み」

感染制御部

スタッフ紹介



感染制御部長
(呼吸器内科部長)
安道 誠

【認定・資格】 インфекションコントロールドクター

感染管理認定看護師
和久田 容子

感染対策チームスタッフ

小児外科部長
大矢 雄希

【認定・資格】 インフェクションコントロールドクター

主任薬剤師
丸山 久美子

【認定・資格】 感染制御専門薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師

主任臨床検査技師
森口 美琴

【認定・資格】 感染制御認定臨床微生物検査技師

主任臨床検査技師
浜島 智央

【認定・資格】 感染制御認定臨床微生物検査技師

感染制御部の特色

感染制御部は院内感染対策を円滑に行うための院長直属の組織として2007年に設立されました。病院内における感染対策の充実のみではなく、地域の医療機関や福祉施設等との連携、支援を行うことで、地域における感染対策の質および意識の向上にも努めることを目的としています。

感染制御部では、下部組織である感染対策チームと協働し下記の業務を行っています。

- 院内感染発生状況、耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況の把握、分析および院内への情報提供。
- 院内感染対策マニュアルの作成および改訂に関すること。
- 院内感染対策の実施状況の把握および対策の評価と改善。

- アウトブレイク発生に係ること。
- 職業感染(血液体液曝露、ウイルス性疾患、結核等)の対策に係ること。
- 感染症および院内感染対策に係るコンサルテーション業務および教育。
- その他、院内感染対策に係ること
- 連携施設、地域の医療機関および介護施設等からの感染対策に係るコンサルテーション業務および支援。
- 地域における感染対策に係る研修会の開催。

院内における活動内容

(1) 院内感染対策委員会

部長が委員長をつとめ、ICTより耐性菌の検出状況および指定抗菌薬の使用状況等の報告を行い、病院における感染対策の方針等に関する検討を行っています。新型コロナウイルス感染症の対応の検討、情報提供を行い、必要時には他の委員会と協働し対応を検討しました。

(2) ICTミーティング、院内ラウンド

週1回、院内感染対策に係ることについて会議を行い、病院内のラウンドを行うとともに、耐性菌検出者およびCDIの患者に対する感染対策実施状況の確認を行っています。耐性菌等の集積が認められた場合には、遺伝子検査による確認を行い必要時に介入しています。

- 令和3年度ICTラウンド対象患者
 - MRSA：95件
 - ESBL産生菌：64件
 - その他の耐性菌：37件
 - CDI：34件
- 遺伝子検査(POT法) 事例なし

(3) サーベイランスの実施

- 厚生労働省院感染対策サーベイランスの登録(検査部門、SSI部門、全入院患者部門)
- 熊本県感染管理ネットワーク微生物サーベイランス
- 耐性菌サーベイランス
- 手術部位感染(SSI)サーベイランス(外科)
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連サーベイランス(ICU)
- 手指消毒剤使用量調査

感染制御部

(4) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動

広域抗菌薬(MEPM、DRPM、LVFX注、CZOP、TAZ/PIPC)や抗MRSA薬(VCM、DAP、TEIC、TZD、MUP)の届出制、LZDの許可制を導入し、使用状況の確認および薬剤部によるTDMを実施し、適正な抗菌薬の使用ができるよう必要時フィードバックを行っており、2018年度よりASTを組織し活動を開始しました。2020年度からは外来における上気道炎および感染性胃腸炎に対する経口抗菌薬の使用についての把握も行き、抗菌薬の適正使用に向けた取り組みを行っています。

■ 令和3年度 AST介入実績

- 血液培養陽性者：247件
- 指定抗菌薬の使用が7日間を超えた患者：128件

(5) 職業感染対策

事務部門の支援のもと、新入職者の抗体価(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、HBVなど)検査および必要時のワクチン接種、インフルエンザ流行前のインフルエンザワクチンの接種を行っています。また、針刺しなどの血液体液曝露が発生した際の対応支援および報告書の管理、発生状況の分析等を行っています。

その他、院内での流行性疾患の曝露事例が発生した場合、接触者を把握し、経過のフォローを行っています。

■ 令和3年度 血液・体液曝露発生数

針刺し・切創：20件、粘膜曝露：1件、その他：0件

■ 結核

- 令和3年度 結核曝露発生数
外来：0件、病棟：2件
- 曝露に関連した職員の検査
T-SPOT検査：196名(延べ人数)

■ 水痘・带状疱疹

- 水痘
- 汎発性带状疱疹
抗体検査：職員16名、入院患者16名
2事例とも曝露が考えられた職員、入院患者で十分な抗体価を確認

(6) 教育・啓発

【教育】

■ 入職者オリエンテーション

■ 院内感染対策研修会の企画・開催(e-learningにより開催)

- 令和3年10月8日～10月31日
プログラム1(対象：医師、薬剤師、看護師)
「Clostridioides difficile検査について」
「Clostridioides difficileの感染対策について」
プログラム2(対象：プログラム1対象以外の職員)
「COVID-19の現状と対策について」
- 令和4年3月8日～3月31日
「抗菌薬～投与量について～」
「COVID-19の感染対策について」

【啓発・広報】

■ 院内感染対策菌 週報の発行

■ 院内誌(ばんぺいゆ)における「Infection Control Teamだより」の掲載

■ 医療安全推進週間におけるイベント(外来ホールにおける手洗いチェック)

■ かじゅめる冬号掲載「新型コロナウイルス感染症対策について」

(7) コンサルテーション

院内・院外を対象に、感染症診療および感染対策に関するコンサルテーションを行っています。

(8) アウトブレイク等の対応

【令和3年度における対応事例】

■ 新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生した事例 クラスター発生時における当該病棟のスクリーニング検査(延べ人数)

職員500名、入院患者700名

■ 新型コロナウイルス感染症の院内発生事例

(9) 感染防止対策加算に係るカンファレンスおよび相互チェックの実施

■ カンファレンス

連携病院：八代北部地域医療センター、平成病院

- 令和3年7月8日
「令和2年度集計報告」
- 令和3年10月18日(Web開催)
「COVID-19に関連した職員の対応について」
- 令和3年12月20日
「ICTメンバーとしての各職種の仕事について」

感染制御部

- 令和4年3月14日(Web開催)
「COVID-19感染対策(クラスター報告含む)」
「令和4年度診療報酬改定について」

■ 相互チェック

連携病院：天草地域医療センター、くまもと森都
総合病院

訪問 天草地域医療センター(令和3年11月26日)

受審 くまもと森都総合病院(令和3年11月5日)

地域活動の実績

地域における活動

- 熊本県感染管理ネットワーク
- 熊本臨床微生物ネットワーク(KCMN)

COVID-19に係るクラスターおよび感染対策支援

- クラスター支援：6件
- 感染対策支援：2件

発表等

- **学会名** 第9回日本感染管理ネットワーク学会
(令和3年5月Web開催)ポスター
- 発表者** 和久田容子
- 題名** 病院内保育所における感染性胃腸炎集団
発生の経験と今後の課題

地域医療連携部

スタッフ紹介



副院長
地域医療連携部長
松村 敏幸

副院長
地域医療連携副部長
福松 之敦

スタッフ

●地域医療連携室	
地域医療連携室係長	1名
MSW	3名
退院支援看護師	4名
事務職	2名
●入退院支援センター	
入院支援看護師	4名

地域医療連携室、入退院支援センターの特色

地域医療連携室では、地域医療機関(患者様の転院受入調整及び紹介患者様の問い合わせ等)、市町村行政機関、介護保健施設等と幅広く連携業務を行っています。

また、患者様に対して、各諸法制度に関する手続き、各種障害、生活支援・行政サービスに関する相談などを行っています。他の医療機関とも更なる連携強化を図り、患者様に良質な医療が提供できるよう努力しています。

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携し、がん等で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を開設しています。

入退院支援センターでは、入院前の患者様に対し多方面からサポートし、必要に応じて多職種と連携をとりながら患者様の入院に対する不安の解消を図っています。

業務体制

地域医療連携室は、医師2名(兼任)、看護師4名、MSW3名、事務職2名(1名兼任)の12名、入退院支援センターは、看護師4名(2名兼任)体制です。

ここでは、患者様の紹介・逆紹介の手続きや、入院患者様の入院から退院までのサポートを実施しています。

また、がん相談支援センターの専任看護師と共に、地域の医療機関とがんに関する情報を共有し、より緊密な連携を図り、地域がん診療の向上に努めています。

「両立支援相談窓口」では、がん等の病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成29年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

業務実績

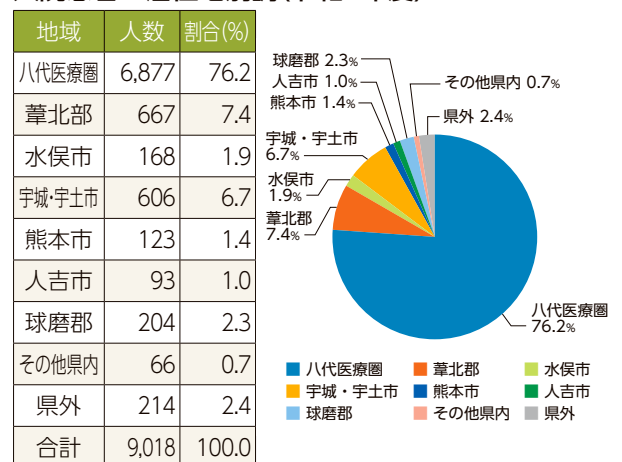
相談・支援件数

令和3年度	退院相談	1,464件
	在宅療養支援(外来)	611件

紹介率・逆紹介率

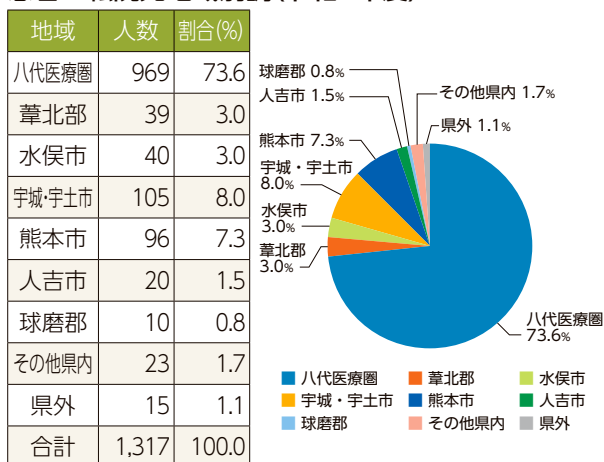
	令和2年度	令和3年度
紹介率	80.8%	79.0%
逆紹介率	98.9%	97.8%

入院患者の居住地別調(令和3年度)



地域医療連携部

患者の転院先地域別調(令和3年度)



両立支援相談窓口相談件数等実績(令和3年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	2	2	1	1	2	5	2	2	1	0	2	1	21
面談数	7	5	8	5	8	10	13	7	10	3	4	12	92

地域医療連携の会の開催

地域医療連携の会は2部制になっており、第1部では当院医師の専門分野について講演を行い、第2部では懇親会を開催し、地域の開業医等の先生方との意見交換を行っています。令和3年度は、COVID-19の感染状況を鑑み、特別講演会としてハイブリッド形式(来院およびオンライン)にて開催しました。今後は感染状況が収まり次第、従来の形態で開催する予定です。

令和3年度

- 日時 令和3年9月10日(金)
- 場所 講演会会場：熊本労災病院 中央診療棟5階会議室
オンライン会場：インターネットによる動画配信(zoom)
- 出席者数 139名

地域医療支援病院運営委員会の開催

年4回外部委員の出席の下、地域医療連携の実績報告と外部委員の提言をお聞きし、地域医療支援病院としての運営に関する意見交換を実施しています。

- 委員会名 第1回地域医療支援病院運営委員会
■ 日時 令和3年5月26日(水)
■ 場所 東西棟2階会議室
■ 出席者数 外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 6名
看護部 1名
- 委員会名 第2回地域医療支援病院運営委員会
■ 日時 令和3年8月26日(木)
■ 場所 中央診療棟5階会議室
■ 出席者数 外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 6名
看護部 1名
- 委員会名 第3回地域医療支援病院運営委員会
■ 日時 令和3年12月9日(木)
■ 場所 中央診療棟5階会議室
■ 出席者数 外部委員 6名
当院委員 5名
事務局 6名
看護部 1名
- 委員会名 第4回地域医療支援病院運営委員会
■ 日時 令和4年2月25日(金)
■ 場所 中央診療棟5階会議室
■ 出席者数 外部委員 6名
当院委員 4名
事務局 6名
看護部 1名

看護部

スタッフ紹介



看護部長

葉玉 博子

看護副部長
坂上 和江看護副部長
荒川 直美

スタッフ

看護師長	12名
看護師長補佐	13名
看護師	373名
准看護師	4名
看護助手	22名
ワーカー	3名
(令和4年5月1日現在)	

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者さまに寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

令和3年度目標

- 看護の質向上
- 病院組織運営への貢献
- 看護職として主体的な自己成長
- 働きやすい職場づくり

「看護の質向上」では、地域包括ケアシステムの推進を背景に、特に重きをおいたのが切れ目のない看護の提供や地域とのつながりです。退院後訪問やオンラインでの地域懇談会の開催、新人看護師研修への他病院からの参加など実施してきました。今後も地域のニーズにあった取り組みを展開できればと思っております。

「病院組織への貢献」では、看護部門が関連する診療報酬加算に関して積極的に関わりました。その他、当院は新型コロナウイルス感染症の重点医療機関です。その役割を果たすべく看護部では新型コロナウイルス感染症の病床に対して、他病棟の協力により応援体制を実施した事や外来では発熱外来への対応など柔軟な取り組みをおこないました。

「看護専門職としての自己成長」では、コロナ禍の

中でオンラインやeラーニングでの研修が定着してきました。必須の研修の視聴はできていますが、主体的な参加に課題があります。動機づけして受講を推進していきたいと考えています。

「働きやすい職場づくり」では、働きかた改革法を背景にワークライフバランスを考えた働き方が求められています。業務の効率化を考えておむつセットの導入など業務改善に取り組んできましたが、まだ尾に就いたばかりです。今後も引き続きの課題として取り組んでいきます。

管理・運営

看護部職員配置

(令和4年5月1日現在)

看護部管理室	看護部長	1名
	看護副部長	1名
	看護副部長(兼看護師長)	1名
	医療安全管理者(看護師長)	1名
	リソースセンター(看護師長補佐)	1名
	リソースセンター(看護師)	6名
	地域医療連携室(看護師)	7名
	看護部(看護補助者)	1名
病棟部門	看護師長	9名
	看護師	284名
	看護助手	17名
	ワーカー	3名
外来部門	看護師長	1名
	看護師長補佐	2名
	看護師	56名
	准看護師	4名
	看護助手	2名
手術部門	手術室(中央材料室兼務)看護師長	1名
	手術室看護師長補佐	1名
	手術室看護師	21名
	手術室看護助手	2名

看護体制

- 7：1看護(平成21年5月1日～)
- 夜間勤務等看護加算取得
- 3交替制(病棟、ICU)
2交替制(救急外来)
待機制(手術室)

看護部

各種会議・委員会

各種会議・委員会	開催頻度
看護師長会議	月2回
看護師長補佐会議	月1回
教育委員会	月1回
キャリアアップ支援委員会	月1回
新人看護職員育成委員会	月1回
看護研究・倫理委員会	月1回
看護記録委員会	月1回
在宅ケア委員会	月1回
看護業務基準・手順委員会	偶数月1回
看護部安全対策委員会	月1回
看護部感染対策委員会	月1回
看護部患者サービス委員会	奇数月1回
看護部NST・褥瘡対策委員会	月1回
看護部クリニカルパス委員会	月1回
認定看護師会	年3回

各種会議(主な会議)

- 師長会議
看護部門の最高決定機関として、看護部内の管理・運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡・調整・協議します。
- 師長補佐会議
看護部門の第一線の現場に関する管理、運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡、調整、協議します。

各種委員会(主な委員会活動について記載)

- 教育委員会
キャリアラダーでは51名のレベル認定を行いました。個々に能力を開発、維持・向上し、キャリアを形成できるように支援しています。
- キャリアアップ支援委員会
継続教育として役割別研修・ラダー別のキャリアアップ研修に取り組みました。IVナース研修では、レベル1・2(25名)、レベル3(295名)の看護師が取得することが出来ました。看護の質向上の推進力となる人材育成に取り組みます。
- 新人看護職員育成委員会
新人看護職員が看護技術を習得できるように研修を企画し、集合研修とOJTが連動するよう取り組みました。また、研修後は職場環境に適応できるようストレスチェックを参考にしながら支援しました。
- 看護研究/倫理委員会
看護研究では外部講師の指導の下、新規2部署、継続3部署が取り組みました。倫理委員会では、看護倫理の勉強会を行い、倫理的視点を広げることができました。

- 看護記録委員会
看護記録の質向上を目指して看護記録監査、新人看護職員研修の企画、看護計画の見直しなどを行いました。また、超過勤務の要因になっている記録時間の短縮は課題です。
- 在宅ケア支援委員会
勤労者看護、在宅毛の推進と支援の充実に目的に、退院後訪問を6例実施しました。生活者の視点を得ることで、積極的な看護介入・支援を早期に行う事につながりました。病棟や外来間において看護が連携できるように推進しました。
- 看護基準・手順委員会
看護基準・手順の作成、見直しを行い、看護部の基準・手順の統一を行いました。オムツ交換では、手順を統一するために外部講師による研修を複数回実施しました。
- 看護部安全対策委員会
前年度のインシデント・アクシデントのデータより、転倒転落予防対策(離床センサー使用の統一)、与薬のルールアウト対策、リスク感性支援の3点に着眼し取り組みました。
- 看護部感染対策委員会
主に3点取り組みました。①指手衛生の適切なタイミングと方法②医療廃棄物の正しい取り扱い③膀胱留置カテーテルの適正使用です。各部署の委員と共に自部署の状況把握とスタッフ指導を実施しました。
- 看護部患者サービス委員会
退院時アンケートや接遇意識調査を行いました。退院時アンケートの意見に対しては、各部署で改善策を考え接遇向上に取り組みました。ユニホーム着用基準の変更に伴い、接遇基準や身だしなみチェックの改訂を行いました。
- 看護部NST・褥瘡対策委員会
NSTに対する認識を高め適切な栄養管理を行い、褥瘡及びブスキンテアの予防・早期発見・早期治療を図ることを目的に活動を行いました。
- 看護部クリニカルパス委員会
クリニカルパス利用率50%以上維持、患者用パス利用率向上を目標とし活動しました。新規パス作成と既存パスの改訂を行い、クリニカルパスの平均利用率57.7%。患者用パスの使用率は26%から78%と増加しました。

看護研究発表

- 熊本県看護協会八代支部
「誤嚥性肺炎患者の食事指導～継続した食事介助を行うために～」(東5病棟)
「ICU看護師の看護実践における達成感の実態調査～看護実践とWork Engagement～」(ICU病棟)
- 第52回 日本看護学会 学術集会
「リンパ覚醒術を受けた婦人科悪性腫瘍患者のリンパ浮腫に対する思い」(東3病棟)
- 第35回 日本手術看護学会
「手術看護師の仕事に対するモチベーションの現状～人間関係に焦点を当てて～」(中央手術室)

認定看護師

皮膚・排泄ケア

スタッフ紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師
坂田 舞

はじめに

2011年6月に認定資格を取得し、2012年5月よりリソースナースセンターに配属、主に褥瘡管理者専従として、皮膚・排泄ケア領域における看護活動を展開してきました。2021年度の活動内容について、以下に報告します。

活動内容

褥瘡対策チームや看護部NST褥瘡対策委員などと連携して看護の質向上を図りました。特に、以前より大きな課題であった排泄ケアに関する教育の充実を行いました。全看護職員を対象に、おむつ排泄を余儀なくされた患者へ快適な排泄ケアを提供できるように、正しくアイテムを選択し適切に使用できるように研修会や演習、院内ラウンドを実施しました。今後も継続できるように、委員会で協力して計画・実践していきます。今後はおむつ排泄だけでなく、排泄ケアのアセスメント能力を高め、倫理的視点を持って排泄ケアを提供できるように研修の質を高めていきたいです。

教育面において、ウェビナーを開催することができました。対面での研修会を行いにくい状況は続いており、またオンデマンド配信も可能なため、効率的な教育手段として有用でした。今後も院内および地域のニーズを取り入れたウェビナーを企画していきたいです。

活動実績

<Wound>

ケア内容	件数
褥瘡ラウンド WOC褥瘡ラウンド	476件
褥瘡チーム回診	91件
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	539件
在宅等患者相談	27件
スキンケア、その他 予防的スキンケア、スキンテアの予防と管理など	35件
術創ケア 治癒遅延した手術創・感染創の洗浄、外用、被覆、局所陰圧閉鎖療法等	125件
難治性潰瘍 循環器足壊疽外来など	529件
ドレーン・瘻孔ケア	58件

<Ostomy>

ケア内容	件数
ストーマサイトマーキング	28件
装具選択、セルフケア指導、生活指導など	218件
トラブルケア	173件
在宅サービス、転院先との連携	48件
在宅訪問	2件

<Continence>

ケア内容	件数
失禁関連皮膚障害の予防的治療的ケア 排便障害のアセスメント、内服調整、洗浄、外用、保湿・撥水ケアなど	22件
排泄管理指導 自己導尿指導、骨盤底筋群体操など	12件

<教育>

研修内容	開催回数	参加人数
院内ワンポイントレクチャー 昼カンファレンスなどを活用した 15分程度の勉強会	2回	20人
新人研修 褥瘡ケア、排泄ケア	1回	32人
院内研修 排泄ケア	8回	398人
WEBセミナー 熊本労災病院 地域連携看護懇 談会 褥瘡症例検討会	1回	43人
熊本労災看護専門学校講義	3回	40人
熊本県看護協会八代支部共催 皮膚排泄・スキンケア ～知っておきたいスキンケアと褥瘡対策～	1回	7人
合計	16回	540人

認定看護師

学会・講演会発表等

- **学会名** 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会およびThe 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference同時開催
- 日程・会場等** 令和3年7月3日～7月5日(WEB)
- 演題名** Applying assessment tool in sitting and forward-bending positions improved stoma management in patient with spinal deformity: A Case report

認知症看護

スタッフ紹介

認知症看護認定看護師

上淵 恵子

認知症看護認定看護師

柿本 里美

はじめに

認知症看護の質の向上を図り、認知症患者様が安心して安全に治療や入院生活支援を受け、できるだけ早く生活の場へ退院されることを目的とし、認知症・せん妄ケアチームの一員として支援を行っています。

病棟看護師に対しては、患者様との「関わり方がわからない」「コミュニケーションがうまくとれない」といった相談に対応し、認知症のある方に対しては個々のニーズや苦痛、気になること、困られていることはないかを患者様ご本人に『聴く』こと、言葉でうまく伝えられない代わりに『何らかのサインを発信されていないか確認する』ことを意識し、病棟看護師と一緒に考えながら活動しています。

年間活動報告

(1)病棟ラウンド

毎週水曜日：せん妄ケアチームラウンド

毎週金曜日：認知症ケアチームラウンド

(2)院内研修

- 熊本労災病院専門学校 老年看護学方法論Ⅱ 日常生活援助技術講義
- 院内新人看護師研修「認知症の基礎知識とケアの方法」
- 病棟ミニレクチャー
- 看護補助者集合研修「認知症の基礎知識」
- 認知症ケアチーム院内研修「高齢者のせん妄 不眠時、不穏時の薬剤選択について」

(3)院外相談

- 認知症ケア加算取得に関する業務について

認定看護師

クリティカルケア

スタッフ紹介

クリティカルケア認定看護師
寺瀬 真利子

はじめに

平成27年6月に集中ケア認定看護師となり、ICU病棟に所属し院内で活動を行っている。特定行為研修を修了し、今年度よりクリティカルケア認定看護師へ名称が変更となった。ここに令和3年度の活動について報告する。

活動と評価

❶ 集中ケア領域において自らが役割モデルとなるよう、知識や技術の実践指導を行う。

(1) 専門コースの開催(4回/年)

呼吸サポートチームとして研修を企画、開催した。

期日	内容	参加人数
6月24日	1. 人工呼吸について 2. 人工呼吸器運用	84名
7月26日	1. 呼吸のフィジカルアセスメント 2. 人工呼吸中の看護	43名
9月21日	1. NPPVについて 2. マスクフィッティング	45名
10月25日	1. 呼吸リハビリテーション 2. NPPV設定について	29名

(2) 院内におけるコンサルテーション

呼吸サポートチームメンバーとして週に1回のラウンドを実施した。設定と指示書の確認や物品管理について確認し、看護ケアに関する助言を行った。また、アンカーファスト装着について病棟でのレクチャーを4件行った。

(3) 新人教育研修講師、熊本労災看護専門学校講師

4月	フィジカルアセスメント 循環
5月	フィジカルアセスメント 呼吸
2年生	「健康危機状況にある人の看護」
1年生	「フィジカルアセスメント」

❷ 生命の危機状態にある患者・家族に対し、より良いチーム医療が提供できるよう、リーダーシップを発揮し、関連する多職種との連携と協働ができる。

(1) 看護師特定行為の実施

直接動脈穿刺法による採血	22件
橈骨動脈ラインの確保	15件
経口用気管チューブ位置確認	5件
人工呼吸器からの離脱	3件

認定看護師

緩和ケア

スタッフ紹介

緩和ケア認定看護師
岡山 浩子

はじめに

2005年8月に認定取得し16年目を迎え、緩和ケアチーム専従看護師、がん専門相談員として活動した。令和3年度の活動を以下に報告する。

活動と評価

(1) 参加学会、ポスター発表

- 学会名 第26回 日本緩和医療学会学術大会参加Web学会参加
- 日程 令和3年6月18日(金)～6月19日(土)
- ポスター発表 「当院循環器内科における心不全による死亡患者に対するオピオイド使用調査」

(2) 緩和ケア研修開催

- 8月21日(土)
- 医師:20名、研修医:6名、薬剤師:1名、看護師11名

(3) 緩和ケアチーム回診

- 296件/年 新規介入:91件
- 回診実施(2回/週、月曜・木曜日実施、適宜臨時回診実施)
- 依頼診療科(呼吸器内科、消化器内科、泌尿器科、整形外科、婦人科、消化器外科、耳鼻科)

(4) がん患者指導管理

(診療方針等医師と共同) イ:77件

がん患者指導管理

(心理的不安の軽減) ロ:24件

(5) 教育

- ① 熊本労災看護専門学校講義
成人看護学方法論Ⅲ(終末期と緩和ケア) 90分×3回
第52期生
- ② 専門コース、Web研修実施 内容と閲覧数
「人生会議(ACP)について」:17件

(6) がんサロン

- 1回/月、新型コロナ感染対策にて対面開催できず、オンライン開催へ変更し2021年9月から実施

(7) がん相談員活動

(令和3年度 がん相談員活動報告参照)

- 新型コロナ感染対策でピンクリボンイベント開催中止となり乳がん検診推進のため動画を作成した

(8) 市民公開講座

- 新型コロナウイルス感染拡大のため未開催

(9) 熊本緩和ケアカンファレンス開催

- 2021年10月28日(木)
- 内容:「地域における「人生会議」に実情」
- 参加施設:38施設 参加人数:131名

評価

学会や研修は計画通り参加し、緩和医療学会ではポスター発表も合わせて行い、「当院循環器内科における心不全による死亡患者に対するオピオイド使用調査」について発表した。

緩和ケアチームの回診は、定期回診と臨時回診を行ったが、コロナ禍の影響により、チームメンバー全員で回診することは控えた実施となった。

教育では、看護学生の講義を例年通り行い、GW形式で実施し患者・家族の疑似体験をしてもらい看護ケアについて検討してもらった。学生の反応として「患者や家族の気持ちを疑似体験することで相手のことを考えることの必要性を学んだ」等の言葉が聞かれた。GW形式の授業は、学生にとって患者や家族の気持ちを考え理解しようとする大切さをしる意味で有意義な内容となっていると考える。

専門コースのWeb研修は、「人生会議(ACP)について」を配信した。受講者からは、「人生会議を身近なことと感じた」等の意見が聞かれた。

がん患者指導管理(診療方針等医師と共同)は、算定件数としては昨年度と比較して大きな増加とはならなかったが、同席に対し医師からの依頼も徐々に増加している。

がんサロンの開催は、新型コロナ感染対策で中止となっていたが、9月からオンラインで開催することとした。しかし、オンラインに馴染めない対象者

認定看護師

が多く、参加人数の増加は図ることができなかった。

緩和ケアカンファレンスは、オンライン形式で行ったことで県内各地から参加してもらうことができ、「人生会議」の啓蒙となったと考える。

次年度の課題

新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、病棟のカンファレンスに参加して倫理的な視点を含めたケアの振り返りを提案したり、研修やイベント開催について院内外へ緩和ケアの普及のための活動を検討していく必要がある。

がん化学療法看護

スタッフ紹介

がん化学療法看護認定看護師
梅田 知寿子

年間活動報告

外来化学療法センターに在籍し、外来通院治療時の看護を実践するとともに、認定看護師として、入院患者の有害事象への対応等の指導を病棟スタッフへ行っています。

外来治療開始前に、入院から外来通院治療へ移行するためのオリエンテーションを実施し、患者や家族が安心して治療を受けられるように取り組んでいます。くわえて、がん化学療法による有害事象については、医師・薬剤師・外来化学療法センターの看護師たちと情報共有し、より安全で安楽に治療ができるように取り組んでいます。また、医師・薬剤師・各科外来スタッフと連携を図り、化学療法センター入室時に待ち時間が発生しないようにベッドコントロールを行っています。昨年度の外来化学療法センターの利用総数は約1,750件でした。消化器科、呼吸器科、乳腺外科などを中心に多くの科で外来通院治療が増えてきています。

毎月第2・第4週水曜日の消化器がんボードでは、消化器内科・消化器外科・放射線科などの医師を中心に看護師、薬剤師などのスタッフも参加し、治療中の患者や今後治療導入予定患者などの情報共有や意見交換が行われます。その内容を外来スタッフと共有し、スムーズな治療継続サポートを心掛けています。また、月1回開催のがん化学療法委員会へ参加し、認定看護師としてレジメンの審査に携わりつつ、化学療法センターの状況について報告しています。今年度は院内のIVナース制度のスタートによりCVポート穿刺の院内認定看護師を育成する支援を行い、化学療法センターのスタッフにも院内認定取得をすすめました。

認定看護師

脳卒中リハビリテーション看護

スタッフ紹介

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師

水町 広恵

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師

田中 孝樹

はじめに

脳卒中看護分野において自己研鑽かつ、スタッフの知識・技術の向上に努め、多職種とのチーム連携を強化し、患者に質の高い看護が提供できることを目標にして活動を行った。活動内容を以下に報告する。

年間活動報告

活動内容

- ① 病棟において入院患者の観察やアセスメント、CT・MRI画像評価をスタッフとともに行った(実践・指導)
- ② 熊本労災看護専門学校講師
生活行動に障害がある人の看護(脳卒中患者を通して)4月～5月 計4回
老年期看護方法論I 10月～2月 計7回
- ③ フィジカルアセスメント研修:脳神経 5月
食事援助と口腔ケア研修 5月
- ④ 病棟学習会開催(計6回)
t-PA患者の看護について 9月
脳血管の走行について 10月
高次脳機能障害について 11月
- ⑤ 活動日の他病棟の脳卒中患者ラウンドの実施(計5日)
- ⑥ 排尿ケアチーム活動 ラウンド件数70件

糖尿病看護

スタッフ紹介

糖尿病看護認定看護師

本山 詔誇

はじめに

2011年に認定看護師資格取得、リソースナースセンターに異動となり8年目を迎え、院内外の糖尿病看護における活動を行いました。その活動を以下に報告します。

活動状況

(1) 看護師の糖尿病看護力の向上

- ① 看護師の教育支援・研修会の開催:専門コース・研修会の企画・運営、看護学校講義

(院外)

- 実践力開発セミナー 7月11日
ハイブリット配信 ファシリテーター
- フットケア研修 10月13日
WEB開催 11月28日 玉名 ハイブリット開催
- 糖尿病看護学習会
2022年2月16日～3月15日 WEB配信
視聴者数 ①正しい爪切り 48名 ②胼胝ケア 23名
- 他職種ミーティング 熊友パスについて
2022年3月14日 ハイブリット配信
- 熊本労災病院看護専門学校講義
セルフケアマネジメント 4回/年

(院内)

- 新人研修 糖尿病の薬物療法 5月11日
- ミニレクチャー (病棟研修) 7月5日
新しいインスリン製剤について
- 認定看護師News 2回発行 (病棟向け新聞)
9月:新しいインスリン製剤について
3月:インスリン針の取り外しについて
- 糖尿病週間イベント ポスター展示
11月8日～11月15日

(2) 自己研鑽

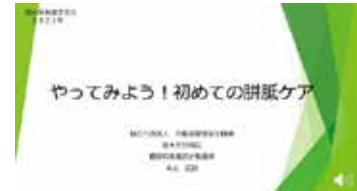
- 第26回日本糖尿病教育・看護学会
9月18日～9月19日
- 第64回日本糖尿病学会年次学術集会
5月20日～5月22日
- 第8回日本糖尿病療養指導士学術集会
7月24日～7月25日

認定看護師

- 第15回日本慢性看護学術集会
8月28日～8月29日
- 第56回糖尿病学の進歩
2月25日～2月26日
- 他webセミナー視聴

③ その他 役員活動

- 日本糖尿病教育・看護学会 ネットワーク委員
- 熊本地域糖尿病療養指導士会 認定委員・研修委員
- 熊本県南実践フットケア研究会 世話人



糖尿病専門コース WEB配信 2022年2月16日～3月15日

(2) 継続支援:療養指導・フットケア・透析予防指導

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	
療養指導 (170点)	コストあり	7	3	3	4	7	4	6	2	4	6	3	4	53	39
	コストなし	3	3	3	1	0	3	2	2	1	4	3	2	27	30
透析予防指導 (350点)	男性	6	2	8	6	8	4	7	4	5	3	4	5	62	63
	女性	5	3	7	7	5	5	3	3	5	5	3	7	58	61
フットケア (170点)	合併症管理料+胼胝処置	4	3	4	4	6	6	5	5	3	3	4	5	52	60
	合併症管理料	18	19	19	20	17	16	16	15	22	20	16	20	218	192
	胼胝処置	2	1	1	2	1	1	0	1	0	1	0	0	10	11
	外来コストなし	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	2
	病棟	1	1	2	2	1	2	1	0	1	2	0	1	14	16
糖尿病教室	3	1	3	4	4	4	3	2	4	1	0	0	29	27	
看護相談	0	1	3	2	3	2	2	8	0	0	0	0	21	10	
コンサルテーション	2	1	2	2	3	4	1	1	1	1	0	0	18	61	

※単位：件



療養指導



フットケア(予約制)



糖尿病週間イベント ポスター展示

認定看護師

慢性呼吸器疾患看護

スタッフ紹介

慢性呼吸器疾患看護認定看護師
菅原 真澄

はじめに

慢性呼吸器疾患看護認定看護師として自己研鑽を行い、病棟スタッフの一員として実践を通し、呼吸器関連の援助に対するニーズを見出しながら指導・相談支援につながるよう病棟内外での活動を行っています。

年間活動報告

(1) 院内外の研修講師、講義

① RST勉強会

開催内容	開催日	参加数
人工呼吸について 人工呼吸の安全管理	6/24	97名
呼吸のフィジカルアセスメント リハ編 人工呼吸の看護	7/26	41名
V60について マスクフィッティング	9/21	45名
呼吸リハビリテーション NPPV設定について	10/25	26名

② 新人研修講師

「フィジカルアセスメント呼吸」「吸入・吸引」「体位ドレナージ」

③ 熊本労災看護専門学校講師

「セルフマネジメント」「フィジカルアセスメント呼吸・消化器」

④ 呼吸サポートチーム活動

人工呼吸関連のケアなどが安全に行われているかラウンドや啓蒙活動を行いました。

ラウンド：毎週 第2・4週は火曜11時～、
他週は適宜

メンバー：医師(呼吸器内科2名、循環器内科2名)、臨床工学技士3名、リハビリテーション技師(PT)2名、医事課職員1名、看護師(安全管理者、クリティカルケア認定、慢性呼吸器疾患認定)各1名



⑤ 特定行為研修の受講

(2) 呼吸器関連の管理、看護など

- IPPV、NPPVに関し呼吸器設定、管理などを主治医とディスカッションを行い携わりました。
- NPPV導入などに関し、機種、マスク種類、設定などを主治医と共に行い、ケアや管理などに対し看護師へ情報提供し継続した看護、観察へつなげるよう介入を行いました。
- ASV、CPAP、睡眠時無呼吸検査などに関し、導入やデータ解析に携わり、医師へ情報提供し設定変更や機種やマスク変更などの対応と患者や家族とスタッフへの指導を行いました。

がん相談支援センター

スタッフ紹介

がん専門相談員
山田 恵子

がん専門相談員
平本 瞳

がん専門相談員
宮田 美智子

緩和ケア認定看護師
岡山 浩子

はじめに

がん相談支援センターが開設されて15年が経過しました。がん相談を中心に広報活動にも力を入れ、ピンクリボン運動では乳がん検診啓発動画の作成・動画配信や禁煙推進運動については、院内職員に向けて「ばんぺいゆ」でPR活動を行いました。11周年となった八代がんサロン「秋桜」は新型コロナウイルス感染症の影響で休止していましたが、2021年9月よりオンラインでのサロンを開始しました。

年間目標と活動報告

(1)がん専門相談員として患者や家族の人権を尊重し、より良い療養生活を送れるように支援する。

- ① がん相談総件数は1,602件(目標1,500件)。(図1)
- ② 相談内容は、症状・副作用・後遺症に関する相談が多かった。(図2)
- ③ 禁煙運動:喫煙中の職員3名に協力を依頼し、禁煙に対する動機づけインタビュー内容を「ばんぺいゆ」に掲載。
- ④ ピンクリボン運動:「教えて竹野先生乳がんのこと」と題する動画を作成し外来待合ブースでのテレビ放映、YouTube動画配信。
- ⑤ 八代がんサロン「秋桜」: 2021年9月よりオンラインでのサロンを開始。
- ⑥ がん相談員WG活動:新都心プラザ図書館へのがん出張相談。
- ⑦ 八代市立図書館での「がん情報ギフト」の設置。

(2)在宅療養を安心して送れるよう、地域医療施設との連携を深め、継続的なケアの提供を行う。

- ① 「私のカルテ」による地域連携パスの運用(目標20件)は導入件数13件(図3)
- ② がん医科歯科連携件数(目標130件以上)は導入件数187件

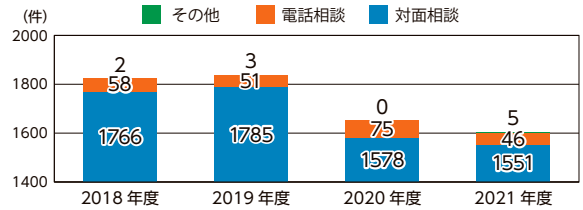


図1 相談件数と相談方法(2018年度～2021年度)

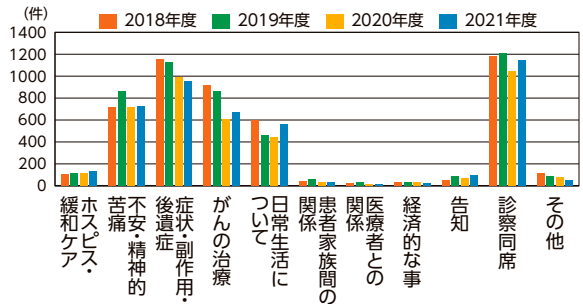


図2 相談内容(2018年度～2021年度)

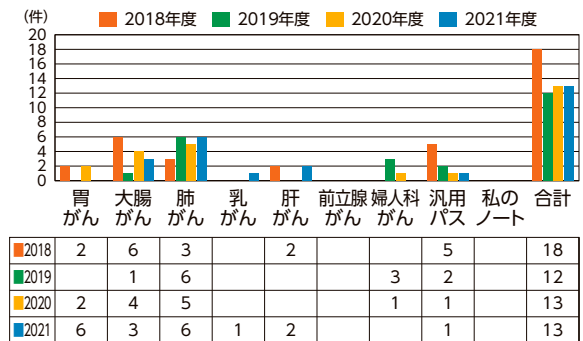


図3 「私のカルテ」導入件数(2018年度～2021年度)

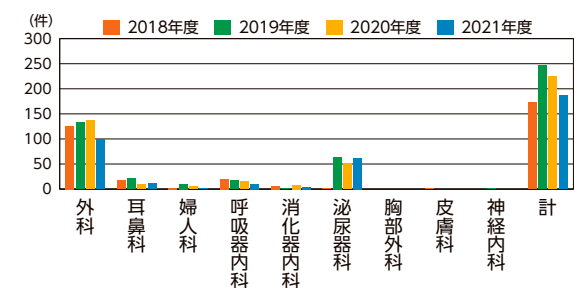


図4 がん口腔医科歯科連携件数(2018年度～2021年度)



看護師特定行為研修

看護師特定行為研修の概要

団塊の世代が75歳以上となる2025年、社会の多様なニーズに応えていくために日本看護協会は「生活と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及」を掲げています。看護師の特定行為研修制度を通して医療ニーズに対応する認定看護師の育成促進が明記されました。全国で2万人を超える21分野の認定看護師教育も、特定行為研修を組み込み分野の再編成が行われました。

労働者健康安全機構としては、看護師特定行為研修を開始して3年目を迎え、熊本労災病院においては、2020年度修了した2期生2名が現場で活躍しています。



令和3年度は、3期生として昨年同様「救急集中領域」を2名受講して修了しました。「救急・集中領域」の区分は以下の通りです。

- ①栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ②呼吸器(気道確保に係るもの)関連
- ③呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
- ④動脈血液ガス分析関連

次の写真は、3期生の客観的臨床判断能力評価試験(OSCE)の場面です。動脈血液ガス分析関連(A:直接動脈穿刺法による採血 B:橈骨動脈ライン確保)は合格判定をいただき、後半実習に向け弾みを得ることとなりました。



令和4年度は、「創傷管理領域」「感染管理領域」を1名ずつ、勤務を継続しながら特定行為研修を受講しています。COVID-19の影響を受けながらも時間調整をしながら、年度内の修了を目指しています。

薬剤部

スタッフ紹介



薬剤部長
谷口 一成

薬剤副部長
奥 美和

主任薬剤師 4名
薬剤師 12名
薬剤事務補助 1名

【認定・資格取得状況】

日本医療薬学会 がん指導薬剤師	1名
日本緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師	9名
日本医療情報学会 医療情報技師	2名

施設認定

- 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設
- がん専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 医療薬学専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 薬物療法専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 薬学部薬学生実務実習研修施設

薬剤部の業務概要

薬剤部は、病院における医薬品の適正安全使用を担う部門として機能しています。患者様に安全で有効な薬物療法を支援するために、薬剤師は他医療スタッフと異なる薬学的視点に立ち、薬の専門家として努力しています。調剤・処方鑑査、医薬品管理、医薬品情報、薬物血中濃度測定・処方設計支援、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製、治験コーディネーター・治験薬管理、入院患者様への薬剤管理指導とともに、医療スタッフへの医薬品安全使用にかかわる情報提供を行っています。

業務内容と活動実績

■調剤業務

内外用薬・注射薬の入院患者を中心とした院内処方調剤を行っています。調剤を始める前の処方鑑査時に、疑義が生じた場合処方医に問合せを行い、適正な薬物療法が行われるように努めています。

■製剤業務

薬剤が、治療上必要であるが投与する剤形・規格・濃度など市販されていない場合に、薬剤の調製を行っています。また、感染リスクの高い高カロリー輸液や医療従事者の曝露が問題となる抗がん剤など無菌的に調製を行うことで感染・曝露防止に努めています。

■医薬品管理業務

採用薬剤の在庫適正化を図り、円滑に供給するために購入管理を担当しています。

後発医薬品の検討を提案し、購入薬品費の節減も提案しています。

■医薬品情報業務

院内医薬品に関する情報の収集・整理・保管・加工・伝達などを目的に、「薬剤部だより」などのお知らせや医療スタッフからの質疑への対応を行っています。院内で発生した副作用情報の受付も行っています。電子カルテ薬品情報のメンテナンス、院内採用薬品集の作成なども行っています。

■病棟業務

入院患者様への服薬指導、薬歴管理、医療スタッフへの薬品情報提供などを行い、医薬品の安全適正使用に努めています。薬剤の血中濃度を解析することで、効果・有害作用の防止などにも努めています。

(2020年6月より病棟薬剤業務実施加算算定)

■治験薬管理業務

当院は、治験薬の開発を通じて医療に貢献することを目的に治験に協力をしています。病院の治験業務の中で、薬剤部は、治験薬剤の管理・調剤業務などを担っています。

薬剤部

■業務実績(令和3年度)

入院処方箋枚数	92,825枚
外来処方箋枚数	13,868枚
入院注射箋枚数	150,772枚
外来注射箋枚数	17,914枚
製剤件数	57件
抗がん剤調製件数	2,891件 (入院:791件、外来:2,100件)
薬剤管理指導件数	11,065件(請求件数8,251件)
麻薬管理指導件数	488件
薬物血中濃度解析	201件

学会・講演会発表等

研修会

- 研修会名 八代薬-薬連携 熊本労災病院がん化学療法研修会
日程・会場等 令和3年9月、八代、口演
発表者 北森靖隆
演題名 肺癌の免疫チェックポイント阻害薬について
- 研修会名 八代薬-薬連携 熊本労災病院がん化学療法研修会
日程・会場等 令和4年3月、八代、口演
発表者 山口圭太郎
演題名 胃癌の術後補助化学療法について

講演会

- 研修会名 水俣芦北薬剤師研修会
日程・会場等 令和3年4月、水俣市、口演
発表者 山口圭太郎
演題名 CDK4/6阻害薬の患者指導と使用の実際

学会

- 学会名 第14回日本緩和医療薬学会年会
日程・会場等 令和3年5月、Web開催
発表者 坂田健太郎
演題名 当院心不全患者におけるモルヒネ注の使用状況
- 学会名 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会
日程・会場等 令和3年10月、Web開催
発表者 武宮陽道
演題名 糖尿病性足病変による四肢切断患者の抗菌薬使用状況調査

中央リハビリテーション部

スタッフ紹介



中央リハビリテーション部長
(理学療法士)

岡元 進一

主任理学療法士

大洲 人士

主任理学療法士

山本 慎一

主任理学療法士

長田 政和

主任理学療法士

吉田 絵美

他 12名

主任作業療法士

西田 充征

主任作業療法士

小屋野 宏明

他 5名

主任言語聴覚士

畠山 克隆

他 3名

リハビリテーション助手

3名

【認定・資格取得状況】 心臓リハビリテーション指導士(6名)、3学会合同呼吸療法認定士(12名)、がんのリハビリテーション研修修了(20名)、認定理学療法士・DMAT ほか

中央リハビリテーション部の特色

中央リハビリテーション部では、整形外科疾患や脳血管疾患を初め、呼吸器・循環器やがんなど様々な疾患に、入院や手術直後から「早期リハビリテーション」に取り組んでいます。スタッフ数は、理学療法士17名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、リハ助手3名の総勢31名です。各スタッフが、専門的資格を取得したり、認定研修を受講したりして、専門的知識を活かした治療の提供に努めています。

昨年度、心臓リハビリテーション部が設立され、医師、中央リハ部、看護部、中央検査部、薬剤部、地域連携室、管理栄養室にて定期的勉強会の開催から着手し、今年度より多職種連携で心臓リハビリテーションの取り組みを開始しています。

今後は、地域連携も視野に入れた複数年での事業拡大を計画しています。また、病棟担当制を取り入れ、ICUや病棟を中心に早期離床を重視して積極的に介入しています。ICUや病棟のカンファレンスにも参加し、多職種での情報共有を図っています。それ以外にも、医師や認定看護師を含む多職種で実施している呼吸器・NST・排尿ケア・褥瘡対策・認知症ケアのラウンドに参加して、チーム医療に積極的に携わっています。また、機構の掲げている政策医療の一環である両立支援活動として、就労状況に合わせた復職(就労)支援にも取り組んでいます。

院外活動としては、熊本県の委託業務である地域リハビリテーション活動として、「八代地域リハビリテーション広域支援センター」を受託して、圏域のリハビリテーション従事者や地域の方々への研修会開催や現地での相談対応など、地域に根ざした事業にも積極的かつ継続的に取り組んでいます。

熊本地震を発端に、DMATやJ-RAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)などの災害に対する支援活動にも参画しています。

業務内容と活動実績

診療業務は、脳血管疾患や運動器疾患のリハビリテーションを中心に、心大血管リハやがん患者のリハ、呼吸器リハに加え、誤嚥性肺炎に伴う摂食嚥下訓練など、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による高度の専門的な治療を提供しています。診療体制では、リハ室は基より、『早期離床』目的に、一般病棟やICU病棟に於いて超早期から集中的に治療を実施しています。心疾患のリハビリテーションでは、個別治療の他、複数の入院患者を中心に集団治療も実施しています。また、実際に介入する際は、必要時にCPX(心肺運動負荷試験)による検査を行い、安全な環境の下で実施しています。

中央リハビリテーション部

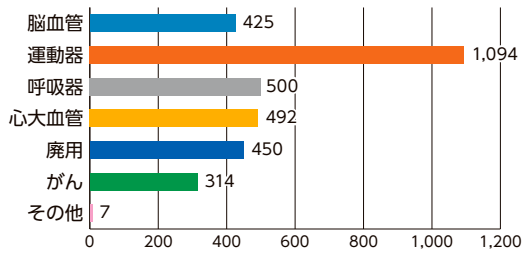
〈令和3年度 活動実績〉

疾患別の治療実績(患者数)(表1、図1)

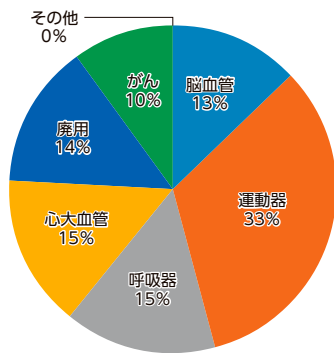
疾患別では、前年度と同様の実績であったが、心大血管は100人以上増加している。

表1 疾患別実績

疾患別	患者数
脳血管	425人
運動器	1,094人
呼吸器	500人
心大血管	492人
廃用	450人
がん	314人
その他	7人
合計	3,282人



(図1)

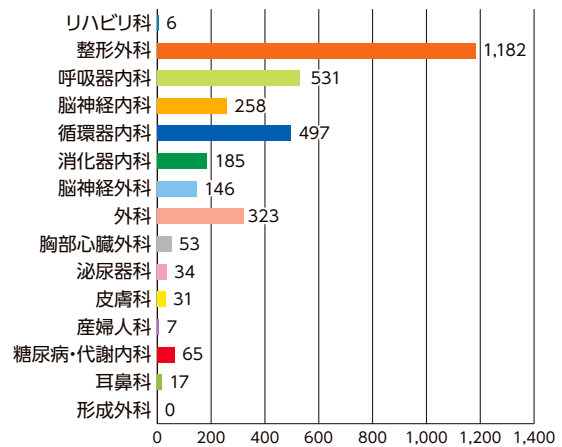


診療科別の治療実績(患者数、算定単位数)(表2、図2)

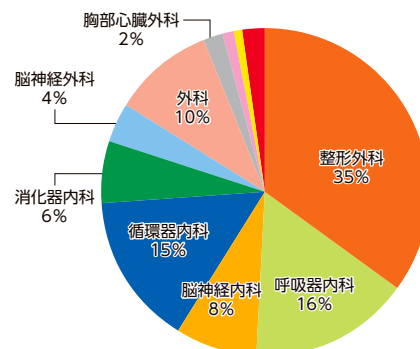
整形外科35%、内科系43%、外科系16%を占めており、内科系がより増加している。

表2 診療科別実績

診療科	患者数
リハビリ科	6人
整形外科	1,182人
呼吸器内科	531人
脳神経内科	258人
循環器内科	497人
消化器内科	185人
脳神経外科	146人
外科	323人
胸部心臓外科	53人
泌尿器科	34人
皮膚科	31人
産婦人科	7人
糖尿病・代謝内科	65人
耳鼻科	17人
形成外科	0人
合計	3,335人



(図2)



中央リハビリテーション部

算定単位数実績(表3、図3、表4、図4)

理学療法・作業療法・言語療法の3部門ともに欠員があり、わずかに下回る実績となった。

表3 全体算定単位数

年度	単位数
2021年度	95,208
2020年度	100,625

(図3)

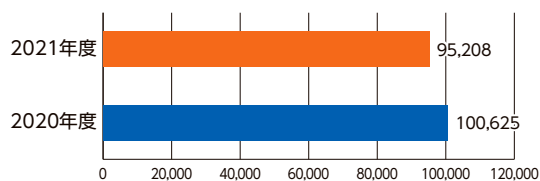
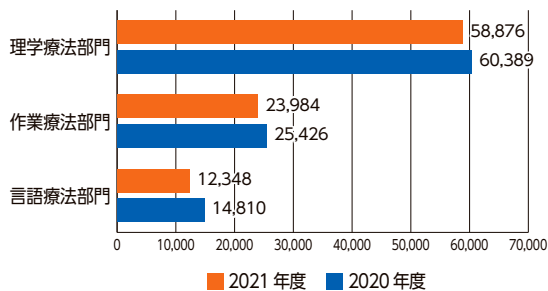


表4 部門別算定単位数

年度	理学療法部門	作業療法部門	言語療法部門
2021年度	58,876	23,984	12,348
2020年度	60,389	25,426	14,810

(図4)



地域活動の実績

中央リハビリテーション部では、平成12年度より熊本県からの委託業務である、「地域リハビリテーション広域支援センター」事業を受諾して運営しています。地域の医療や介護、福祉関わる皆様や地域の住民に向けた研修や相談などのリハビリテーションに関する支援を幅広く実施しています。八代市郡から依頼を受け、地域介護予防活動支援事業に参画して積極的に活動しています。活動の際は、八代市郡7施設の地域密着リハセンター(熊本県指定)と情報共有・連携を図っています。

令和2年熊本豪雨災害に対して、災害リハビリテーションから復興リハビリテーションへ支援内容を移行し活動しています。

医師会や自治体等の公的委員

- 西田主任作業療法士:八代市障害者認定審議会(委員)
- 西田主任作業療法士:八代市介護保険認定審査会(委員)
- 西田主任作業療法士:八代市介護保険事業計画策定・評価審議会(委員)
- 小屋野主任作業療法士:八代市介護保険認定審査会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 令和3年度 第1回地域リハ従事者研修会
令和3年11月19日(金)
「介護で地域は変わるのか?地域の持続可能性を高める介護予防の展開」
講師所属先:株式会社 未来図Labo
講師:代表取締役(作業療法士)金子茂穂氏
- 令和3年度 第2回地域リハ従事者研修会
令和3年2月4日(金)
「高齢者が加齢による記憶と注意機能の低下から、生活の中で起きやすいミスや事故」
講師所属先:医療法人三井会 神代病院
講師:地域活動推進科 科長(作業療法士)恒松伴典氏

認定施設 等

- 日本理学療法士協会 臨床見学受け入れ施設

中央放射線部

スタッフ紹介



中央放射線部長
橋口 和博

主任診療放射線技師
前床 正国

主任診療放射線技師
小林 功治

主任診療放射線技師
本田 光希

主任診療放射線技師
遠山 和香子

主任診療放射線技師
甲斐 健一

診療放射線技師 19名
助手 1名

【認定・資格取得状況】

第1種放射線取扱主任者、検診マンモグラフィ撮影認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、医療情報技師、X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師

中央放射線部の特色

中央放射線部は画像診断部門、放射線治療部門に分けられ、画像診断部門は一般撮影、透視、CT、MRI、血管撮影、核医学検査、マンモグラフィ、骨密度装置、ポータブル撮影に分けられます。救急撮影では24時間体制で、一般撮影、CT、MRIなどの撮影を行っています。最近では専門技師や認定技師の取得や2015年に医療被ばく情報研究ネットワークより、診断参考レベル2015が策定され、2020年には改定されていますが、それに沿った形での被ばく管理にも精力的で、当放射線部ではさらに低被ばくでの検査に力を入れています。また臨床実習でも積極的に学生の受け入れを行っています。

業務内容と活動実績

画像診断部門

①一般撮影

X線撮影装置4台を備え、1台はFPD(フラットパ

ネルディテクター)システムです。胸部、腹部、骨の撮影を一日平均140件撮影しています。

②X線透視

透視装置は2台あり、ともにFPDシステムで、内視鏡を用いて行うERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やTBLB(経気管支生検)、神経ブロック、嚥下造影などに用いられます。最近では胆道系のステント留置など、非血管系のIVRも行われています。

③CT

CT装置は2台あり、1日に平均65件の検査を実施しています。ともに64列マルチスライスCTであり、そのうちの1台は2管球CTで、高速撮影、被ばく線量低減、デュアルエネルギー撮影ができ、より最新技術の撮影に対応したCTとなっています。

また、昨年度のCT更新により2台ともデュアルエネルギー撮影が可能となりました。3Dワークステーションでは血管系の3Dや骨の3Dも積極的に作成しています。

④MRI

MRI装置は2台あり1台が3.0T(テスラ)、もう1台が1.5TのMRIです。3.0T、1.5Tの特性を生かし頭部や椎体、腹部、四肢などの検査を1日平均28件の検査を実施しています。高磁場での検査であるため、安全には特に配慮を行い検査に当たっています。また急性期脳梗塞や救急での脊椎病変、MRCPなどの撮影は24時間対応しています。

⑤血管造影検査

血管造影では1台はパイプレン、もう1台がシングルプレーンです。いまでは血管内治療(IVR)が盛んに行われており、頭部や心臓、腹部、四肢に至る血管までの治療を実施しています。循環器領域では循環器の先生方と、腹部、骨盤系では放射線科の先生方と検査、治療に当たっています。またオペ室でステントグラフトによる治療も行っています。

⑥核医学検査

SPECT/CT装置が1台あり、主に骨シンチ、心筋シンチ、頭部SPECTを中心に行っており、CTと組み合わせた画像表示(フュージョン画像)も行っています。最近ではアルツハイマー型認知症の検査やパーキンソン病の検査にも威力を発揮しています。

⑦マンモグラフィ

撮影には認定講習会を受講し、認定資格を持った女性技師が担当しています。乳腺外科と連携を取り

中央放射線部

ながら市検診にも取り組んでいます。本年に八代では初めてトモシンセシス(3D)が撮影可能な装置を導入しました。

⑧骨密度検査

骨そしょう症やその治療効果のため、腰椎、太骨頸部の測定を行っています。微量のX線を腰椎、大腿骨に照射して検査します。検査データは精度の高いDEXA法を使用しています。

⑨ポータブル撮影

院内に4台あり、病棟、ICU、オペ室などで撮影を行っています。至急にも対応できるよう救急室でもポータブルの撮影を行います。オペ室には外科用イメージが4台あります。1台はステントグラフトに使用するDSA装置です。

⑩画像管理

モダリティで作成した画像はすべてサーバーに送られ、院内配信されます。院外への紹介時にはDVDを作成し、また他施設から紹介を頂いた場合も、画像を取り込み診断に役立てています。

放射線治療部門

①放射線治療

放射線治療は手術、抗がん剤治療と並ぶがん治療のひとつです。体への負担が比較的軽度で、手術と比較して機能、形態の温存が期待できるという特徴があり、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能なりニアック装置1台、治療計画装置1台で治療に当たっています。三次元画像を基にした詳細な治療計画が可能で、60対のマルチリーフコリメータを使用し全身の各部位に対して限局的に策定した箇所へ治療を行うことができます。

業務実績(令和3年度)

検査種別		件数	
X線撮影	単純撮影	42,079件	
	透視造影	脳・脊髄領域	6件
		消化器領域	693件
		骨盤腔領域	39件
		循環器領域	1,961件
		その他造影	456件
		透視単独	267件
		透視合計	3,414件
	マンモグラフィ	721件	
ポータブル撮影	7,670件		
核医学検査		367件	
CT	第一 (64列)	3,220件	
	第二 (2管球)	13,353件	
	CT合計	16,573件	
MRI	第一 (3.0T)	2,850件	
	第二 (1.5T)	2,860件	
	MRI合計	5,710件	
放射線治療		2,998件	
骨塩定量		485件	
画像再構成		19,484件	

認定施設 等

- マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設

中央検査部

スタッフ紹介



臨床検査センター長
吉田 顕正



中央診療支援統括室
中央検査部門担当
栗脇 一三



中央検査部長
篠原 弘文

主任臨床検査技師
中川 淑恵

主任臨床検査技師
井上 博幸

主任臨床検査技師
森口 美琴

主任臨床検査技師
吉田 健一

主任臨床検査技師
森谷 智輝

主任臨床検査技師
浜島 智央

臨床検査技師 30名

【認定・資格取得状況】

- 《病理部門》 病理医1名、細胞検査士7名、認定病理検査技師2名
- 《検体部門》 感染制御認定微生物検査技師2名、認定臨床微生物検査技師2名、緊急臨床検査士1名、二級臨床検査士(血液)1名、健康食品管理士1名、精度管理責任者2名、臨地実習指導者1名、熊本県糖尿病療養士1名、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師1名
- 《生理部門》 超音波検査士(循環器)7名、超音波検査士(消化器)4名、超音波検査士(体表)1名、超音波検査士(血管)1名、超音波検査士(健診)1名

中央検査部の業務内容

当中央検査部は、日常診療から救急医療まで24時間体制で診療支援を行う部門である。臨床検査センター長の吉田顕正先生と病理診断科部長である栗脇一三先生の下、30名の臨床検査技師が在籍し、検査業務を行っている。院内では各種臨床検査業務の他にICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)やNST(栄養サポートチーム)などのチーム医療にも参画し、院外では各種学会や研修会等に積極的に参加し、知識や技術の研鑽に努め、各学会の認定資格を多数取得している。

病理部門は、地域がん診療拠点病院として重要な位置付けにあり、細胞診断分野では病理医とともに細胞検査士が正確な診断に寄与していることが評価され、日本臨床細胞学会から教育研修施設として認定を受けている。

検体検査部門は日本臨床衛生検査技師会から精度保証認定施設として認定を受け、また同会主催の精度管理責任者育成講習会を修了した技師が精度管理を行っている。これは、一定の基準をクリアし、臨床側へ提供している検査結果が標準化され高品質であると認められ、極めて高い信頼性を有していると評価されたものである。

細菌検査部門においては、県内では一早く先端技術を駆使した遺伝子検査装置を導入し、県南地域における感染制御の中心的役割も果たしており、認定微生物検査技師制度協議会から国内で僅か150施設、熊本県内でも5施設しかない研修施設認定を受けている。

生理検査部門は最新の超音波装置を導入し、医師と緊密な連携を取りながら高度で迅速な検査を行っている。日本超音波医学会認定超音波検査士が多数在籍し、心臓、頸動脈、腹部、乳腺、下肢血管、甲状腺等の専門的検査を行うと共に、研修医の教育も担っている。また、臓器移植時に必要な脳死判定脳波検査もチームで取り組んでいる。

労災病院の特徴の一つである振動病検診は、振動工具を取り扱う労働者の振動暴露状況を調べる検査であり、当検査部から県内外へ出張検診も行っており、毎年数百名の方の労災疾病の予防、治療等に大きく貢献している。

中央検査部

業務実績

年度別臨床検査件数の推移

	R1	R2	R3
生化学	968,666件	1,067,770件	918,927件
免疫	98,229件	83,919件	86,491件
血液	212,970件	220,902件	223,755件
一般	32,219件	31,134件	29,997件
微生物	36,519件	31,206件	45,450件

年度別生理検査件数の推移

	R1	R2	R3
心電図	14,524件	14,717件	14,394件
ABI	1,412件	1,332件	1,447件
心エコー	7,188件	7,400件	7,704件
腹部エコー	4,139件	3,914件	3,959件
血管エコー	2,822件	2,848件	3,006件
乳腺・甲状腺エコー	2,878件	2,525件	2,750件

年度別病理検査件数の推移

	R1	R2	R3
組織診断	3,823件	3,894件	3,337件
術中迅速診断	124件	106件	118件
細胞診断	3,325件	3,195件	3,413件

地域活動の実績

令和3年度 熊本県臨床検査技師会 会長賞受賞

森口 美琴

振動障害巡回検診

- 日 程 令和3年10月13日～15日
場 所 鹿児島市
参加者 前田 卓、濱田万里奈
- 日 程 令和3年10月28日～29日
場 所 天草市
参加者 福田健太、津志田京子
- 日 程 令和3年11月4日～5日
場 所 山都町
参加者 前田 卓、関本香純
- 日 程 令和3年11月11日～12日
場 所 人吉市
参加者 福田健太、村山優美

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第40回九州地区労災病院臨床検査技師学会
日程・会場等 令和3年10月30日、八代市
学会長 篠原弘文
司 会 井上博幸
座 長 篠原弘文、森谷智輝、浜島智央
演 題 「当院病理検査室における出張検体採取業務の取り組みについて」
発表者 田中寛大
演 題 「免疫抑制剤服用者における新型コロナウイルススワクチンの抗体価測定について」
発表者 森田真衣
- 学会名 第60回日本臨床細胞学会秋期大会
日程・会場等 令和3年11月、米子市、Web
演 題 「細胞診検体にてウエステルマン肺吸虫の虫卵を認めた2例」
発表者 関本香純
- 学会名 第37回熊本県臨床細胞学会
日程・会場等 令和4年2月、熊本市、Web
演 題 「気管支擦過細胞診で組織型推定に苦慮した悪性黒色腫の1例」
発表者 森谷智輝
- 学会名 第70回日本医学検査学会
日程・会場等 令和3年5月、福岡市、Web
座 長 森谷智輝
- 学会名 第48回九州細胞診研修会
日程・会場等 令和3年9月、熊本市、Web
講 師 森谷智輝 フォトテスト出題(統括責任者)
- 学会名 令和3年度細胞診初心者講習会
日程・会場等 令和3年5月～
講 師 井上博幸(体腔液領域)
- 学会名 令和3年度細胞検査士二次試験対策
日程・会場等 令和3年11月、熊本市
講 師 井上博幸(体腔液領域症例提示)
- 学会名 令和3年度熊本県臨床検査技師会第2回症例検討会
日程・会場等 令和3年11月、熊本市、Web
講 師 関本香純
- 学会名 第53回熊本県医学検査学会
日程・会場等 令和3年10月3日、WEB
発表者 浜島智央
- 学会名 第53回熊本県医学検査学会
日程・会場等 令和3年10月3日、WEB
座 長 森口美琴
- 学会名 天草地区遺伝子部門研修会

中央検査部

日程・会場等 令和3年6月2日

座 長 森口美琴

- 学会名 天草地区・熊臨技微生物部門合同研修会

日程・会場等 令和3年7月30日

座 長 森口美琴

- 学会名 熊本県臨床検査技師会精度保証研修会

日程・会場等 令和3年8月

演 題 『腹部エコー検査における脂肪肝と肝硬
度の定量化～エコーの可能性を探る～』

発表者 吉田健一

栄養管理部・栄養管理室

スタッフ紹介



栄養管理部長
(糖尿病・代謝内科部長)
金子 健吾



栄養管理室長
藤井 しのぶ

スタッフ

主任栄養士	1名	調理主任	2名
管理栄養士	6名	調理師	14名
栄養士	1名	作業員	2名
		食器洗浄委託職員	12名

【認定・資格】NST専門療法士、病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士、熊本地域糖尿病指導士、肝炎コーディネーター

【所属学会等】日本臨床栄養代謝学会、日本病態栄養学会、日本肥満学会、日本職業・災害医学会、日本栄養士会、熊本県糖尿病療養指導士会

栄養管理部・栄養管理室の特色

栄養管理部は、給食管理と栄養管理の両輪を担っています。給食管理では、安全で満足度の高い食事の提供、行事食や個人対応食などのフードサービスを実施し、病院食が患者一人ひとりの命や治療を支える基であるということを念頭に置き、取り組んでいます。

栄養管理では、栄養サポートチーム専門療法士や糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士など、専門資格を有した管理栄養士が、NST(栄養サポートチーム)、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなど医師を中心としたそれぞれのチームの一員として、看護師、薬剤師、その他コメディカルとともに活動を行っています。

その他、生活習慣病、がん、嚥下障害、低栄養などの患者に対し、栄養指導・栄養相談を積極的に行い、治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態の改善および免疫力低下の防止、QOLの改善に貢献できるように取り組んでいます。

業務内容

給食管理

「労災病院衛生管理マニュアル」を基本とし、衛生的で安全な食事の提供に努めています。栄養量は成分栄養別で設定し、一般治療食から特別治療食まで約160種類の食種の対応が可能です。個人の嗜好に配慮した「ハート食(個人対応メニュー)」では、管理栄養士が直接患者の嗜好を確認し、摂取量の増加、栄養状態の改善を目的としたオーダーメイドでの食事提供を行っています。また食物アレルギーや宗教上の理由による禁忌食品がある場合などにも対応しています。咀嚼・嚥下機能に障害のある方には、料理方法を工夫し、食べやすい形態や6段階の嚥下調整食を準備し、嚥下のレベルに合わせた食事の提供を行っています。その他、出産お祝い膳や年間43回の行事食など、季節感あふれるメニューの提供を心がけ、手作りのメッセージカードを添えるなど入院中に食事楽しんでいただける患者サービスの工夫を心がけています。

栄養管理

全入院患者の栄養スクリーニング、アセスメントを行い、患者一人ひとりの栄養状態に合わせた栄養管理を行っています。栄養状態を把握し、早期に栄養介入を行うことで、高齢者におけるフレイル予防や低栄養リスクの改善に努めています。また多職種で構成されるNST(栄養サポートチーム)で褥瘡チーム、緩和ケアチームなどと連携し、継続的な栄養管理を実施しています。

糖尿病・高血圧症・心臓病・腎臓病・脂質異常症(高脂血症)など食事療法が直接治療に関係する疾患のほか、消化器の術前術後、妊娠中の体重コントロールや先天性代謝異常症の食事の注意など、栄養・食事に関する様々な栄養指導・栄養相談を実施しています。また、嚥下障害、低栄養の危険のある方、がんの治療前後の方など、食事がとりにくくなった方への栄養食事相談なども行っています。さらに、医師・糖尿病認定看護師とともに透析予防指導を実施し、栄養管理計画に基づいた病棟訪問も実施しています。

栄養管理部・栄養管理室

【栄養指導・栄養相談】

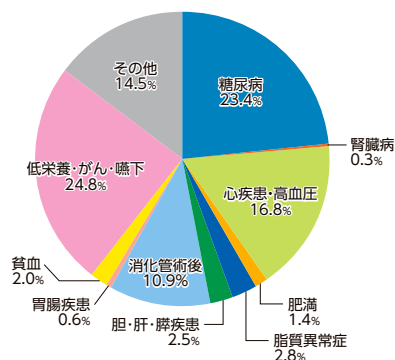
	内容	曜日	時間	場所
個人指導	入院・外来	月～金	9:00～17:00	栄養指導室
	ベッドサイド指導	月～金	9:00～17:00	病室
集団指導	糖尿病教室	火曜日	14:00～15:00	栄養指導室
	減塩教室	月～金	15:00～16:00	栄養指導室
	胃腸病教室	月～金	16:00～16:40	栄養指導室
	健康教室	木曜日	11:30～13:00	栄養指導室
個人指導	透析予防指導	月～金	随時	栄養指導室
個別相談	栄養相談	月～金	随時	病室
がん化学療法栄養指導	個人相談・相談	週3回	10:30～12:00	化学療法室 栄養指導室

活動実績

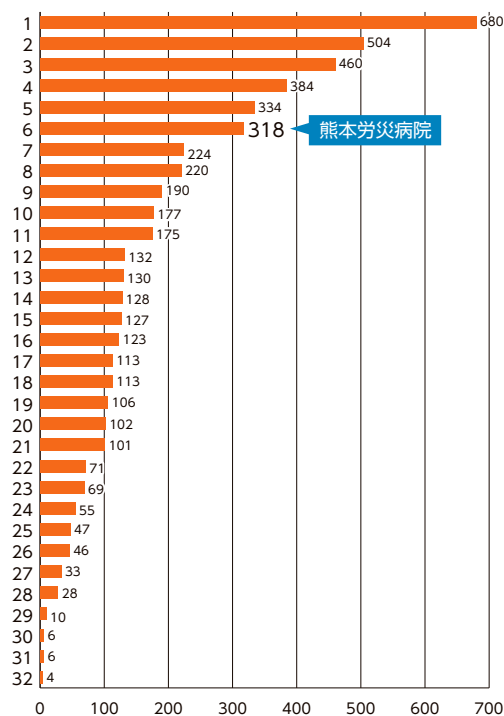
栄養指導の実績(令和3年度)

内容	件数(入院・外来)
糖尿病	1,363件
腎臓病	18件
心疾患・高血圧	979件
肥満	83件
脂質異常症	165件
胆・肝・膵疾患	146件
消化管術後	634件
胃腸疾患	33件
貧血	116件
低栄養・がん・嚥下	1,441件
その他	843件
合計	5,821件

疾患別栄養指導件数割合(入院・外来)



令和3年度 全国労災病院栄養指導月平均算定件数比較



チーム医療

NSTでは、栄養治療に関する専門知識を有する医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士・検査技師が院長直属の組織横断的チームを組織し、栄養障害を有する患者の栄養アセスメント、栄養療法の実施、モニタリングを繰り返し治療効果の向上を図っています。

回診とカンファレンスを毎週2回、NST勉強会を開催し、多職種で連携し実施しています。その他、病棟ラウンド、緩和ケア、褥瘡、糖尿病のチームに管理栄養士が属し、他職種とともに活動を行っています。

【NST活動実績(令和3年度)】

内容	件数
コンサルテーション数	1,169件
NST介入件数	625件
ミーティング実施回数	52件
勉強会開催回数	1件

栄養管理部・栄養管理室

栄養評価の状況(栄養状態別件数)

	栄養状態良好	栄養状態軽度不良	栄養状態中等度不良	栄養状態高度不良	過栄養	合計
4月	389	143	33	5	139	709
5月	340	168	30	4	124	666
6月	370	149	31	12	116	678
7月	413	186	46	4	135	754
8月	455	132	36	4	127	754
9月	347	163	42	9	105	666
10月	407	183	52	9	96	747
11月	375	189	47	9	131	751
12月	339	169	60	23	100	691
1月	298	195	61	20	107	681
2月	252	153	26	8	73	512
3月	376	204	65	13	114	722
合計	4,361	2,034	529	120	1,367	8,411

地域活動の実績

自治体等の公的委員

- 藤井しのぶ 八代地域NST研究会(委員)
熊本県栄養士会八代地域事業部長

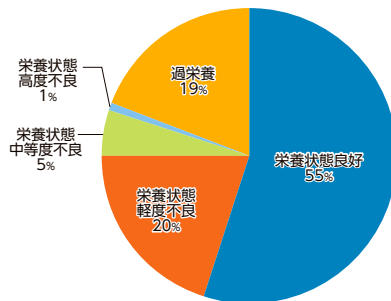
セミナーや講演会、研修会等の開催

- 熊本健康づくり推進、栄養アドバイザー活動
永野智子、藤本敦子
「ブルーサークルメニュー」
「熊本健康づくり応援店支援」
- 肝炎サロン講演
永野智子
- 熊本産業保健総合支援センター研修会
藤井しのぶ
「サルコペニア予防」
「生活習慣病予防の食事」

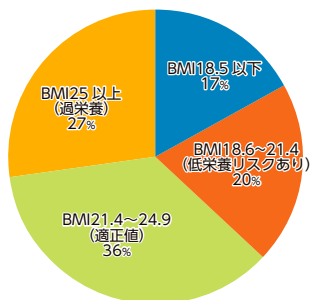
認定施設 等

- 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

令和3年度 入院患者栄養評価結果



令和3年度 入院患者BMI判定結果



栄養管理部・栄養管理室

食事サービス

選択メニュー、個人対応食、行事食、産褥食など

熊本労災病院食事サービス

ハート食のご案内
(食欲のない方、少食の方向けの個人対応食)

ハート食A 常食ベースメニュー	ハート食B 献菜食ベースメニュー	ハート食C あっさりメニュー
--------------------	---------------------	-------------------

毎食デザートまたはフルーツと汁物をお付けいたします。

いずれも通常の量の半分で提供いたします。
朝食は和食か洋食(パン食セット)をお選びいただけます
栄養補給に10時・15時におやつセットをご用意いたします

おやつもあかりをお選びいただけます

おやつセットa ケーキ・クッキーとドリンクのセット	おやつセットb プリン・ゼリーとドリンクのセット
------------------------------	-----------------------------

●カップケーキ・クッキー (日替わり)
●栄養補助ドリンク(日替わり)

●半量補助ゼリーなど (日替わり)
●栄養補助ドリンク(日替わり)

特別メニューとして毎食22円を加算させていただきます

ご希望の方は病棟スタッフまでお知らせください。
管理栄養士がご希望をお伺いいたします。

選択メニューのお知らせ

朝食のメニューが選べます

一般食・エネルギーコントロール食で塩分制限のない患者様に
限らせていただきます

和食セット (日替わり)

主食(ご飯またはお粥)
味噌汁・小鉢
飲み物・味付けのりなど

洋食セット (日替わり)

パン・スープ
サラダまたは卵料理
飲み物・デザート



洋食セットの場合22円を加算させていただきます

ご希望の患者様は病棟スタッフまでお申し出ください。

各診療科・部門紹介



行事食(土用の丑の日)



行事食(お正月)



産褥食



行事食(ひな祭り)

中央臨床工学部

スタッフ紹介



中央臨床工学部長
植田 公昭

スタッフ

臨床工学技士 5名

【学会所属・認定状況】日本臨床工学技士会、熊本県臨床工学技士会、全国労災病院臨床工学技士会、日本体外循環技術医学会、日本人工臓器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本体外循環技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、心血管インターベンション技師

中央臨床工学部の業務内容

生命維持管理装置などの医療機器の操作・保守を行うことを主な業務とし、医療の安全性及び質の向上を目的として平成26年4月1日に中央臨床工学部が設置されました。

当初、心臓血管外科手術で用いる人工心肺装置の操作及び人工呼吸器や輸液シリンジポンプなどの医療機器管理を行っていましたが、管理機器の増台や心臓カテーテル業務、ICU設立などによる業務拡充に伴い5名が増員となり、現在部長を含め6名にて業務を行っています。当院では患者さまの治療・検査にかかわる「臨床技術提供業務」と医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」の大きく2つに分け業務を行っています。

「臨床技術提供業務」は心臓血管外科手術にて使用する人工心肺装置や心筋保護装置などを操作する人工心肺業務、出血が予想される手術にて使用する自己血回収業務、腎不全や術後敗血症に対して施行するCHDFやPMXなどの血液浄化業務、ECMO・IABP操作保守を行う補助循環業務、術中モニタリング(MEP・SEP)業務、カテーテル検査や治療の補助を行う心臓カテーテル業務、ペースメーカー埋込患者への遠隔モニタリングやペースメーカー外来などにも取り組んでいます。「医療機器保守管理業務」では、特定保守管理医療機器に指定されている人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器を中心とし、それら以

外にも麻酔器や輸液シリンジポンプ、患者監視装置(ベッドサイドモニタ)、低圧持続吸引器、AED、体外式ペースメーカーなどの使用頻度が高いものや使用時に緊急性の高いものを中央臨床工学部管理機器として保守管理しています。それぞれ点検チェックシートを作成し、点検計画を策定、実施し、取扱説明書や添付文書、安全情報も一括して管理を行っています。人工呼吸器、輸液シリンジポンプにおいては中央管理を実施し、貸出返却を集約して効率的な運用を目指しています。なお、医療機器の貸出返却や保守管理データは平成28年より医療機器管理システムを活用し、稼働状況や保守状況を確認できるようにし、安全使用に寄与しています。

活動体制

中央臨床工学部における業務内容が多岐にわたるため、各診療科医師、看護師、医療スタッフと綿密に情報交換を行い、日々の業務に取り組んでいます。現在は部長含め6名にて人工心肺業務や血液浄化業務、医療機器の不具合などの緊急時にはオンコール体制にて対応し、臨床技術提供業務では各診療科医師、医療機器保守管理業務においては医療機器安全管理責任者(麻酔科部長)の指示のもと業務を行っています。

活動実績(令和3年度)

臨床技術提供業務において人工心肺業務31例、自己血回収業務22例、血液浄化業102例、補助循環業務4例、術中モニタリング16例、心臓カテーテル業務565例を施行しています。医療機器保守管理業務では特定保守管理医療機器を含む35機種709台を保守管理しており、定期点検1,266件、使用中点検3,802件、始業前点検2,072件、終業時点検6,748件、日常点検80件、合計13,968件の医療機器点検を実施しています。中央管理機器(人工呼吸器、輸液シリンジポンプ)においては人工呼吸器626件、輸液シリンジポンプ5,723件の貸出が行われています。また、上記業務以外にも院内スタッフ向けに医療機器の取り扱いや臨床業務に関する研修会・勉強会47件、院内外勉強会・学会22件に参加し、スキルアップに努めています。

私達は体外循環を始めとする臨床技術提供業務や医療機器保守管理業務を通して、患者さまへより

中央臨床工学部

よい医療を提供できるよう、日々の業務に取り組んでいます。

活動状況



補助循環装置勉強会



心臓手術勉強会



血液浄化業務



人工呼吸器勉強会



心臓カテーテル業務



人工心臓業務



中央管理機器 貸出返却窓口

事務局

スタッフ紹介

事務局長
木村 幸司

事務局次長
伊藤 新

総務課

課長
荒田 暢裕

係長 1名
事務員 正規 5名 嘱託 6名

会計課・中央監視室

課長
小松 靖明

係長 2名
事務員 正規 5名 嘱託 3名

ボイラー主任 1名
ボイラー技士 正規 1名 嘱託 2名

医事課・診療情報管理室・地域医療連携室

課長
松元 祐至

係長 3名
事務員 正規 5名 嘱託 23名
(保安専門員1名含む)

診療情報管理士 正規 3名 嘱託 4名
MSW 4名

事務局の特色

事務局は、総務課、会計課、医事課の3課により構成されています。

総務課は職員の採用、労務管理や安全衛生、給与、福利厚生といった人事に関することや、文書管理をはじめとする、行政や地域との関連により発生する諸業務(連絡調整、届出事項等)、職員に対する教育研修、各種院内行事の開催や広報活動など、多岐にわたる業務を担っています。

会計課は、病院の予算・決算、各種支払、資金管理といった経営に関することや、病院で使用する薬剤、診療材料、医療機器などの購入、維持管理に関すること、施設設備の保全・維持管理に関することなど、病院の経営を支える大黒柱として重要な役割を担っています。

医事課では、保険診療、自賠責、労災及びその他諸法(公費)による請求及び収納に関することや診療報酬明細書の作成及び保険者等への請求に関すること、診療情報の管理に関することといった、主に医療行為に伴う業務を担っています。また、地域医療連携室では医療福祉に関する相談・援助や連携医療機関・関係施設との前方・後方連携を担っており、いずれの部門においても「病院の顔」として、患者様が円滑に、安心して治療を受けていただくことを目指して業務にあたっています。

業務内容

事務局の仕事は病院の運営を影で支える「縁の下の力持ち」であり、患者様と接する機会は多くありません。しかし、志すものが「良質で信頼される医療の実践」であることには変わりなく、そのために事務職として何が出来るかを考え、3課協力して日々前進していけるよう努力しています。

ボランティア

ボランティアの紹介

「熊本労災病院ボランティアの会」では、当院OBや地域の方々計10名が、患者様をはじめ病院を利用される人々がより良い環境で安心して治療を受けていただくことができるよう、自発的に活動されています。

いつも笑顔で優しく、心あたたまる親切な対応で患者様に接されるボランティアの方々には、当院の医療サービス向上に大いに貢献していただいています。

活動内容

(1) 外来インフォメーション

患者様への各種案内、再来受付機の操作補助、移動の介助等

(2) 環境美化

車椅子整理、生花の飾り付け、敷地内の草花植え付け・手入れ、病棟プレイルームの整理等

(3) デイサービス

院内デイサービスでの看護師の活動補助



臨床業績



患者数等(年度実績4-3月)

①患者数等

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院患者延数	128,870	132,510	127,642	121,681
1日平均入院患者数	353.1	362.0	349.7	333.4
新入院患者数	9,405	9,987	9,266	9,020
退院患者数	9,402	10,016	9,267	9,018
平均在院日数	13.7	13.2	13.8	13.5
病床利用率	86.1	88.3	85.3	81.3
外来患者延数	132,235	140,849	136,637	140,033
1日平均外来患者数	541.9	586.9	562.3	578.6
救急患者数	12,589	12,497	10,243	10,848
救急車受入件数(ヘリ含む)	4,078	4,173	3,941	3,952
ヘリ	28	17	40	27

②入院科別患者数

1日平均在院患者数

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	21.9	0.0	21.4	0.0	23.0	0.0	15.0	0.0
呼吸器内科	63.4	0.2	61.3	0.0	56.4	0.3	54.0	0.5
消化器内科	34.9	0.0	42.6	0.0	39.5	0.0	36.1	0.0
糖尿病・代謝内科	6.8	0.0	6.3	0.0	6.5	0.0	7.8	0.0
循環器内科	28.2	0.0	30.7	0.0	34.4	0.0	39.3	0.0
小児科	8.4	0.0	7.7	0.0	3.7	0.0	4.1	0.0
外科	35.1	0.1	37.5	0.1	39.5	0.1	40.8	0.0
整形外科	83.6	4.8	81.3	4.1	80.0	5.0	80.7	3.2
形成外科	2.3	0.0	1.9	0.0	1.8	0.0	1.2	0.0
脳神経外科	15.9	0.5	16.2	0.1	16.9	0.4	16.5	0.0
心臓血管外科	8.4	0.0	7.5	0.0	7.5	0.0	4.2	0.0
皮膚科	3.0	0.1	4.5	0.1	4.5	0.0	4.5	0.2
泌尿器科	10.0	0.0	8.7	0.1	7.3	0.1	8.1	0.1
産婦人科	17.1	0.0	18.0	0.0	15.1	0.1	7.8	0.0
眼科	0.5	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0	0.8	0.0
耳鼻咽喉科	13.5	0.0	15.7	0.1	11.7	0.0	12.2	0.0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	0.2	0.1
合計	353.1	5.9	362.0	4.7	349.7	6.1	333.4	4.1

在院患者延数

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	12	0	-	-	-	-
脳神経内科	7,980	0	7,827	4	8,391	0	5,481	0
呼吸器内科	23,149	82	22,440	8	20,582	100	19,719	172
消化器内科	12,750	5	15,596	0	14,435	14	13,165	0
糖尿病・代謝内科	2,494	1	2,318	5	2,356	2	2,865	1
循環器内科	10,290	0	11,222	16	12,548	8	14,356	0
小児科	3,052	0	2,809	0	1,354	0	1,482	0
外科	12,794	54	13,733	39	14,432	30	14,908	6
整形外科	30,504	1,770	29,759	1,500	29,214	1,832	29,464	1,165
形成外科	856	13	685	12	674	0	449	0
脳神経外科	5,819	196	5,922	35	6,172	148	6,023	4
心臓血管外科	3,057	0	2,748	0	2,753	0	1,543	0
皮膚科	1,108	24	1,653	23	1,634	9	1,629	73
泌尿器科	3,665	0	3,178	41	2,677	47	2,957	40
産婦人科	6,231	6	6,592	0	5,502	21	2,858	0
眼科	184	0	268	0	368	1	284	0
耳鼻咽喉科	4,937	0	5,748	19	4,288	0	4,440	0
リハビリテーション科	-	-	-	-	262	0	58	30
合計	128,870	2,151	132,510	1,702	127,642	2,212	121,681	1,491

③新入院患者数・平均在院日数

新入院患者数(転科除く)

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	1	0	0	0
脳神経内科	442	0	412	2	456	0	352	0
呼吸器内科	1,265	5	1,237	2	1,161	4	1,225	3
消化器内科	1,148	1	1,259	0	1,193	0	1,098	0
糖尿病・代謝内科	146	1	156	1	190	2	203	1
循環器内科	915	0	1,081	1	1,176	1	1,204	0
小児科	786	0	758	0	291	0	366	0
外科	1,014	7	1,290	6	1,247	4	1,333	1
整形外科	1,451	75	1,424	71	1,474	81	1,447	72
形成外科	94	2	97	1	91	0	58	0
脳神経外科	275	10	266	1	250	6	209	2
心臓血管外科	148	0	129	0	105	0	87	0
皮膚科	78	1	143	1	126	2	120	3
泌尿器科	434	0	380	2	309	3	339	3
産婦人科	615	1	698	0	586	1	354	0
眼科	119	0	125	0	159	1	125	0
耳鼻咽喉科	475	0	532	3	451	0	500	0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,405	103	9,987	91	9,266	105	9,020	85

平均在院日数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
精神科	-	12	-	-
脳神経内科	18.0	19.1	18.4	15.5
呼吸器内科	18.5	18.3	17.8	16.3
消化器内科	11.2	12.5	12.2	12.3
糖尿病・代謝内科	17.4	15.8	13.3	14.8
循環器内科	11.2	10.5	10.7	11.9
小児科	3.9	3.7	4.7	4.0
外科	12.3	10.4	11.4	10.9
整形外科	20.9	20.8	19.9	20.3
形成外科	9.1	7.0	7.6	7.4
脳神経外科	22.3	22.1	24.9	28.4
心臓血管外科	20.1	20.2	24.5	17.6
皮膚科	13.9	11.8	12.8	13.9
泌尿器科	8.4	8.2	8.5	8.6
産婦人科	10.2	9.4	9.3	8.1
眼科	1.5	2.1	2.3	2.3
耳鼻咽喉科	10.4	10.7	9.5	8.8
リハビリテーション科	-	-	29.1	29
合計	13.7	13.2	13.8	13.5

④外来科別患者数

1日平均延患者数

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内 科	15.5	0.0	16.2	0.0	14.8	0.0	16.8	0.0
精神科	5.5	0.0	7.3	0.0	7.2	0.0	3.7	0.0
脳神経内科	18.0	0.1	18.8	0.1	16.6	0.1	17.3	0.1
呼吸器内科	45.5	0.3	48.9	0.3	44.4	0.3	48.7	0.1
消化器内科	44.8	0.2	50.8	0.2	49.5	0.3	50.8	0.2
糖尿病・代謝内科	26.2	0.0	28.1	0.0	28.2	0.0	29.9	0.0
循環器内科	28.6	0.0	32.6	0.0	34.8	0.0	38.7	0.0
小児科	37.0	0.0	37.9	0.0	23.5	0.0	27.8	0.0
外 科	31.4	0.1	39.7	0.1	40.4	0.0	45.7	0.0
整形外科	98.5	4.7	95.0	4.0	96.2	4.7	100.6	5.1
形成外科	12.9	0.2	11.7	0.2	10.1	0.1	9.5	0.1
脳神経外科	10.1	0.1	10.6	0.2	10.6	0.2	10.5	0.1
心臓血管外科	7.7	0.0	7.1	0.0	6.8	0.0	6.7	0.0
皮膚科	22.9	0.2	29.7	0.1	28.1	0.2	28.6	0.2
泌尿器科	27.3	0.8	27.6	0.8	25.3	0.7	26.1	0.6
産婦人科	33.0	0.0	35.8	0.0	33.0	0.0	27.5	0.0
眼 科	15.7	0.1	21.9	0.2	26.3	0.3	23.8	0.4
耳鼻咽喉科	32.7	0.0	37.5	0.0	33.2	0.1	33.8	0.0
放射線科	16.4	0.0	16.6	0.0	15.9	0.0	16.2	0.0
麻酔科	10.8	0.2	11.6	0.2	11.1	0.2	9.7	0.2
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	1.4	0.0	1.6	0.0	1.2	0.0	1.0	0.0
合 計	541.9	7.1	586.9	6.3	562.3	7.3	578.6	7.4

延患者数

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内 科	3,794	6	3,878	3	3,593	1	4,064	2
精神科	1,345	11	1,762	9	1,746	10	888	1
脳神経内科	4,380	24	4,508	22	4,041	22	4,189	21
呼吸器内科	11,105	79	11,734	60	10,781	71	11,783	35
消化器内科	10,939	43	12,183	41	12,017	62	12,282	55
糖尿病・代謝内科	6,399	12	6,739	11	6,864	5	7,242	3
循環器内科	6,970	3	7,833	9	8,456	2	9,372	1
小児科	9,018	0	9,085	0	5,710	0	6,736	0
外 科	7,655	22	9,538	16	9,823	12	11,061	6
整形外科	24,035	1,141	22,791	958	23,370	1,141	24,352	1,240
形成外科	3,155	38	2,800	36	2,464	21	2,300	16
脳神経外科	2,473	32	2,543	48	2,585	42	2,544	34
心臓血管外科	1,873	0	1,700	0	1,662	0	1,611	0
皮膚科	5,597	51	7,121	24	6,840	55	6,913	56
泌尿器科	6,669	192	6,612	180	6,143	165	6,307	148
産婦人科	8,060	1	8,600	0	8,019	0	6,666	0
眼 科	3,819	18	5,258	37	6,395	78	5,754	85
耳鼻咽喉科	7,974	8	9,009	6	8,076	28	8,190	8
放射線科	4,001	2	3,983	5	3,854	3	3,924	2
麻酔科	2,629	46	2,788	54	2,687	55	2,340	56
リハビリテーション科	-	-	-	-	1,224	7	1,265	22
医療相談科	345	0	384	0	287	0	250	0
合 計	132,235	1,729	140,849	1,519	136,637	1,780	140,033	1,791

⑤外来科別初再診別患者数

	初診患者延数				再診患者延数			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内 科	2,117	2,160	1,689	1,810	1,677	1,718	1,904	2,254
精神科	406	468	452	424	939	1,294	1,294	464
脳神経内科	1,223	1,245	1,120	1,019	3,157	3,263	2,921	3,170
呼吸器内科	1,977	2,051	1,588	2,143	9,128	9,683	9,193	9,640
消化器内科	2,000	2,057	1,845	1,768	8,939	10,126	10,172	10,514
糖尿病・代謝内科	637	687	632	723	5,762	6,052	6,232	6,519
循環器内科	1,473	1,410	1,390	1,444	5,497	6,423	7,066	7,928
小児科	2,115	2,245	1,315	1,726	6,903	6,840	4,395	5,010
外 科	986	1,250	1,112	1,108	6,669	8,288	8,711	9,953
整形外科	4,611	4,339	3,983	3,998	19,424	18,452	19,387	20,354
形成外科	948	873	687	630	2,207	1,927	1,777	1,670
脳神経外科	995	955	874	751	1,478	1,588	1,711	1,793
心臓血管外科	277	256	224	203	1,596	1,444	1,438	1,408
皮膚科	1,642	1,844	1,489	1,485	3,955	5,277	5,351	5,428
泌尿器科	936	987	776	845	5,733	5,625	5,367	5,462
産婦人科	795	854	761	577	7,265	7,746	7,258	6,089
眼 科	762	850	676	625	3,057	4,408	5,719	5,129
耳鼻咽喉科	1,919	1,882	1,402	1,449	6,055	7,127	6,674	6,741
放射線科	940	938	853	849	3,061	3,045	3,001	3,075
麻酔科	2,264	2,328	1,930	1,697	365	460	757	643
リハビリテーション科	-	-	1,038	933	-	-	-	332
医療相談科	341	384	281	242	4	0	6	8
合 計	29,364	30,063	26,117	26,449	102,871	110,786	110,334	113,584

疾病構成

ICD-10 疾病大分類別退院患者数 (R3年度)

ICD-10 疾病大分類	患者数				平均年齢	平均在院日数	死亡数	死亡率
	計	%	男	女				
総数	9,018	-	4,540	4,478	65.7	14.4	429	4.8%
1 A00-B99 感染症及び寄生虫症	176	2.0%	89	87	55.0	14.3	13	7.4%
2 C00-D48 新生物(腫瘍)	1,932	21.4%	868	1,064	67.9	13.1	115	6.0%
3 D50-D89 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	25	0.3%	5	20	73.4	12.0	4	16.0%
4 E00-E90 内分泌、栄養及び代謝疾患	184	2.0%	104	80	60.5	14.0	7	3.8%
5 F00-F99 精神及び行動の障害	8	0.1%	4	4	49.4	6.9	0	0.0%
6 G00-G99 神経系の疾患	236	2.6%	146	90	58.9	12.0	7	3.0%
7 H00-H59 眼及び付属器の疾患	128	1.4%	61	67	75.1	3.2	0	0.0%
8 H60-H95 耳及び乳様突起の疾患	86	1.0%	40	46	50.1	6.7	0	0.0%
9 I00-I99 循環器系の疾患	1,655	18.4%	938	717	75.9	14.8	135	8.2%
10 J00-J99 呼吸器系の疾患	971	10.8%	564	407	58.5	15.9	84	8.7%
11 K00-K93 消化器系の疾患	1,071	11.9%	575	496	66.8	11.4	28	2.6%
12 L00-L99 皮膚及び皮下組織の疾患	88	1.0%	45	43	65.0	15.1	*	2.3%
13 M00-M99 筋骨格系及び結合組織の疾患	639	7.1%	339	300	67.9	22.9	0	0.0%
14 N00-N99 腎尿路生殖器系の疾患	306	3.4%	133	173	69.6	13.0	8	2.6%
15 O00-O99 妊娠、分娩及び産じょく(褥)	119	1.3%	0	119	32.3	10.3	0	0.0%
16 P00-P96 周産期に発生した病態	62	0.7%	37	25	0.0	9.0	0	0.0%
17 Q00-Q99 先天奇形、変形及び染色体異常	58	0.6%	32	26	17.7	7.5	0	0.0%
18 R00-R99 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	47	0.5%	27	20	61.1	5.8	*	4.3%
19 S00-T98 損傷・中毒及びその他の外因の影響	1,027	11.4%	437	590	65.9	18.4	22	2.1%
21 Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	23	0.3%	4	19	41.4	4.1	0	0.0%
22 U00-U89 原因不明の新たな疾患又はエマージェンシーコードの暫定分類(新型コロナウイルス感染症)	177	2.0%	92	85	53.3	9.7	*	1.1%

上位20疾患 退院患者数 (R3年度)

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C50	乳房の悪性新生物	380	4.2%	*	378	62.0	6.4	*
2	C34	気管支および肺の悪性新生物	372	4.1%	247	125	70.5	14.1	30
3	I50	心不全	320	3.5%	168	152	81.8	21.0	33
4	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	280	3.1%	161	119	85.5	24.2	46
5	I20	狭心症	271	3.0%	170	101	73.8	5.6	0
6	I63	脳梗塞	224	2.5%	124	100	78.7	19.5	6
7	K63	腸のその他の疾患	213	2.4%	135	78	67.8	3.6	0
8	M48	その他の脊椎障害	207	2.3%	133	74	72.0	18.6	0
9	S72	大腿骨骨折	201	2.2%	36	165	83.2	28.9	*
10	U07	新型コロナウイルス感染症2019	175	1.9%	91	84	53.0	9.8	*
11	C18	結腸の悪性新生物	172	1.9%	98	74	71.9	17.4	10
12	I48	心房細動及び粗動	151	1.7%	101	50	71.4	6.3	0
13	K80	胆石症	130	1.4%	59	71	71.7	10.1	0
14	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	118	1.3%	71	47	72.4	18.0	8
15	N39	尿路系のその他の障害	113	1.3%	41	72	73.4	14.5	*
16	H25	老人性白内障	106	1.2%	50	56	76.4	3.0	0
17	S52	前腕の骨折	104	1.2%	40	64	55.2	11.5	0
18	S32	腰椎及び骨盤の骨折	101	1.1%	33	68	79.4	19.5	0
19	I70	アテローム(じゅく<粥>状)硬化(症)	101	1.1%	60	41	77.2	16.1	*
20	E11	糖尿病	91	1.0%	63	28	65.5	16.6	*

悪性新生物 上位20疾患 退院患者数(R3年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均 在院日数	死亡退院
1	C50	乳房の悪性新生物	380	4.2%	*	378	62.0	6.4	*
2	C34	気管支および肺の悪性新生物	372	4.1%	247	125	70.5	14.1	30
3	C18	結腸の悪性新生物	172	1.9%	98	74	71.9	17.4	10
4	C61	前立腺の悪性新生物	78	0.9%	78	0	74.4	8.1	6
5	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	75	0.8%	60	15	71.3	16.5	12
6	C56	卵巣の悪性新生物	71	0.8%	0	71	65.5	5.9	*
7	C67	膀胱の悪性新生物	71	0.8%	51	20	77.4	8.5	*
8	C16	胃の悪性新生物	58	0.6%	35	23	73.8	25.8	11
9	C20	直腸の悪性新生物	57	0.6%	36	21	70.9	15.1	*
10	C25	脾の悪性新生物	54	0.6%	35	19	74.2	19.9	10
11	C54	子宮体部の悪性新生物	42	0.5%	0	42	66.2	6.3	0
12	C24	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物	28	0.3%	12	16	76.9	23.2	*
13	C53	子宮頸部の悪性新生物	27	0.3%	0	27	78.9	12.4	*
14	C44	皮膚その他の悪性新生物	27	0.3%	13	14	78.1	13.1	0
15	C15	食道の悪性新生物	23	0.3%	23	0	70.6	23.5	*
16	C32	喉頭の悪性新生物	21	0.2%	20	*	66.3	24.5	*
17	C65	腎盂の悪性新生物	15	0.2%	6	9	77.1	17.2	*
18	C73	甲状腺の悪性新生物	13	0.1%	*	11	63.4	13.7	0
19	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	13	0.1%	9	4	70.9	11.7	*
20	C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物	11	0.1%	4	7	76.9	13.9	*

診療科別・疾患別 退院患者分類 (R3年度)

糖尿病代謝内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	E11	2型<インスリン非依存型>糖尿病(NIDDM)	85	46.2%	65.6	15.6
2	E87	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	13	7.1%	70.5	16.4
3	N39	尿路系のその他の障害	13	7.1%	85.3	15.8
4	I46	心停止	6	3.3%	82.8	1.0
5	N10	急性尿細管間質性腎炎	5	2.7%	74.4	17.2
5	E16	その他の膵内分泌障害	5	2.7%	85.0	9.0

脳神経内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I63	脳梗塞	212	59.7%	78.9	18.5
2	G40	てんかん	31	8.7%	68.8	13.7
3	G45	一過性脳虚血発作及び関連症候群	15	4.2%	73.8	5.3
4	G20	パーキンソン<Parkinson>病	12	3.4%	76.3	22.9
5	H81	前庭機能障害	7	2.0%	75.9	7.4
	G03	その他及び詳細不明の原因による髄膜炎	6	1.7%	34.3	10.8
	I69	脳血管疾患の続発・後遺症	5	1.4%	79.6	9.6
	G35	多発性硬化症	5	1.4%	30.0	5.4
	G41	てんかん重積(状態)	4	1.1%	77.3	10.8
	G12	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	*	0.8%	74.7	12.3

呼吸器内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	293	24.6%	70.4	14.8
2	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	243	20.4%	86.0	22.2
3	U07	コロナウイルス感染症2019	154	12.9%	57.3	10.1
4	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	106	8.9%	75.5	18.6
5	J84	その他の間質性肺疾患	63	5.3%	80.6	28.0
6	N39	尿路系のその他の障害	25	2.1%	84.0	15.6
7	J44	その他の慢性閉塞性肺疾患	20	1.7%	78.3	16.6
8	J93	気胸	18	1.5%	63.8	10.7
9	J90	胸水、他に分類されないもの	14	1.2%	77.9	20.1
10	I46	心停止	14	1.2%	87.2	2.4

消化器内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	K63	腸のその他の疾患	209	20.1%	68.0	3.3
2	K80	胆石症	79	7.6%	74.8	9.9
3	K57	腸の憩室性疾患	61	5.9%	70.8	10.3
4	C18	結腸の悪性新生物	55	5.3%	73.7	14.5
5	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	54	5.2%	71.1	16.6
6	K83	胆道のその他の疾患	51	4.9%	79.4	15.5
7	K74	肝線維症及び肝硬変	44	4.2%	75.7	19.6
8	N39	尿路系のその他の障害	36	3.5%	84.7	19.2
9	C25	膵の悪性新生物	35	3.4%	74.9	18.7
10	K85	急性膵炎	25	2.4%	57.7	19.2

循環器内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I50	心不全	300	24.8%	81.7	20.4
2	I20	狭心症	266	22.0%	73.8	5.1
3	I48	心房細動及び粗動	150	12.4%	71.4	6.2
4	I70	アテローム(じゅく(粥)状)硬化(症)	100	8.3%	77.2	15.7
5	I25	慢性虚血性心疾患	68	5.6%	70.6	4.3
6	I21	急性心筋梗塞	59	4.9%	72.2	14.2
7	I49	その他の不整脈	47	3.9%	75.7	13.0
8	I44	房室ブロック及び左脚ブロック	38	3.1%	82.7	11.5
9	I47	発作性頻拍(症)	34	2.8%	67.2	10.3
10	I74	動脈の塞栓症及び血栓症	15	1.2%	76.6	23.1

小児科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J21	急性細気管支炎	73	19.9%	0.7	4.2
2	J45	喘息	23	6.3%	1.9	3.9
3	J06	多部位及び部位不明の急性上気道感染症	18	4.9%	1.2	3.9
4	A08	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	18	4.9%	3.6	3.3
5	J20	急性気管支炎	18	4.9%	2.6	4.3
6	E86	体液量減少(症)	17	4.6%	2.8	3.8
7	U07	コロナウイルス感染症2019	15	4.1%	8.1	6.5
8	M30	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	14	3.8%	1.7	7.9
9	N39	尿路系のその他の障害	13	3.5%	0.9	6.3
10	J02	急性咽頭炎	12	3.3%	2.8	3.8

外科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C50	乳房の悪性新生物	379	27.0%	61.9	6.3
2	C18	結腸の悪性新生物	116	8.3%	71.1	18.9
3	K40	そけい(鼠径)ヘルニア	73	5.2%	52.2	6.6
4	C34	気管支及び肺の悪性新生物	71	5.1%	70.5	11.1
5	K35	急性虫垂炎	59	4.2%	34.1	5.8
6	C20	直腸の悪性新生物	54	3.8%	70.5	15.3
7	K80	胆石症	49	3.5%	66.1	9.5
8	K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	48	3.4%	74.3	14.7
9	K81	胆のう<嚢>炎	45	3.2%	77.2	12.2
10	C16	胃の悪性新生物	34	2.4%	72.0	33.8

整形外科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	M48	その他の脊椎障害	207	14.3%	72.0	18.6
2	S72	大腿骨骨折	190	13.1%	83.0	28.0
3	S52	前腕の骨折	103	7.1%	55.0	11.5
4	S32	腰椎及び骨盤の骨折	98	6.8%	79.3	18.9
5	M47	脊椎症	81	5.6%	73.0	23.8
6	M51	その他の椎間板障害	80	5.5%	55.7	15.3
7	S82	下腿の骨折、足首を含む	71	4.9%	61.1	20.5
8	S42	肩及び上腕の骨折	66	4.6%	47.8	11.5
9	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	55	3.8%	76.9	17.8
10	M17	膝関節症[膝の関節症]	51	3.5%	72.3	38.1

形成外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C44	皮膚のその他の悪性新生物	12	18.8%	75.1	9.3
2	D23	皮膚のその他の良性新生物	12	18.8%	46.8	5.3
3	D17	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫含む)	7	10.9%	53.7	8.4
4	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	6	9.4%	33.0	4.2
5	D22	メラニン細胞性母斑	6	9.4%	7.7	5.0

脳神経外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S06	頭蓋内損傷	67	31.2%	73.6	20.2
2	I61	脳内出血	66	30.7%	75.7	32.3
3	I60	くも膜下出血	12	5.6%	70.0	67.7
4	C71	脳の悪性新生物	10	4.7%	71.7	50.3
5	G91	水頭症	8	3.7%	76.5	30.5

心臓血管外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I71	大動脈瘤及び解離	34	38.6%	76.1	18.1
2	I83	下肢の静脈瘤	26	29.5%	67.3	3.3
3	I20	狭心症	5	5.7%	70.8	28.6
4	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	5	5.7%	73.2	28.8
5	I50	心不全	4	4.5%	78.0	61.5
6	I34	非リウマチ性僧帽弁障害	4	4.5%	69.5	20.5

皮膚科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	L03	蜂巣炎<蜂窩織炎>	31	27.0%	73.0	13.3
2	C44	皮膚のその他の悪性新生物	15	13.0%	80.5	16.1
3	B02	帯状疱疹[帯状ヘルペス]	14	12.2%	75.0	8.1
4	L89	じょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域	6	5.2%	81.8	18.5
5	L12	類天疱瘡	6	5.2%	72.8	34.7

泌尿器科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C61	前立腺の悪性新生物	74	21.3%	73.9	7.6
2	C67	膀胱の悪性新生物	71	20.5%	77.4	8.5
3	N20	腎結石及び尿管結石	37	10.7%	73.2	9.8
4	N10	急性尿細管間質性腎炎	27	7.8%	78.9	17.3
5	N39	尿路系のその他の障害	19	5.5%	81.3	9.4
6	N40	前立腺肥大(症)	17	4.9%	75.1	10.5
7	C65	腎盂の悪性新生物	15	4.3%	77.1	17.2
8	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	12	3.5%	70.8	11.8
9	C66	尿管の悪性新生物	10	2.9%	76.6	11.2
10	N30	膀胱炎	9	2.6%	82.3	9.9

産婦人科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C56	卵巣の悪性新生物	68	19.2%	65.6	5.2
2	C54	子宮体部の悪性新生物	42	11.9%	66.2	6.3
3	C53	子宮頸部の悪性新生物	27	7.6%	78.9	12.4
4	D27	卵巣の良性新生物	21	5.9%	50.6	11.1
5	P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	20	5.6%	0.0	8.9
6	O80	単胎自然分娩	19	5.4%	33.8	6.4
7	O62	娩出力の異常	14	4.0%	29.4	7.9
8	O60	切迫早産及び早産	13	3.7%	31.5	20.5
9	D25	子宮平滑筋腫	12	3.4%	42.1	11.0
10	O24	妊娠中の糖尿病	10	2.8%	35.0	9.3

眼科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	H25	老人性白内障	106	83.5%	76.4	3.0
2	H11	結膜その他の障害	11	8.7%	72.5	2.1
3	H28	他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	3	2.4%	67.3	3.0

耳鼻咽喉科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	60	11.9%	18.5	6.9
2	J32	慢性副鼻腔炎	56	11.1%	54.7	7.2
3	G47	睡眠障害	43	8.5%	40.9	2.0
4	H91	その他の難聴	34	6.7%	58.0	9.5
5	G51	顔面神経障害	29	5.8%	57.7	9.5
6	H81	前庭機能障害	23	4.6%	70.7	5.2
7	C32	喉頭の悪性新生物	21	4.2%	66.3	24.5
8	J36	扁桃周囲膿瘍	17	3.4%	44.9	6.6
9	J38	声帯及び喉頭の疾患、他に分類されないもの	16	3.2%	54.4	6.0
10	H65	非化膿性中耳炎	16	3.2%	3.8	3.0

リハビリテーション科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	*	50.0%	83.5	18.5
2	T95	熱傷、腐食及び凍傷の続発・後遺症	*	25.0%	24.0	64.0
3	S32	腰椎及び骨盤の骨折	*	25.0%	88.0	12.0

※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は[*]で掲載しています。

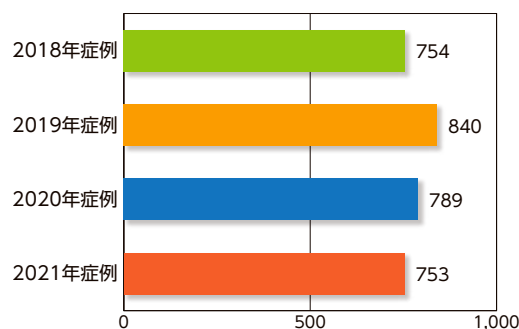
院内がん登録データに係る統計 –2021年診断症例–

2021年症例の院内がん登録件数は753件で2020年より36件減少した。登録上位5部位は、「肺」135件、「乳房」115件、「大腸」95件、「皮膚」50件、「尿路系」50件であった。2020年と比較して登録件数は減少したが、部位別で見ると特に増加したのは「乳房」29件であった。大きく減少した部位は「子宮」▲37件であった。

男女別登録数は男性371件、女性382件で、女性の方が11件多かった。登録件数の最も多い肺癌では男性89件、女性46件と男性が女性の約2倍となっている。

罹患数の多くを70～79歳が占めており、男性は60歳台から増え始める。一方女性は30歳台から増え始め、その多くが乳房、子宮頸部である。

登録件数

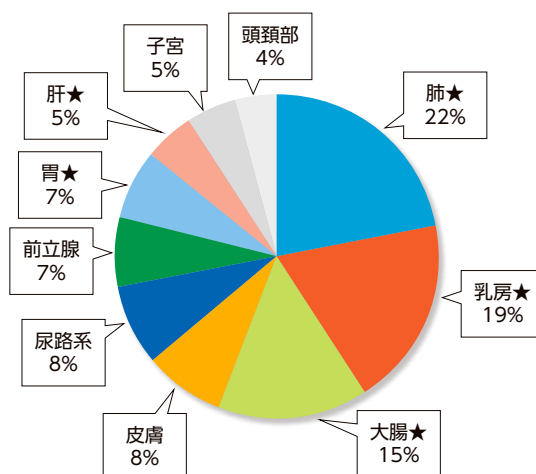


診断年別主要部位別登録件数

部位	2019年	2020年	2021年
肺★	131	128	135
乳房★	84	86	115
大腸★	94	93	95
皮膚	51	50	50
尿路系	54	45	50
前立腺	72	51	45
胃★	52	56	41
肝★	34	30	33
子宮	82	65	28
頭頸部	36	26	27
脾	28	35	21
悪性血液	23	24	17
脳脊髄	17	31	16
甲状腺	13	9	16
食道	13	9	12
その他	56	51	52

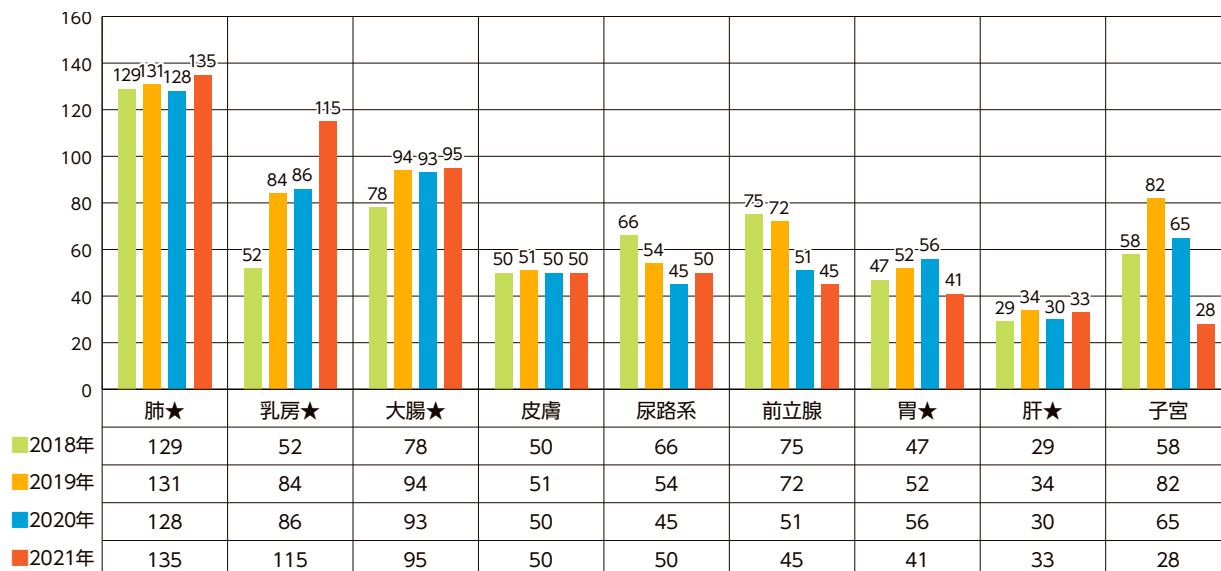
★は5大部位

登録上位10部位別登録割合



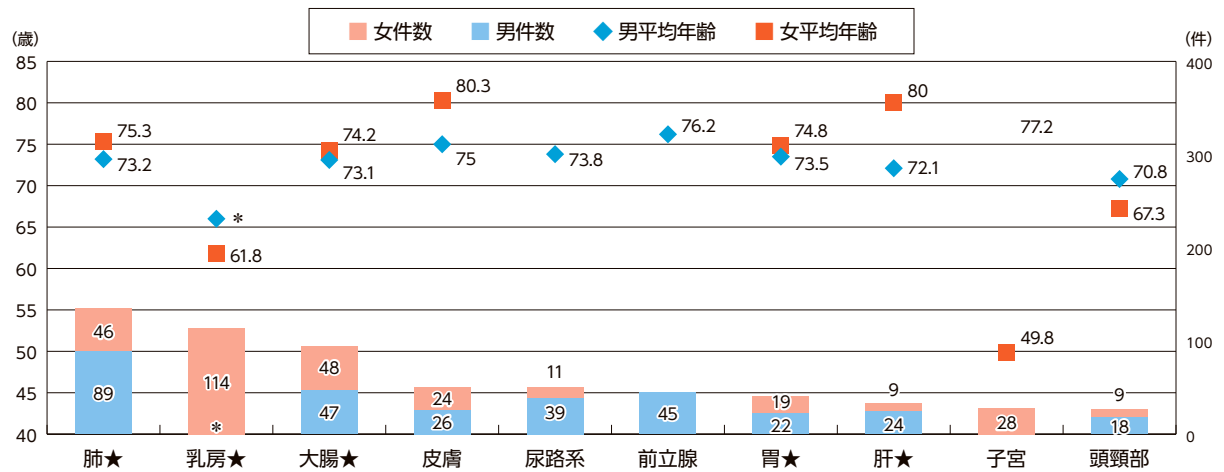
※大腸は結腸(72件)と直腸(23件)
 ※尿路系は膀胱(26件)、腎(11件)、腎盂(5件)、尿管(8件)
 ※子宮は子宮頸部(19件)と体部(9件)
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫、骨髄腫、他の造血器腫瘍

2021年登録上位10部位



※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は「*」で掲載しています。

性別登録上位10部位別件数と平均年齢



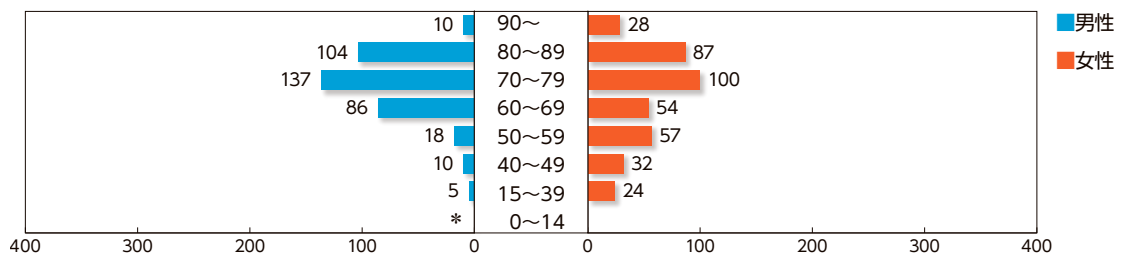
性別年代別登録内訳と年齢分布

★は5大部位

性別全体	0~14歳		15~39歳		40~49歳		50~59歳	
	肺★							
大腸★								
前立腺								
尿路系								
皮膚								
肝★								
胃★								
その他								
頭頸部								
食道								
悪性血液								
脳脊髄								
甲状腺								
乳房★								
計								

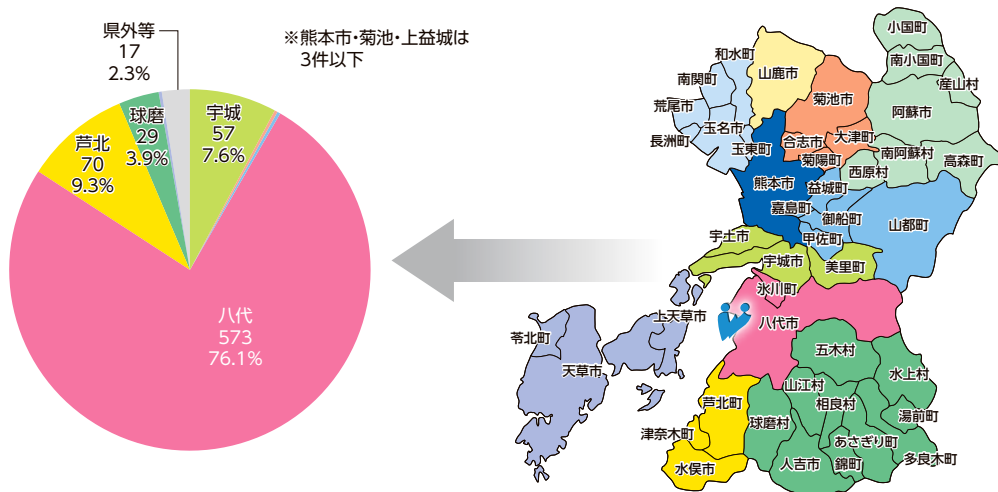
女性全体	0~14歳		15~39歳		40~49歳		50~59歳	
	乳房★							
大腸★								
肺★								
その他								
子宮								
皮膚								
胃★								
甲状腺								
脳脊髄								
尿路系								
頭頸部								
肝★								
脾								
悪性血液								
食道								
計								

年齢分布

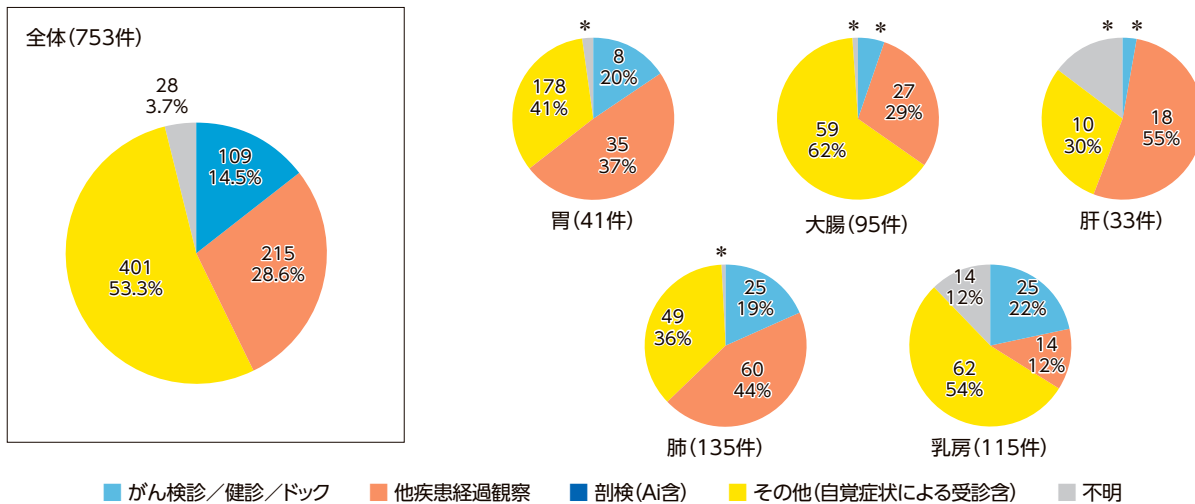


臨床業績

患者住所 医療圏別登録の状況

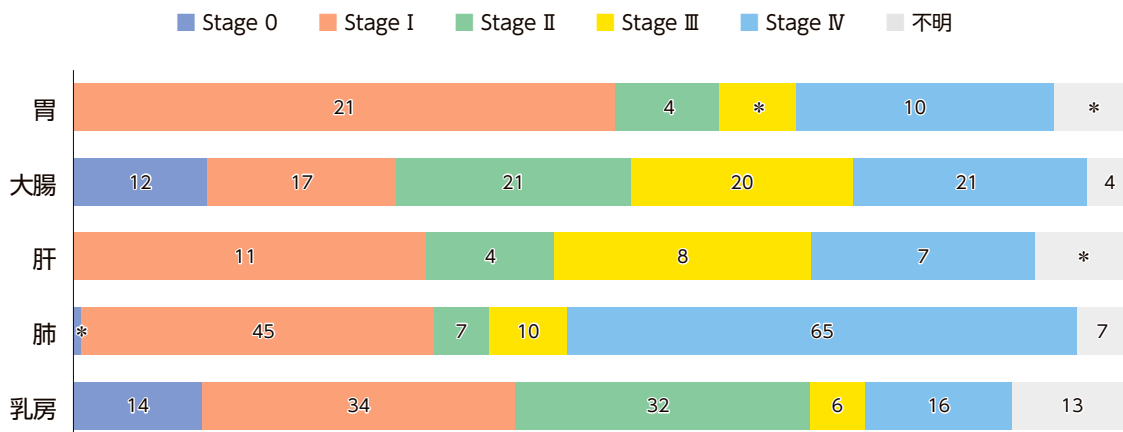


発見経緯 5大部位の内訳



臨床業績

5大部位別Stage件数

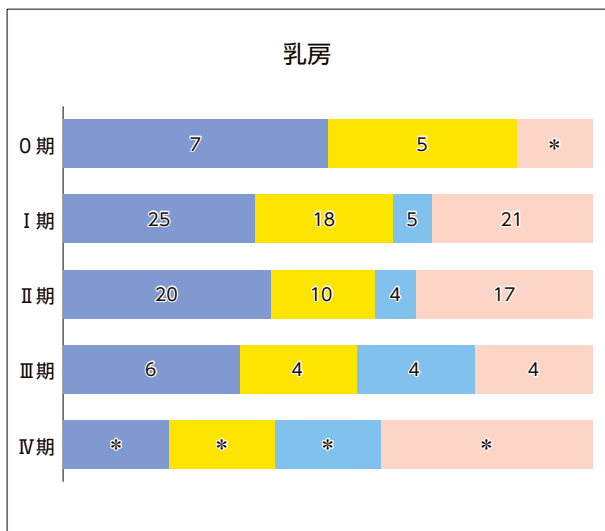
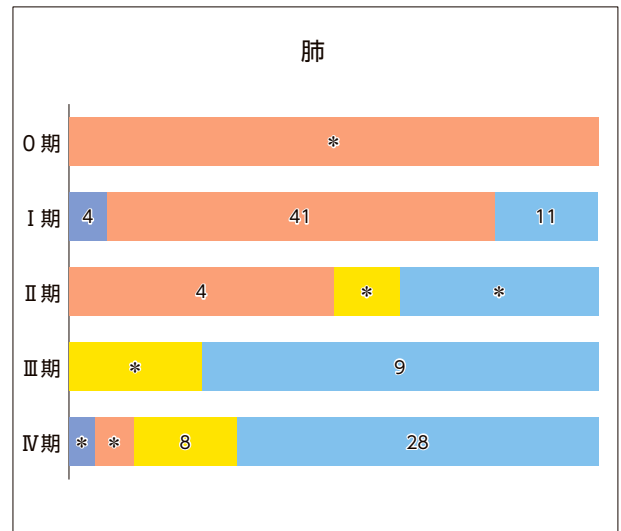
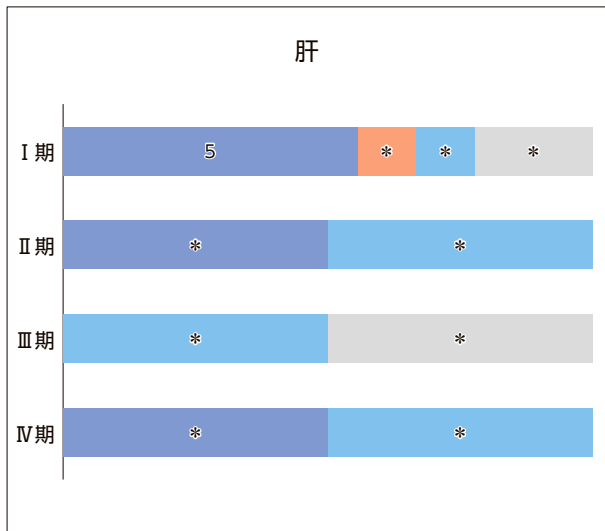
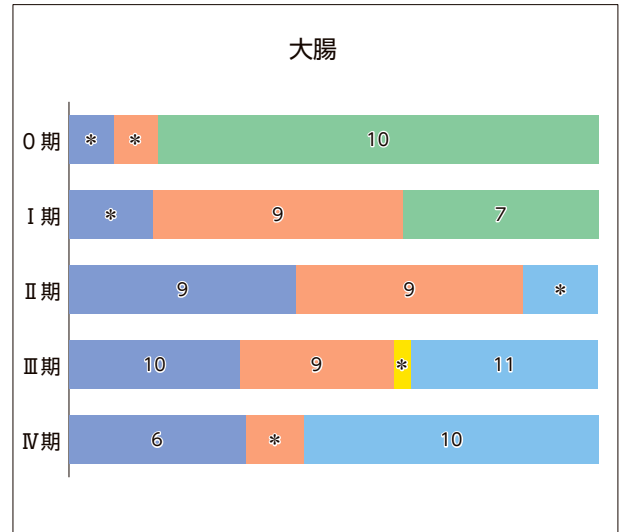
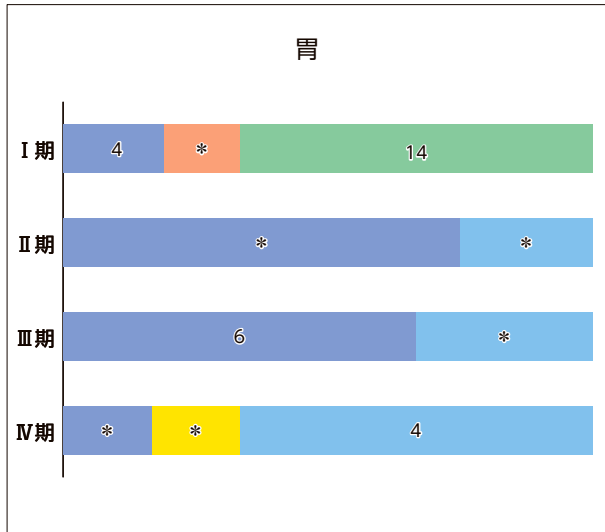


※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】

(術前治療なし・観血的治療例はp Stage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はc Stage)

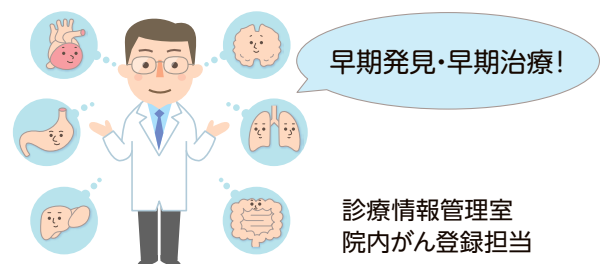
5大部位(総合Stage別)の治療件数

■ 外科的 ■ 体腔鏡的 ■ 内視鏡的 ■ 放射線 ■ 化学 ■ 内分泌 ■ その他(RFA等)



全登録部位において、自施設初回治療もしくはその継続治療を行った症例587件は、手術(外科、鏡視下、内視鏡)388件、放射線療法97件、化学療法152件、内分泌療法84件、その他の治療3件、経過観察のみ(症状緩和的治療のみ含む)84件であり、例年と同じく手術が最も多くなっている。登録件数の一番多い肺癌ではstageIVの割合が約48%を占め、外科的治療が出来ない症例が多くみられた。

※ 初回治療+継続治療症例のみ集計
 ※ 治療は単独、複数に関わらず各々計算



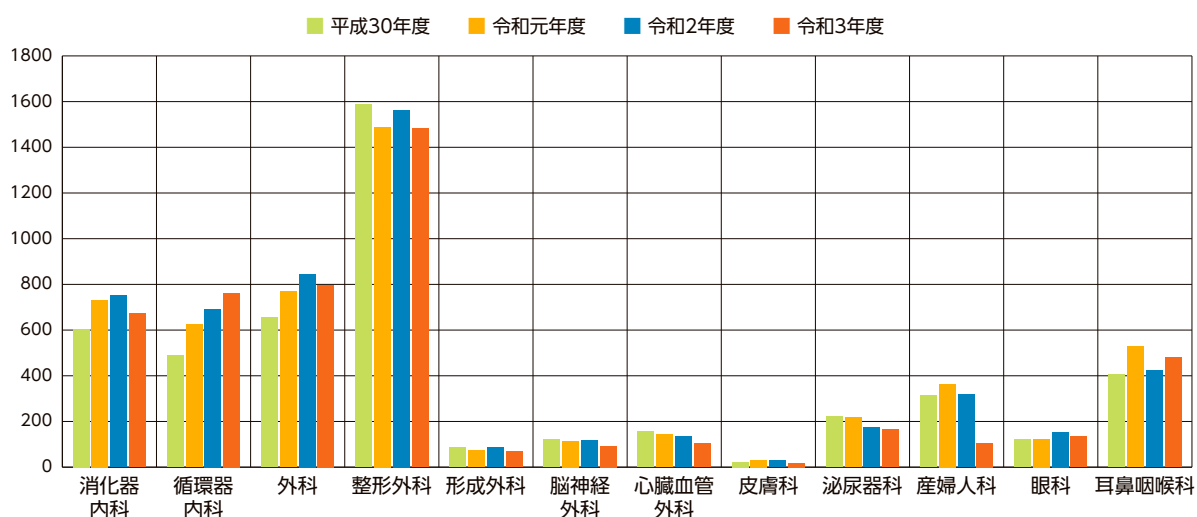
高度医療

単価（年度実績4-3月）

	1人1日当り単価(入院)				1人1日当り単価(外来)			
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内科	-	-	-	-	18,744	18,766	19,239	20,447
精神科	-	33,458	-	-	2,774	3,830	3,732	2,241
脳神経内科	45,795	46,302	49,046	50,493	12,574	13,112	11,091	10,800
呼吸器内科	42,764	44,466	48,379	51,332	32,369	31,708	37,291	36,728
消化器内科	49,651	47,277	51,790	50,054	19,602	20,789	23,423	27,044
糖尿病・代謝内科	35,366	35,649	38,632	42,544	10,844	10,796	11,058	11,308
循環器内科	94,986	114,288	118,319	110,396	15,567	15,001	16,448	15,494
小児科	62,789	65,933	65,640	66,304	13,662	16,604	22,921	21,207
外科	78,413	82,661	82,920	80,382	24,662	21,379	22,488	22,601
整形外科	58,376	58,803	61,195	60,635	9,717	9,496	9,366	9,437
形成外科	52,862	57,024	57,990	62,222	7,167	7,645	7,995	7,129
脳神経外科	60,411	59,874	57,073	56,406	13,367	13,687	13,803	13,305
心臓血管外科	123,607	130,062	146,607	169,075	14,145	14,158	14,382	14,197
皮膚科	37,198	43,566	44,731	41,906	8,340	8,499	8,012	7,584
泌尿器科	56,406	58,665	58,638	59,217	16,506	18,593	19,984	20,135
産婦人科	62,342	66,110	67,500	69,936	8,942	10,057	8,846	8,525
眼科	128,415	99,358	103,051	105,309	6,741	7,219	8,510	10,228
耳鼻咽喉科	51,778	52,458	58,594	60,586	11,855	11,352	12,374	11,877
放射線科	-	-	-	-	27,058	25,119	28,392	26,131
麻酔科	-	-	-	-	66	127	98	249
理学診療科	-	-	35,107	38,234	-	-	13	264
医療相談科	-	-	-	-	31,336	31,308	30,427	32,316
合計	59,906	62,689	66,582	66,656	14,956	15,111	16,030	16,582

臨床業績

手術（年度実績4-3月）

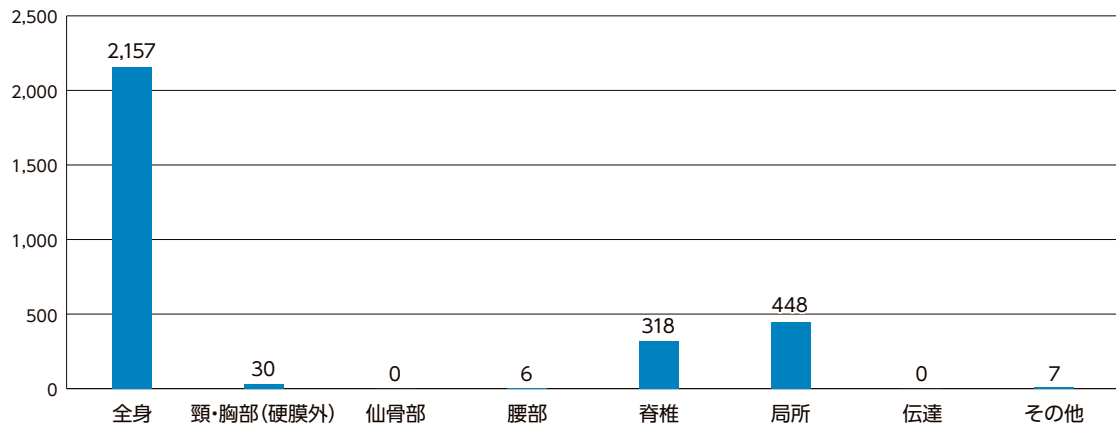


	消化器内科	循環器内科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
平成30年度	604	488	655	1,586	87	120	156	23	221	314	121	405	4,780
令和元年度	731	625	768	1,489	73	114	142	32	218	364	123	527	5,206
令和2年度	752	693	846	1,563	85	116	135	28	173	317	154	422	5,284
令和3年度	672	762	798	1,483	68	93	103	18	164	106	134	480	4,881

※入院と外来の手術室内手術件数(ただし、循環器内科と消化器内科については手術室外で行うため計上している)

麻酔（年度実績4-3月）

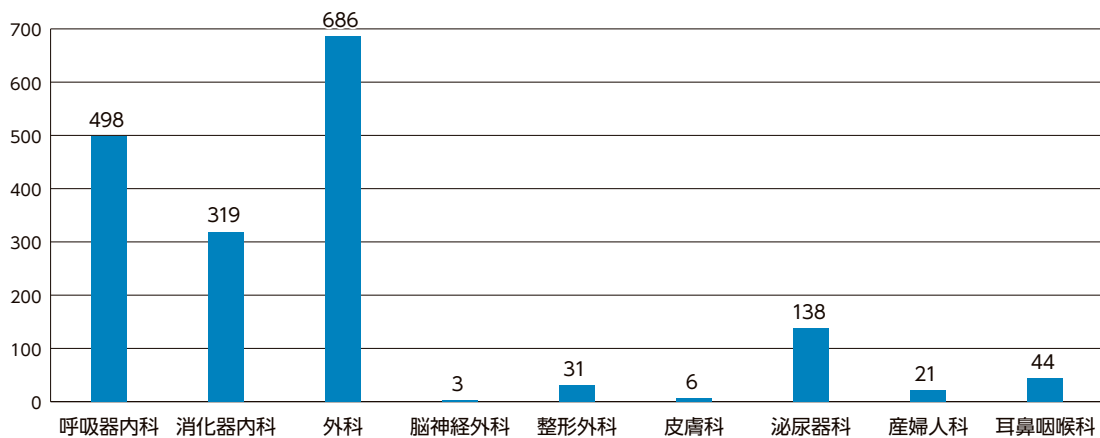
麻酔法別件数(令和3年度)



	全身	頸・胸部 (硬膜外)	仙骨部	腰部	脊椎	局所	伝達	その他
令和3年度	2,157	30	0	6	318	448	0	7
※参考 令和2年度	2,371	34	2	1	434	465	1	9

外来化学療法加算（年度実績4-3月）

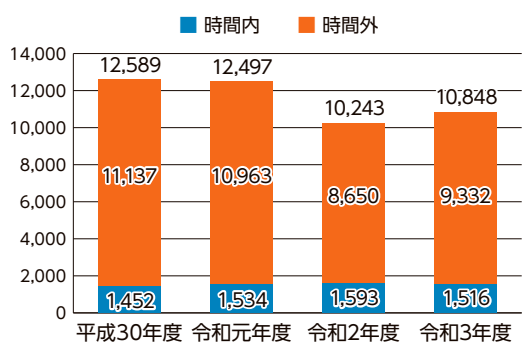
化学療法加算件数(令和3年度)



	呼吸器 内科	消化器 内科	外科	脳神経 外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻 咽喉科
令和3年度	498	319	686	3	31	6	138	21	44
※参考 令和2年度	552	274	680	0	30	12	124	36	61

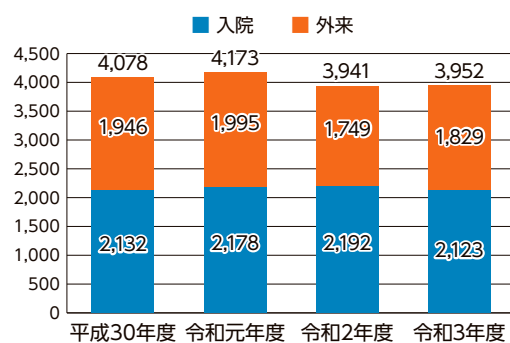
救急医療(年度実績4-3月)

救急患者数(時間内・時間外別)



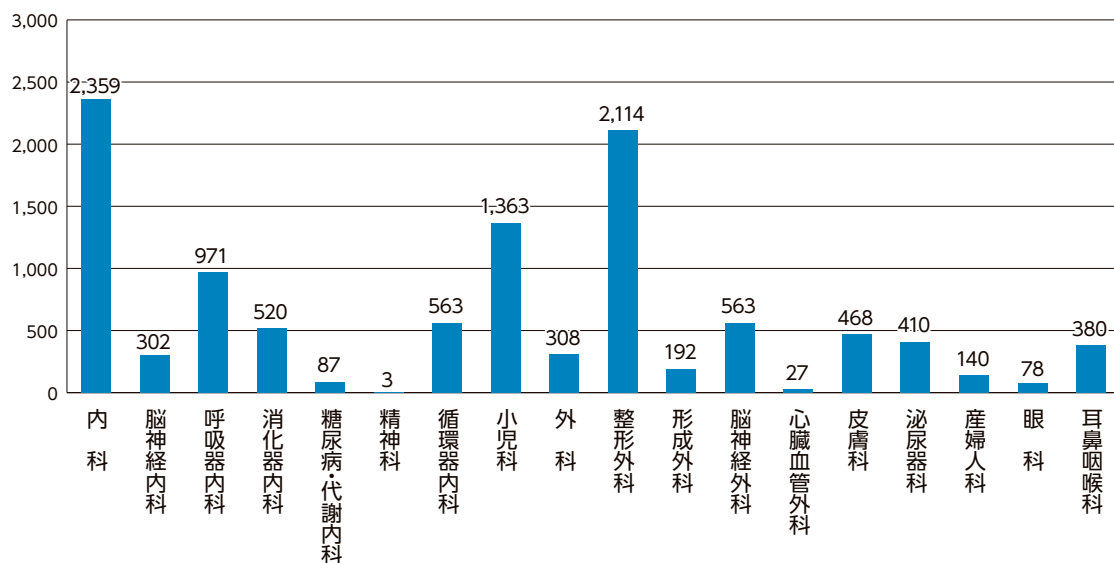
	時間内	時間外	合計
平成30年度	1,452	11,137	12,589
令和元年度	1,534	10,963	12,497
令和2年度	1,593	8,650	10,243
令和3年度	1,516	9,332	10,848

救急車搬送患者数(入院・外来別)(ヘリ含む)



	入院	外来	合計
平成30年度	2,132	1,946	4,078
令和元年度	2,178	1,995	4,173
令和2年度	2,192	1,749	3,941
令和3年度	2,123	1,829	3,952

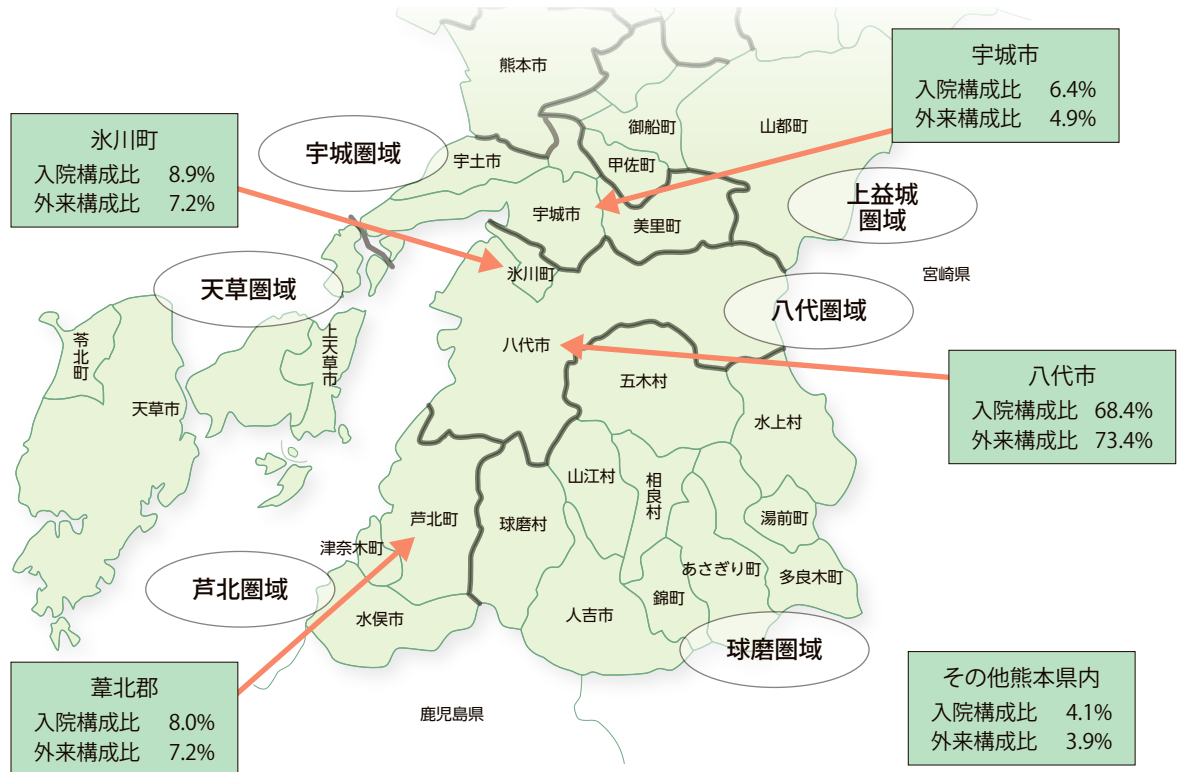
診療科別救急患者数(令和3年度)



	令和3年度	※参考 令和2年度
内科	2,359	2,279
脳神経内科	302	378
呼吸器内科	971	682
消化器内科	520	512
糖尿病・代謝内科	87	80
精神科	3	3
循環器内科	563	551
小児科	1,363	964
外科	308	319

	令和3年度	※参考 令和2年度
整形外科	2,114	2,136
形成外科	192	193
脳神経外科	563	646
心臓血管外科	27	50
皮膚科	468	458
泌尿器科	410	352
産婦人科	140	144
眼科	78	62
耳鼻咽喉科	380	434
合計	10,848	10,243

地域医療(年度実績4-3月)



			入院患者				外来患者			
			延患者数		労災患者		延患者数		労災患者	
					構成比 (%)	構成比 (%)			構成比 (%)	構成比 (%)
熊本県	八代医療圏	八代市	83,256	68.4	908	60.9	102,741	73.4	1,297	72.4
		氷川町	10,862	8.9	34	2.3	10,095	7.2	118	6.6
		小計	94,118	77.3	942	63.2	112,836	80.6	1,415	79.0
		葦北郡	9,751	8.0	42	2.8	10,034	7.2	44	2.5
		宇城市	7,832	6.4	84	5.6	6,865	4.9	90	5.0
		球磨郡	2,722	2.2	162	10.9	2,648	1.9	57	3.2
		その他県内	4,975	4.1	230	15.4	5,443	3.9	142	7.9
		熊本県 計	119,398	98.1	1,460	97.9	137,826	98.4	1,748	97.6
福岡県			173	0.1	18	1.2	340	0.2	11	0.6
鹿児島県			1,409	1.2	9	0.6	1,116	0.8	2	0.1
その他			701	0.6	4	0.3	751	0.5	30	1.7
合計			121,681	100.0	1,491	100.0	140,033	100.0	1,791	100.0



独立行政法人労働者健康安全機構
熊本労災病院

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405
<https://kumamotoh.johas.go.jp>



HP



フェイスブック
熊本労災病院公式